地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査
報告書

平成18年3月

財団法人　地震予知総合研究振興会
地震調査研究センター

本調査は、平成 17 年度に財団法人地震予知総合研究振興会地震調査研究センターが、文部科学省からの委託事業として実施した。「調査結果のまとめ」については、調査全般にご協力をいただいた、東洋大学社会学部田中淳教授および同大学社会学部中村功教授に結果の分析を依頼し、とりまとめていただいたものである。

目　　次

Ⅰ　調査概要

１　はじめに　・・・１
２　アンケート調査について
　１）調査方法　・・・２
　　①目的
　　②対象地域
　　③調査手法
　　④調査対象
　　⑤抽出方法
　　⑥調査期間
　　⑦アンケート調査実施体制
　２）集計結果　・・・２
　　①回収数
　　②集計にあたって
　３）ワーキンググループの設置について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　　①目的
　　②構成メンバー
　　③会議日程・審議内容等

Ⅱ　回答者の属性

回答者の属性　・・３

Ⅲ　調査結果

１　名古屋市調査　・・・６
２　松本市調査　・・２６

Ⅳ　調査結果のまとめ

１　大地震への切迫感・不安感　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
２　長期評価の認知　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１
３　発生確率発表の効果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２
４　確率表現の評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３
５　地震動予測地図についての印象
　１）「確率論的地震動予測地図」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５
　２）「震源断層を特定した地震動予測地図」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
６　長期評価発表の防災対策への影響度
　１）防災意識向上に対する影響度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１
　２）耐震対策への影響度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６３

Ⅴ　自由記述

１　名古屋市　・・・６５
２　松本市　・・６７

資料

調査票（名古屋市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
調査票（松本市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７８
調査で用いた確率論的地震動予測地図と震源断層を特定した地震動予測地図　・・・・・・８９
単純集計表（名古屋市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９１
単純集計表（松本市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６
抽出方法について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０２

Ⅰ調査概要

１はじめに

地震調査研究推進本部地震調査委員会では、「地震調査研究の推進について－地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進についての総合的かつ基本的な施策－」（平成 11 年４月、地震調査研究推進本部）において、当面推進すべき地震調査研究の課題として掲げられている「全国を概観した地震動予測地図」を平成 17 年３月に公表した。

また、政策委員会成果を社会に活かす部会は、「全国を概観した地震動予測地図」をはじめとする地震調査研究推進本部の成果の広報について検討を行っている。

このたび、その検討に資するために、地震調査研究推進本部がこれまでに行ってきた活動に関する情報の発信について、国民がどのように受けとめているか、またそれらの情報が防災意識にどう結びついているかを調査するため、南海トラフで発生する地震での被害が懸念される名古屋市と、糸魚川－静岡構造線断層帯で発生する地震での被害が懸念される松本市において市民を対象にアンケート調査を行った。

なお、本調査は(財)地震予知総合研究振興会地震調査研究センターが文部科学省の委託により行った。

本調査全般については、東京大学大学院情報学環廣井脩教授、東洋大学社会学部田中淳教授、同大中村功教授の指導を得て実施した。また、地震予知総合研究振興会内に本調査に関するワーキンググループを設置して、調査票の立案、調査結果の分析等を行った。

２アンケート調査について

１）調査方法

①　目的

「全国を概観した地震動予測地図（平成 17 年 3 月公表)」や活断層等の長期評価結果など地震調査研究推進本部が発信する情報について、国民の印象や地震防災対策への活用の実態等を把握する。

②対象地域

愛知県名古屋市及び長野県松本市（将来強い揺れに見舞われる可能性が相対的に高い地域の中から選定）

③調査手法

訪問面接法

④調査対象

対象地域に居住する 20 歳以上 69 歳以下の男女個人

⑤抽出方法

選挙人名簿による二段階無作為抽出（14 人×25 地点)。詳細は資料（p97 参照)。

⑥調査期間

平成 18 年 1 月 20 日（金）～1 月 31 日（火）

⑦アンケート調査実施体制

・調査実施機関

財団法人地震予知総合研究振興会

・現地でのアンケート実施及び結果の集計

株式会社サーベイリサーチセンター

2）集計結果

①回収数

調査地域	対象数	有効回答数	有効回収数
名古屋市	350 人	215 人	61.4%
松本市	350 人	203 人	58.0%

②集計にあたって

・集計は、回答者数を 100%として算出し、小数点第 2 位を四捨五入している。このため、回答率の合計が、単数回答設問でも 100%にならない場合がある。

・グラフ中の「n」は基数で、その質問に回答すべき人数を表す。

3）ワーキンググループの設置について

①目的

アンケート調査票の立案と調査結果の分析等を行うために地震予知総合研究振興会内にワーキンググループを設置した。

②構成メンバー

東洋大学　社会学部　社会心理学科教授　田中　淳

東洋大学　社会学部　メディアコミニュケーション学科教授　中村　功

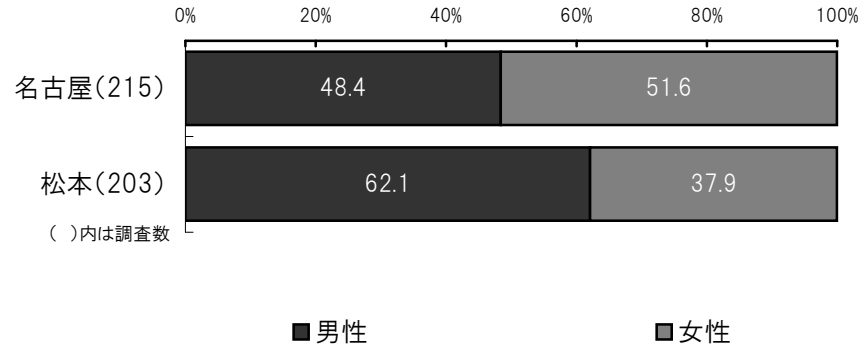
帝京大学兼任講師　廣井 悠

③会議日程・審議内容等

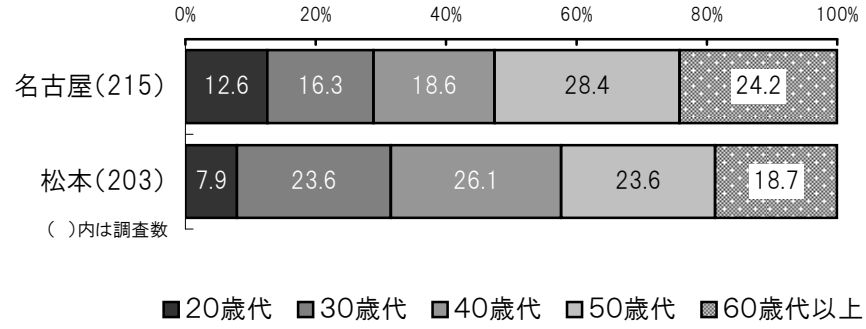
会議回数	開催日	内容
第 1 回	平成 17 年 11 月 18 日（金）	・調査目的の説明、調査対象、調査地域、調査方法など計画全般について確認を行った。
第 2 回	平成 17 年 11 月 23 日（水）	・調査項目の検討など、調査票の骨子作りを行った。
第 3 回	平成 17 年 12 月 10 日（土）	・調査票のたたき台を基に調査項目の選択等の整理を行った。
第 4 回	平成 17 年 12 月 21 日（水）	・調査票案の検討を行った。

Ⅲ　回答者の属性

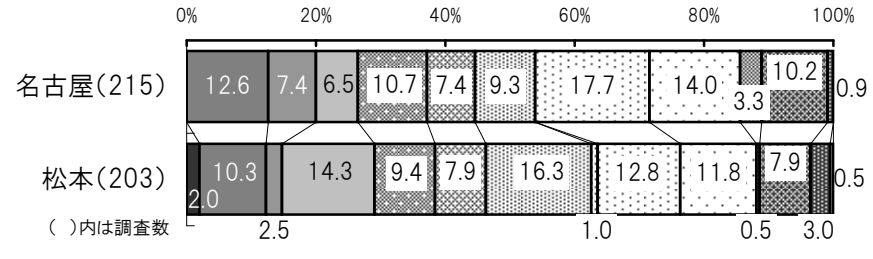
性別



年齢

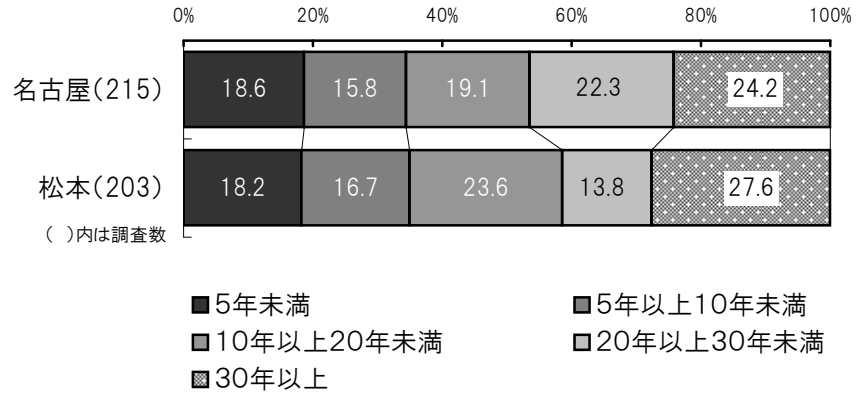


職業

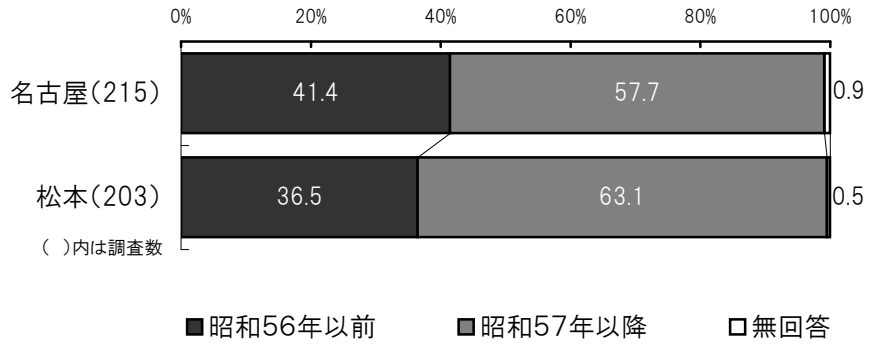


農林漁業従業者
自営業
経営管理職
専門技術職
事務職
労務職
販売･サービス従業者
自由業
専業主婦
パートや自営業手伝いの主婦
学生
無職･年金生活者
その他
無回答

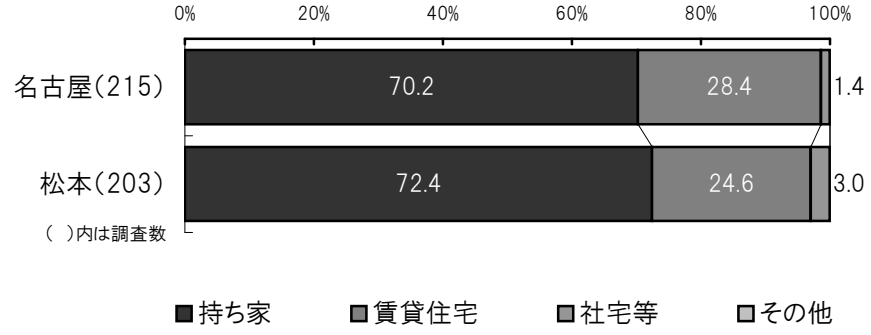
現在の住宅の居住年数



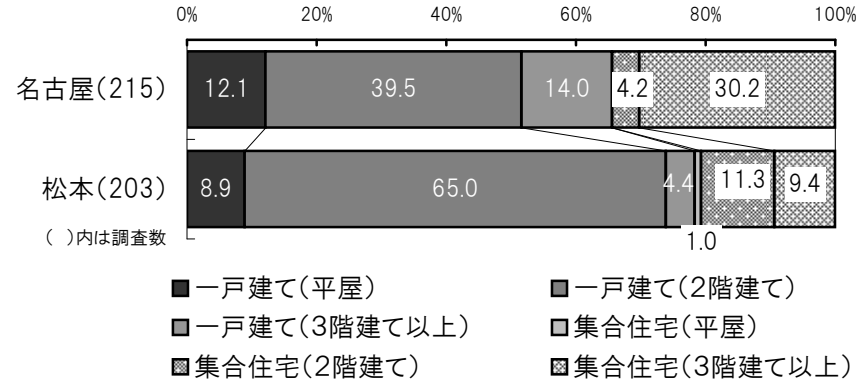
現在の住宅の建築年



現在の住宅の所有形態

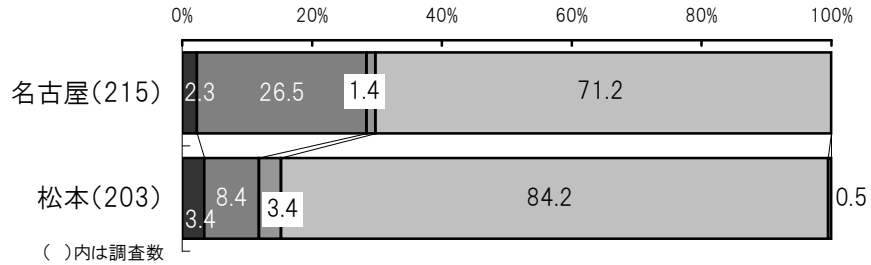


現在の住宅の形状



■一戸建て(平屋)　■一戸建て(2階建て)
■一戸建て(3階建て以上)　■集合住宅(平屋)
■集合住宅(2階建て)　■集合住宅(3階建て以上)

大きな自然災害の遭遇経験



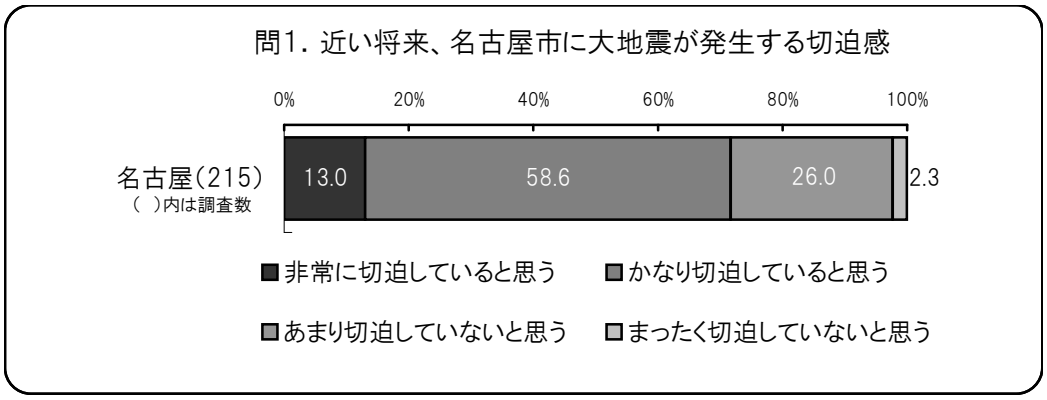
■地震の被害を受けたことがある
■洪水等の風水害の被害を受けたことがある
■その他の災害で被害を受けたことがある
■自然災害で被害を受けたことはない
□無回答

Ⅲ　調査結果

1　名古屋市調査

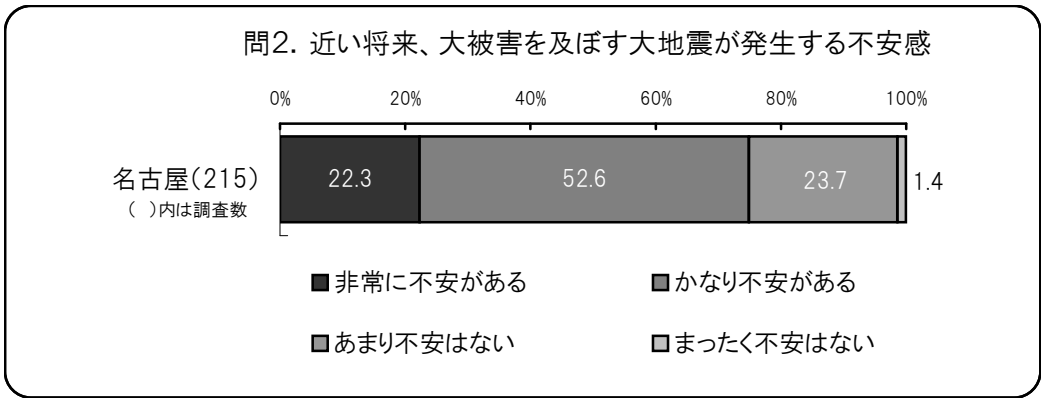
問1. あなたは近い将来、名古屋市に大地震の発生が切迫していると思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

近い将来、名古屋市に大地震が発生する切迫感は、「かなり切迫していると思う」が58.6%と最も高く、次いで「あまり切迫していないと思う」が26.0%、「非常に切迫していると思う」が13.0%となっている。



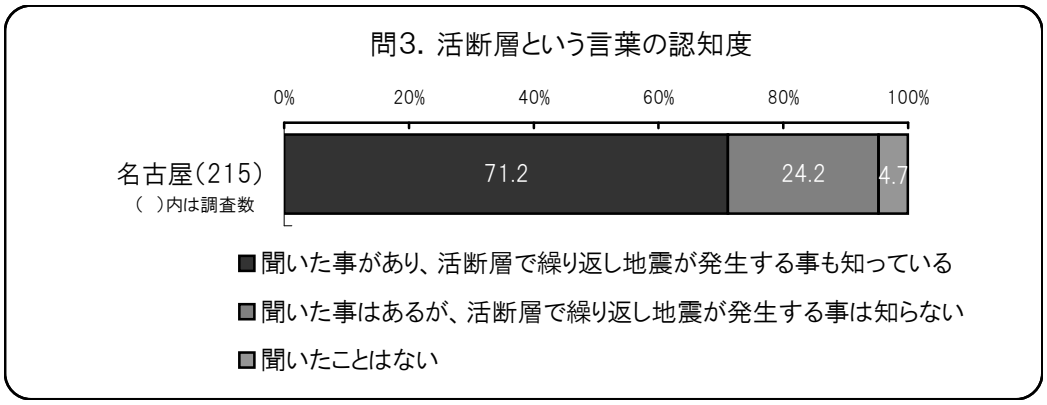
問2. あなたは近い将来、名古屋市に大きな被害を及ぼす大地震が起こるかもしれないという不安がありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

近い将来、大災害を及ぼす大地震が発生する不安感は、「かなり不安がある」が52.6%と最も高く、次いで「あまり不安はない」が23.7%、「非常に不安がある」が22.3%となっている。



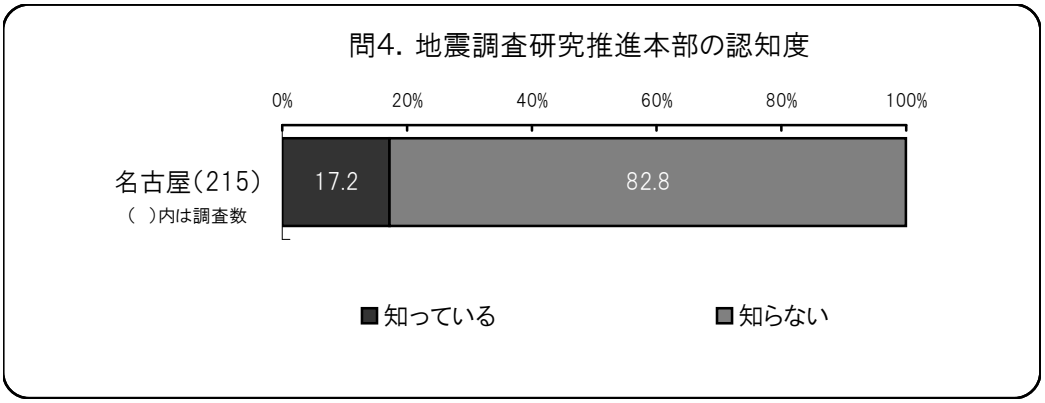
問3. 次に、地震を起こす原因になる活断層についておたずねします。あなたは、活断層ということばを聞いたことがありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

活断層という言葉の認知度は、「聞いた事があり、活断層で繰り返し地震が発生する事も知っている」が71.2%と最も高く、次いで「聞いた事はあるが、活断層で繰り返し地震が発生する事は知らない」が24.2%、「聞いたことはない」が4.7%となっている。



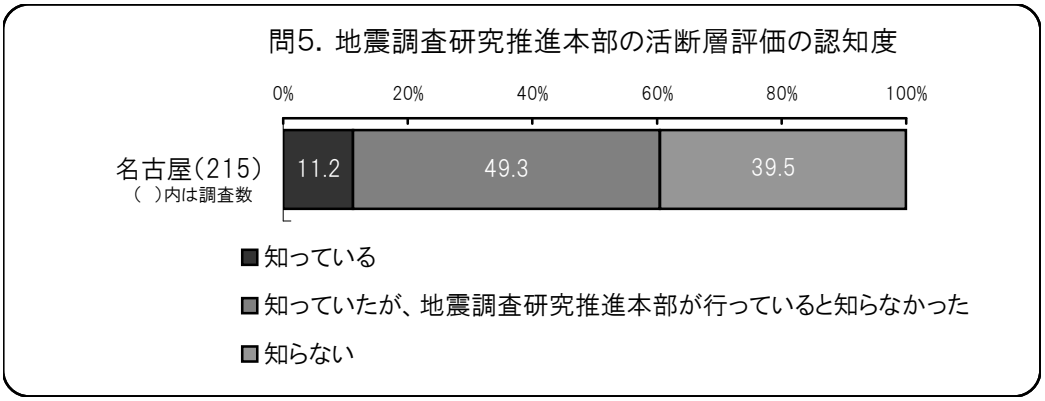
問4. 地震調査研究推進本部(の地震調査委員会)は、地震に関する調査研究を推進するため、文部科学省に設置された政府の特別機関です。あなたは、この機関のことをご存知でしたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

地震調査研究推進本部の認知度は「知らない」が82.8%、「知っている」が17.2%となっている。



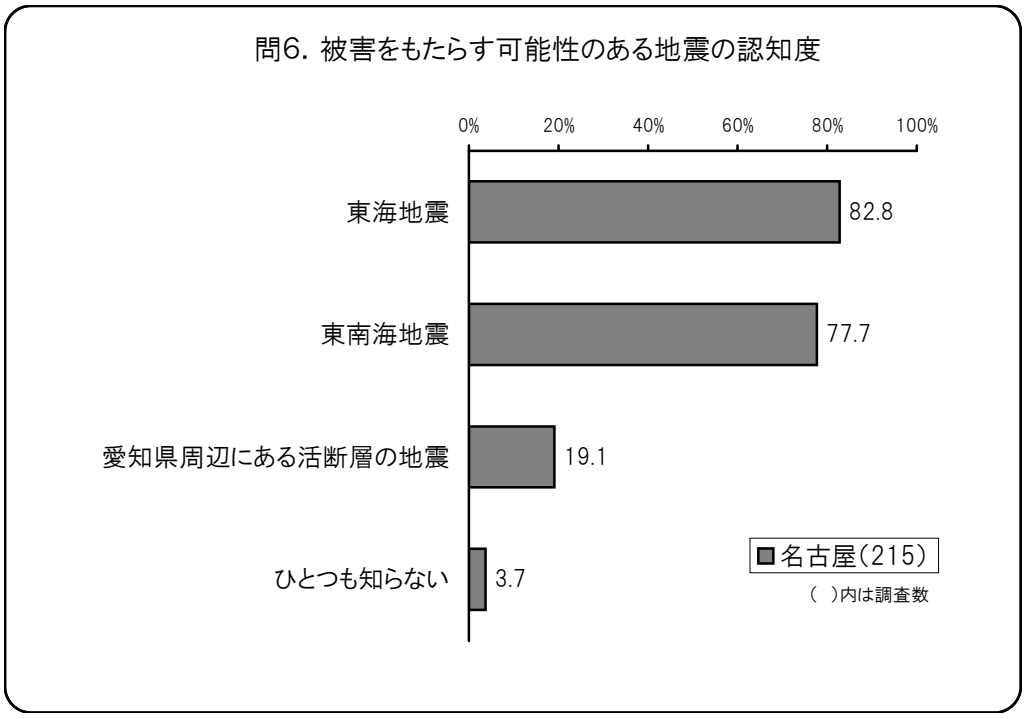
問5. 現在、地震調査研究推進本部(の地震調査委員会)では日本列島にある98の主要な活断層について、将来活断層がいつ活動するかを予測しています。あなたはこのことを知っていますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

地震調査研究推進本部が行っている活断層評価の認知度は「知っていたが、地震調査研究推進本部が行っていると知らなかった」が49.3%と最も高く、次いで「知らない」が39.5%、「知っている」が11.2%となっている。



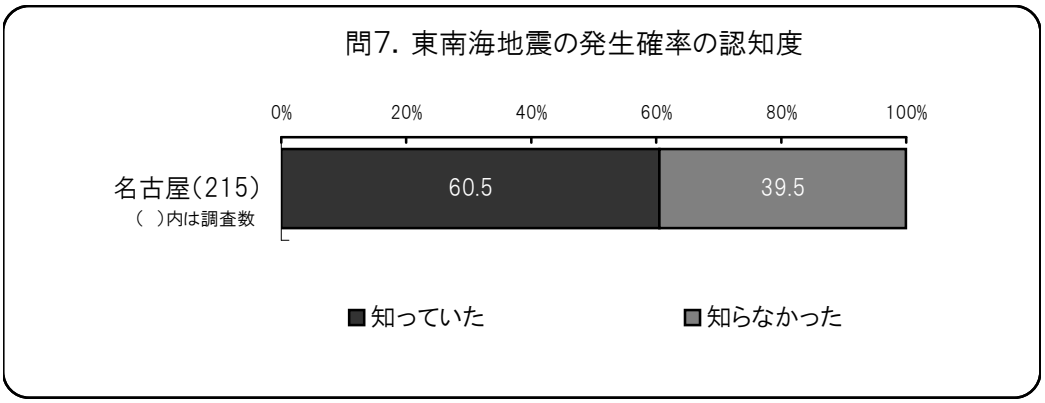
問6. 最近、名古屋市内に被害をもたらす可能性のある地震がいろいろ報道されていますが、以下にあげた地震について、あなたは知っていますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

被害をもたらす可能性のある地震の認知度は、「東海地震」が82.8%と最も高く、次いで「東南海地震」が77.7%、「愛知県周辺にある活断層の地震」が19.1%となっている。



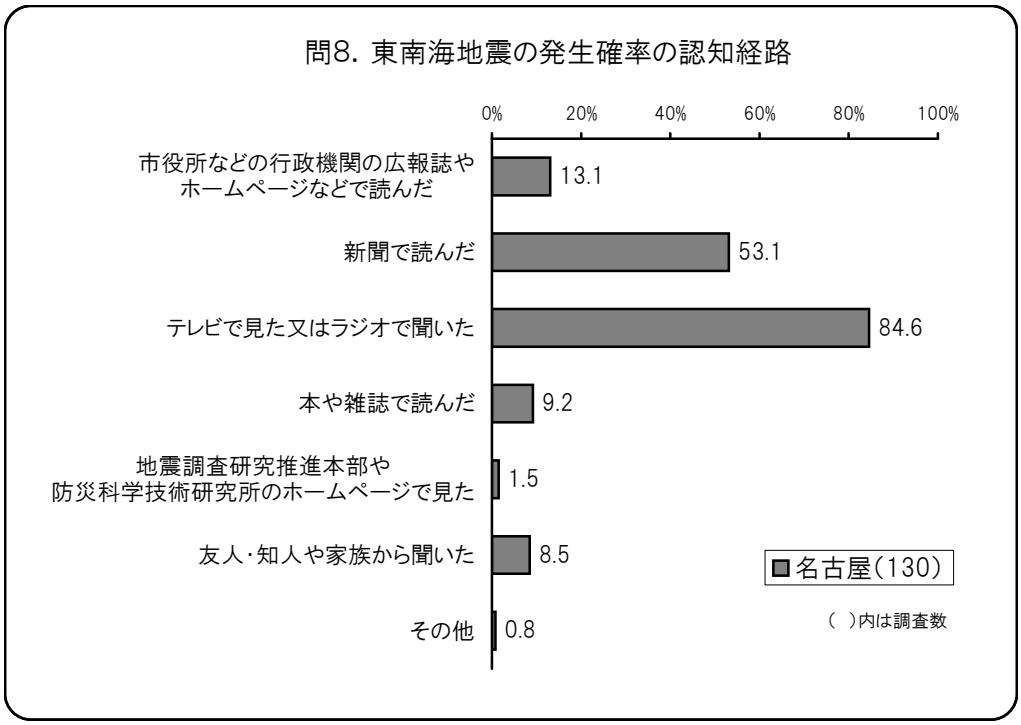
問7. 政府は、東南海地震について「今後30年以内に発生する確率はほぼ60%」と発表しました。あなたは、このことをご存知でしたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

東南海地震発生確率の認知度は、「知っていた」が60.5%「知らなかった」が39.5%となっている。



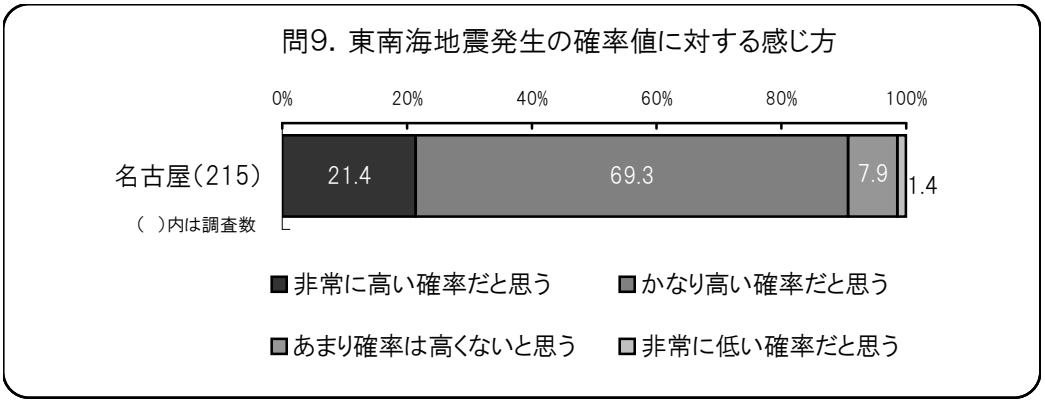
問8. (問7で「1」と答えた人におうかがいします)
では、あなたは、その情報をどちらからご入手されましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

東南海地震の発生確率の認知経路は、「テレビで見た又はラジオで聞いた」が84.6%と最も高く、次いで「新聞で読んだ」が53.1%、「市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで読んだ」が13.1%となっている。



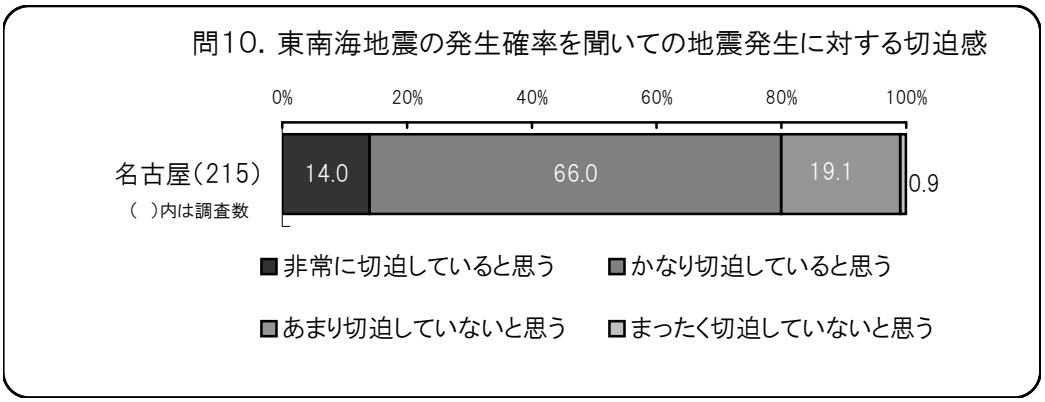
問9. あなたは「今後30年以内に東南海地震が発生する確率はほぼ60%」という数字について、どのように思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

東南海地震の発生確率を聞いての印象は、「かなり高い確率だと思う」が69.3%と最も高く、次いで「非常に高い確率だと思う」が21.4%、「あまり高くない確率だと思う」が7.9%となっている。



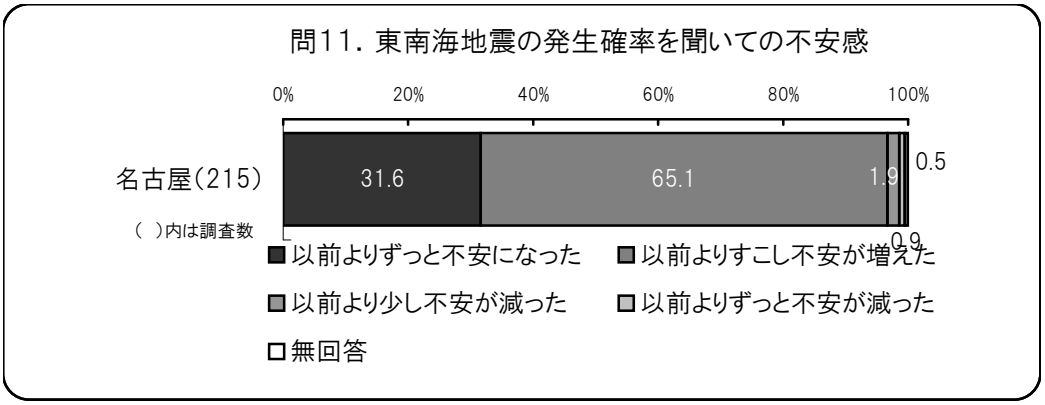
問10. あなたは、「今後30年以内に東南海地震が発生する確率はほぼ60%」という数字について、名古屋市に大きな被害を及ぼす大地震の発生が切迫していると思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

東南海地震の発生確率を聞いての大地震発生に対する切迫感は、「かなり切迫していると思う」が66.0%と最も高く、次いで「あまり切迫していないと思う」が19.1%、「非常に切迫していると思う」が14.0%となっている。



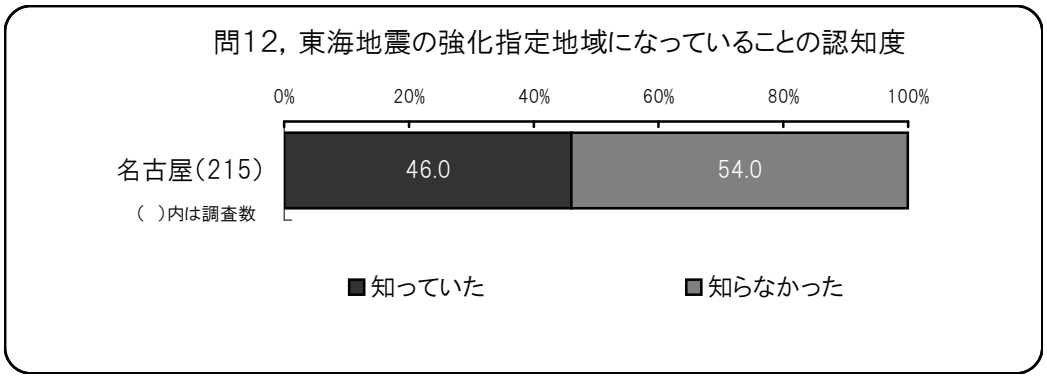
問11. あなたは「今後30年以内に東南海地震が発生する確率はほぼ60%」という数字について、名古屋市に大きな被害を及ぼす大地震に対し、どの程度の不安を持つようになりましたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

東南海地震の発生確率を聞いて持った地震への不安感は、「以前よりすこし不安が増えた」が65.1%と最も高く、次いで「以前よりずっと不安になった」が31.6%、「以前より少し不安が減った」が1.9%となっている。



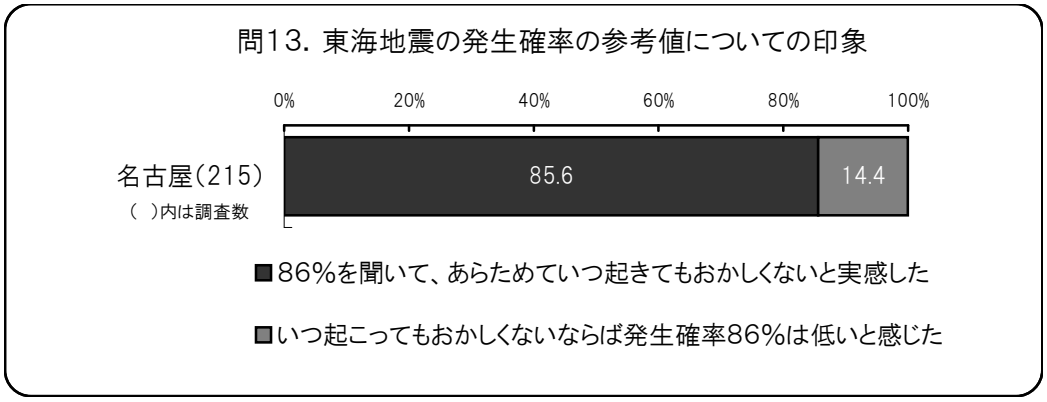
問12. 東海地震の想定震源域が見直され、名古屋市の一部も震度6弱のおそれがあり、内閣総理大臣が強化地域に指定しました。あなたは、このことをご存知でしたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

名古屋市が東海地震の強化指定地域になっていることを知っていた割合は、「知らなかった」が54.0%、「知っていた」が46.0%となっている。



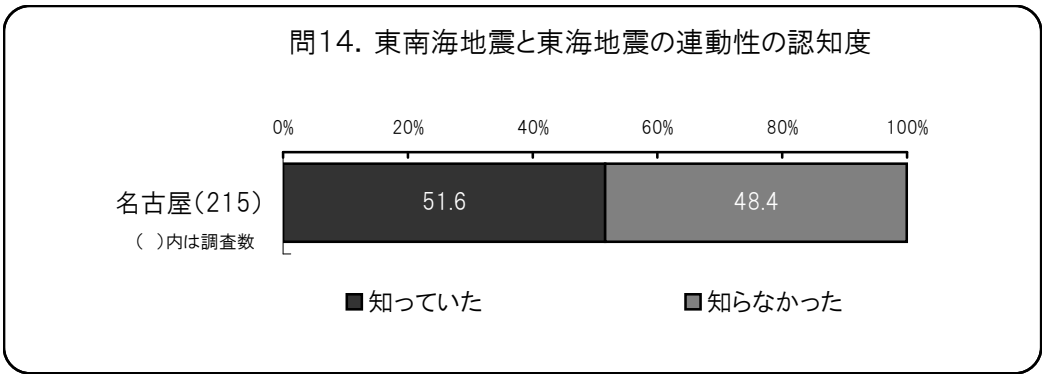
問13. いつ起こってもおかしくないといわれている東海地震について、地震調査研究推進本部が今後30年以内の発生確率を参考値ながら86%と発表しました。あなたは、このことについて、どう感じましたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

東海地震の参考値についての印象は、「86%を聞いて、あらためていつ起きてもおかしくないと実感した」が85.6%、「いつ起こってもおかしくないならば発生確率86%は低いと感じた」が14.4%となっている。



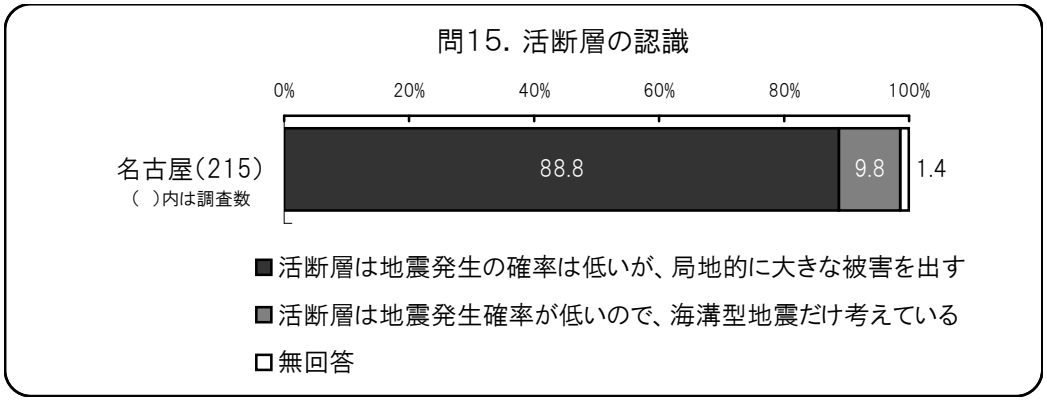
問14. あなたは、東南海地震と東海地震は連動して起こる可能性が高いということを知っていましたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

東南海地震と東海地震が連動して起こることの認知度は、「知っていた」が51.6%、「知らなかった」が48.4%となっている。



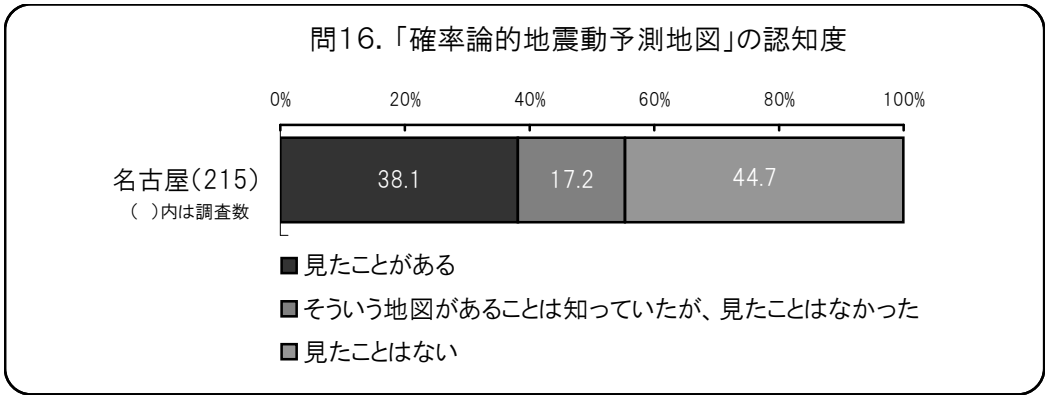
問15. 名古屋市のそばには加木屋断層帯のような活断層があり、例えば、加木屋断層帯については、想定される地震の規模はM7.4程度、今後30年以内の発生確率は0.1%とされています。活断層についてどのように感じますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

活断層の認識は「活断層は地震発生の確率は低いが、局地的に大きな被害を出す」が88.8%、「活断層は地震発生の確率が低いので、海溝型地震だけ考えている」が9.8%となっている。



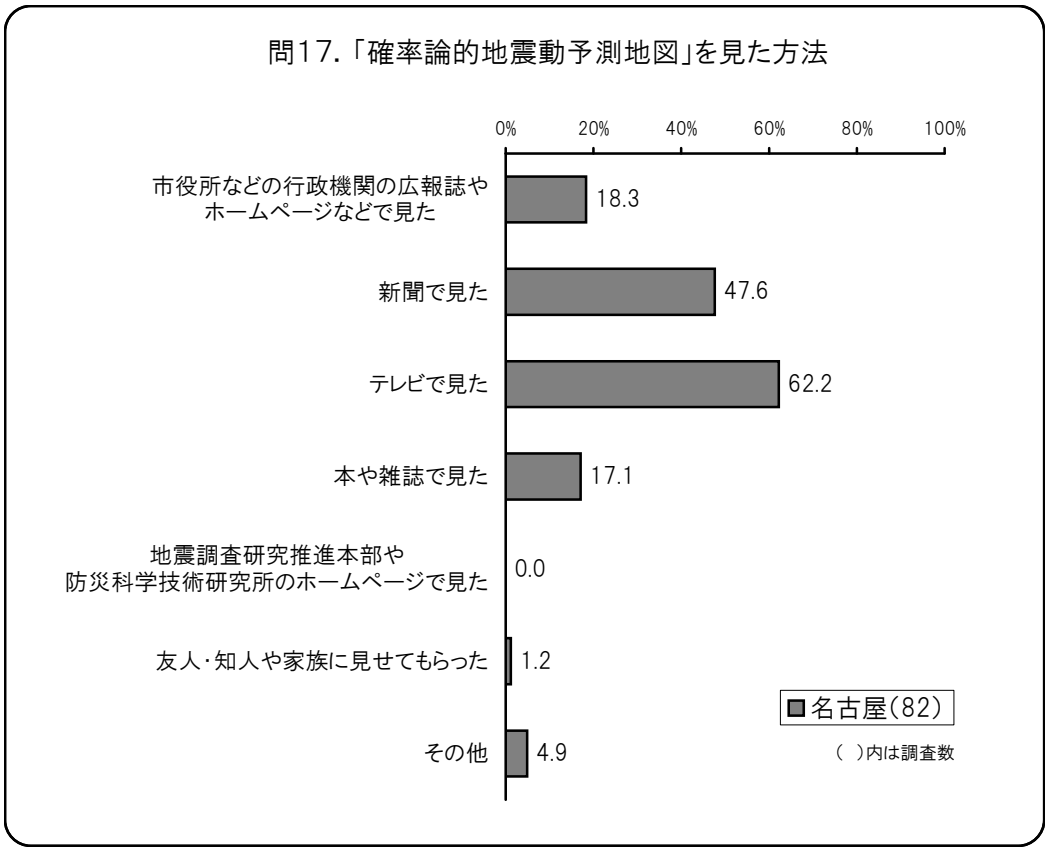
問16. 次に、確率論的地震動予測地図についておたずねします。実際の「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、お答えください。
あなたは、この「確率論的地震動予測地図」をご覧になったことがありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

「確率論的地震動予測地図」の認知度は、「見たことはない」が44.7%と最も高く、次いで「見たことがある」が38.1%、「そういう地図があることは知っていたが、見たことはなかった」が17.2%となっている。



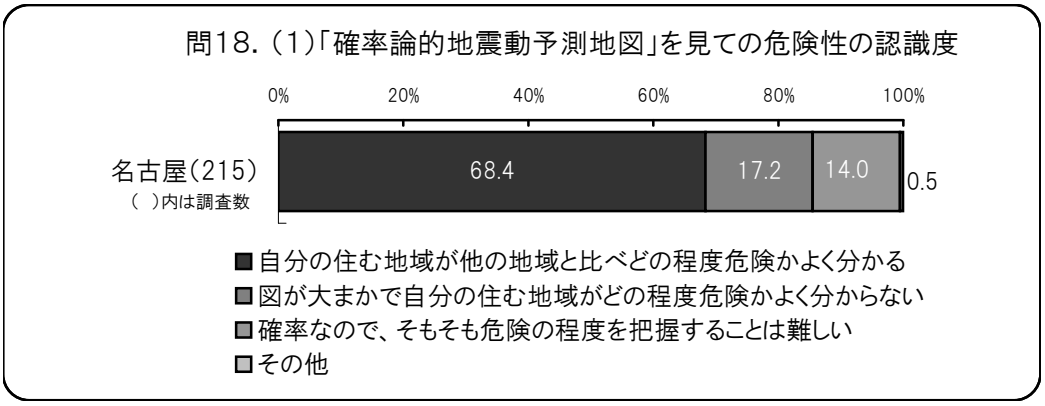
問17. （問16で「1」と答えた人におうかがいします）
それは、どちらでご覧になりましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

「確率論的地震動予測地図」を見た方法は、「テレビで見た」が62.2%と最も高く、次いで「新聞で見た」が47.6%、「市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで見た」が18.3%となっている。



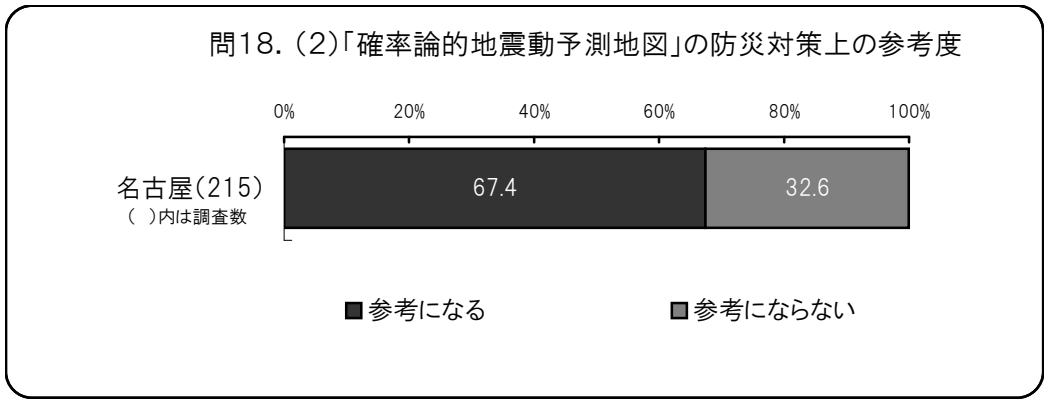
問18. あなたはこの「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、どう思いますか。あてはまるものを(1)(2)それぞれひとつだけ選んでください。
(1)危険性について

「確率論的地震動予測地図」を見て自分の住む地域の危険性をどのように認識したかは、「自分の住む地域が他の地域と比べどの程度危険かよく分かる」が68.4%と最も高く、次いで「図が大まかで自分の住む地域がどの程度危険かよく分からない」が17.2%、「確率なので、そもそも危険の程度を把握することは難しい」が14.0%となっている。



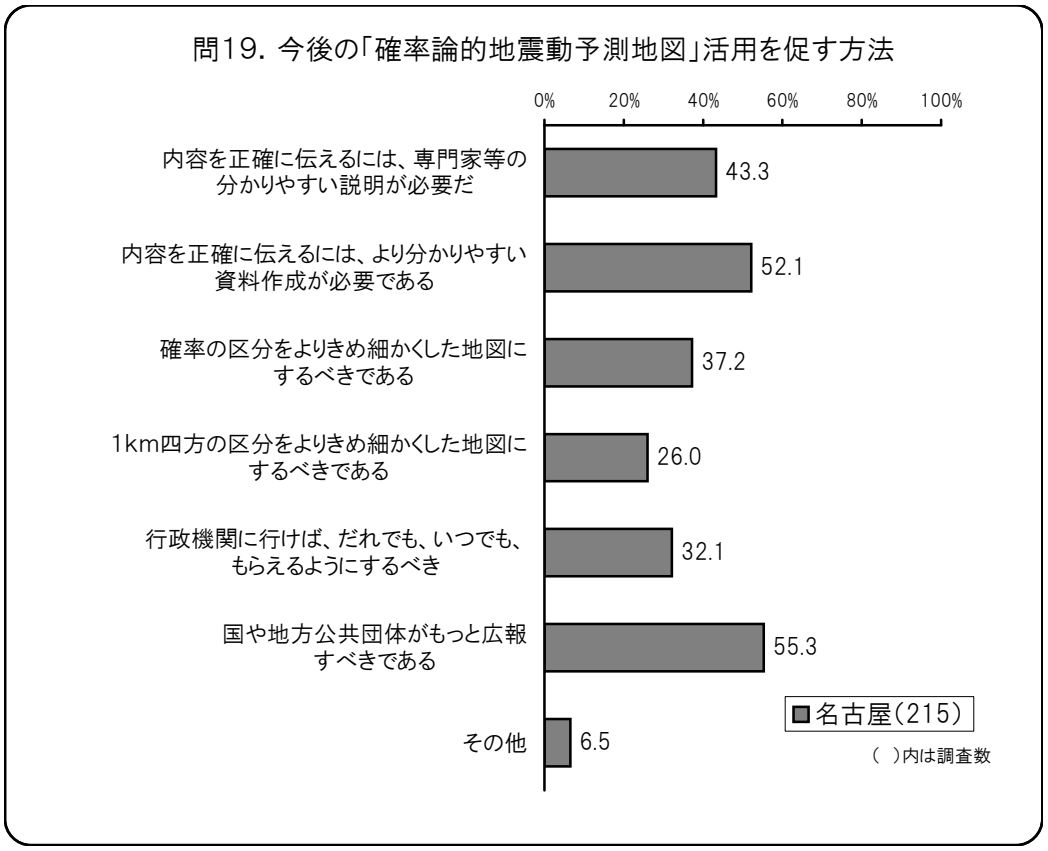
問18. あなたはこの「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、どう思いますか。あてはまるものを(1)(2)それぞれひとつだけ選んでください。
(2)この地震動予測地図はわが家の防災対策を考える上で

個人が防災対策を考える上で「確率論的地震動予測地図」が参考になると答えた割合は、「参考になる」が67.4%、「参考にならない」が32.6%となっている。



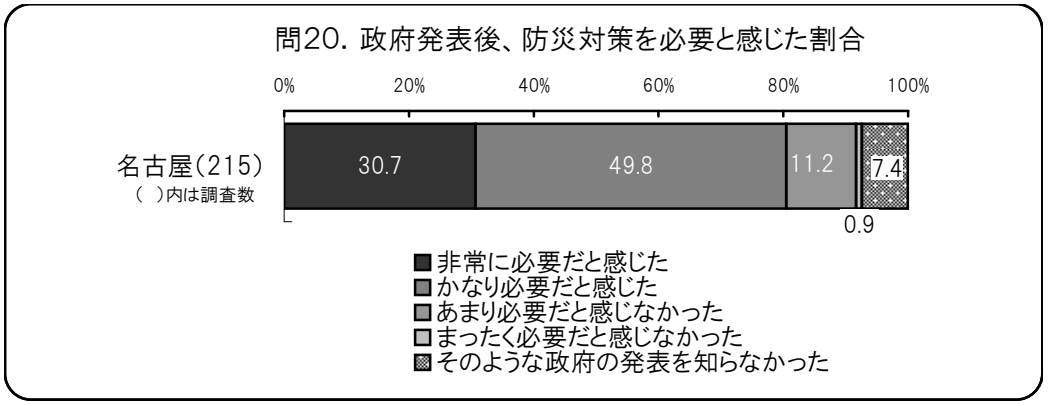
問19. では、今後、この「確率論的地震動予測地図」を市民の防災意識を高めたり、家庭の防災対策を充実したりするうえで、どのようにすべきだと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

今後の「確率論的地震動予測地図」活用を促す方法は、「国や地方公共団体がもっと広報すべきである」が55.3%と最も高く、次いで「内容を正確に伝えるには、より分かりやすい資料作成が必要である」が52.1%、「内容を正確に伝えるには、専門家等の分かりやすい説明が必要だ」が43.3%となっている。



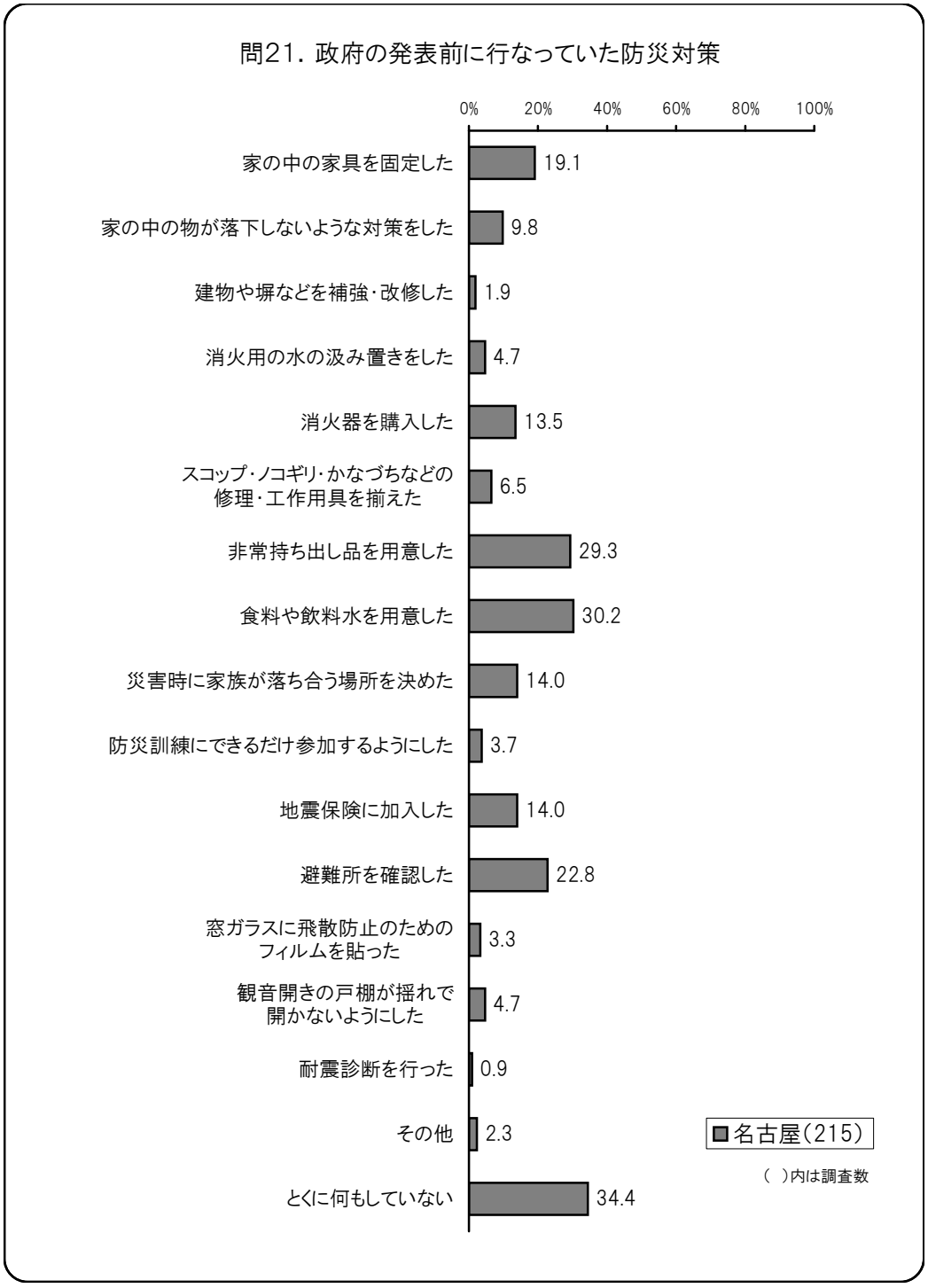
問20. 次に、お宅の防災対策についておたずねします。政府は、平成13年に「今後30年以内に東南海地震が発生する確率はほぼ60%」と発表しました。あなたは、これらの発表を聞いて、地震が来る前にいろいろな防災対策をたてておく必要があると感じましたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

東南海地震の発生確率を聞いて、防災対策が必要と感じた人は、「かなり必要だと感じた」が49.8%と最も高く、次いで「非常に必要だと感じた」が30.7%、「あまり必要だと感じなかった」が11.2%となっている。



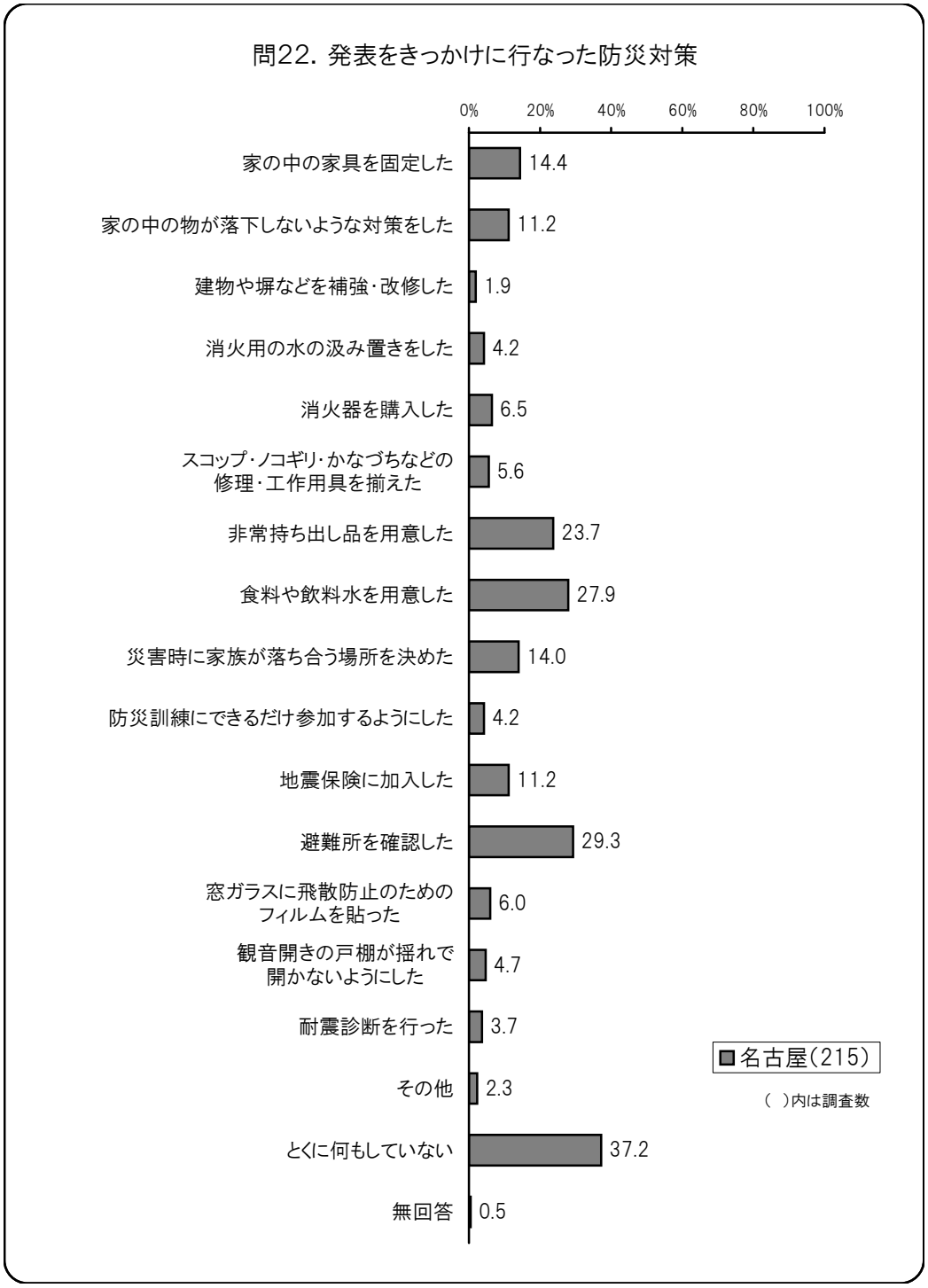
問21. お宅ではこのような政府の発表が出る前には、どのような防災対策を行っていましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

東南海地震の発生確率発表前から行っていた防災対策は、「とくに何もしていない」が34.4%と最も高く、次いで「食料や飲料水を用意した」が30.2%、「非常持ち出し品を用意した」が29.3%となっている。



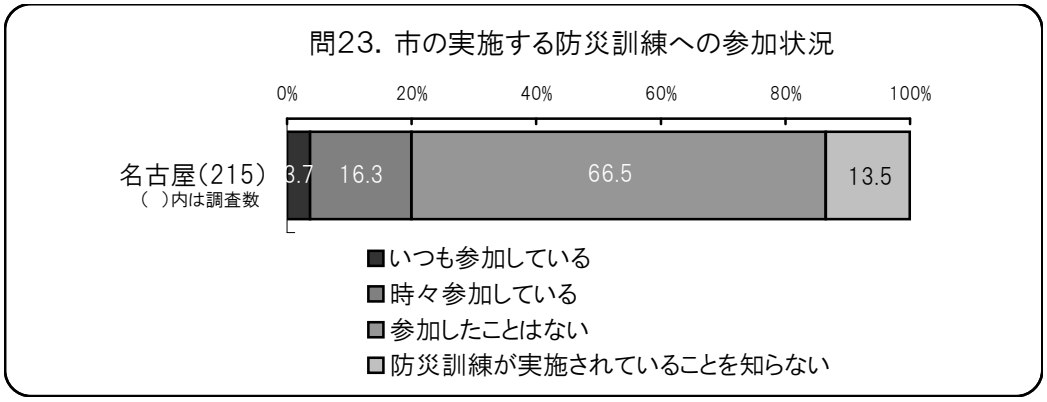
問22. では、この東南海地震の発表をきっかけにして、お宅ではどのような防災対策を行いましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

東南海地震の発生確率の発表をきっかけに行なった防災対策は、「とくに何もしていない」が37.2%と最も高く、次いで「避難所を確認した」が29.3%、「食料や飲料水を用意した」が27.9%となっている。



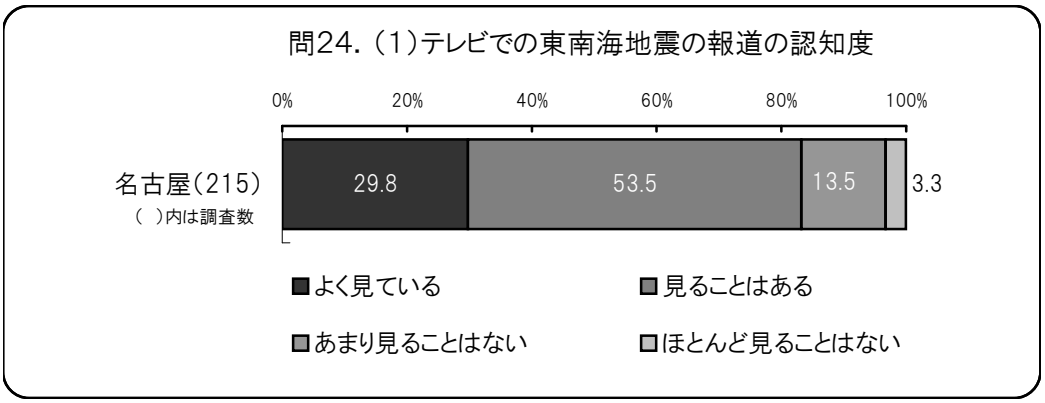
問23. あなたは、市の実施する防災訓練に参加したことがありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

市の実施する防災訓練への参加状況は、「参加したことはない」が66.5%と最も高く、次いで「時々参加している」が16.3%、「防災訓練が実施されていることを知らない」が13.5%となっている。



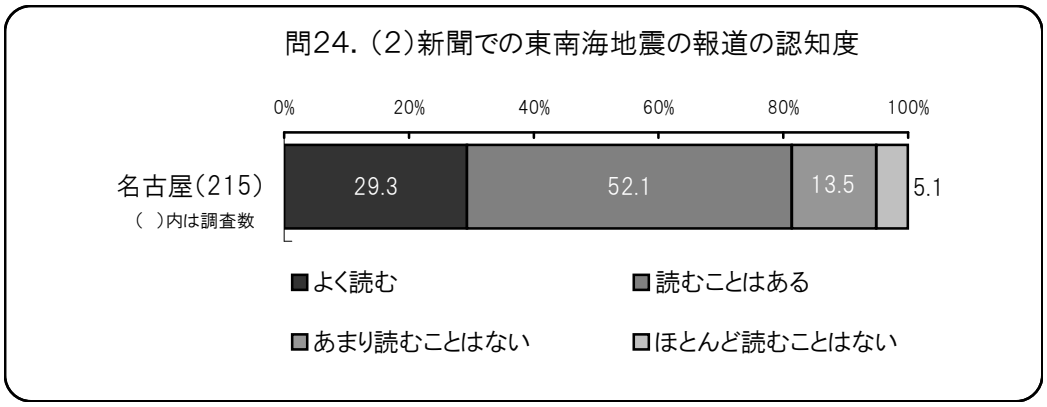
問24. あなたは、テレビや新聞で東南海地震に関するニュースのことを見たり読んだりしますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。
(1)テレビで報道された場合、

テレビでの東南海地震の報道の認知度は、「見ることはある」が53.5%と最も高く、次いで「よく見ている」が29.8%、「あまり見ることはない」が13.5%となっている。



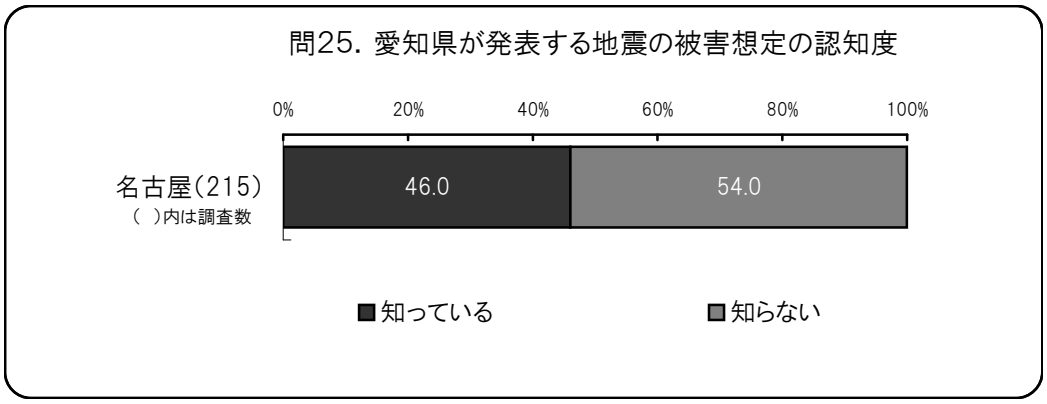
問24. あなたは、テレビや新聞で東南海地震に関するニュースのことを見たり読んだりしますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。
(2)新聞で報道されているのを目にした場合、

新聞での東南海地震の報道の認知度は、「読むことはある」が52.1%と最も高く、次いで「よく読む」が29.3%、「あまり読むことはない」が13.5%となっている。



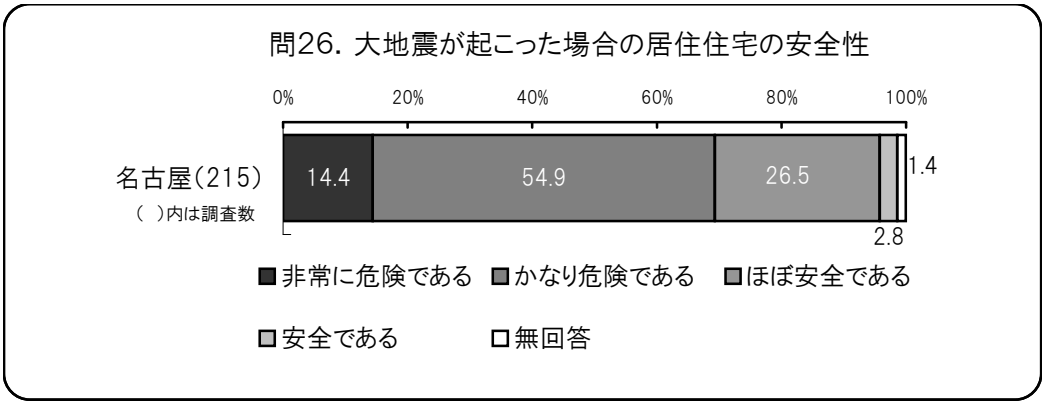
問25. あなたは、東南海地震や東海地震が発生した場合の被害想定を愛知県が発表していることをご存知ですか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

愛知県が発表する地震の被害想定の認知度は、「知らない」が54.0%、「知っている」が46.0%となっている。



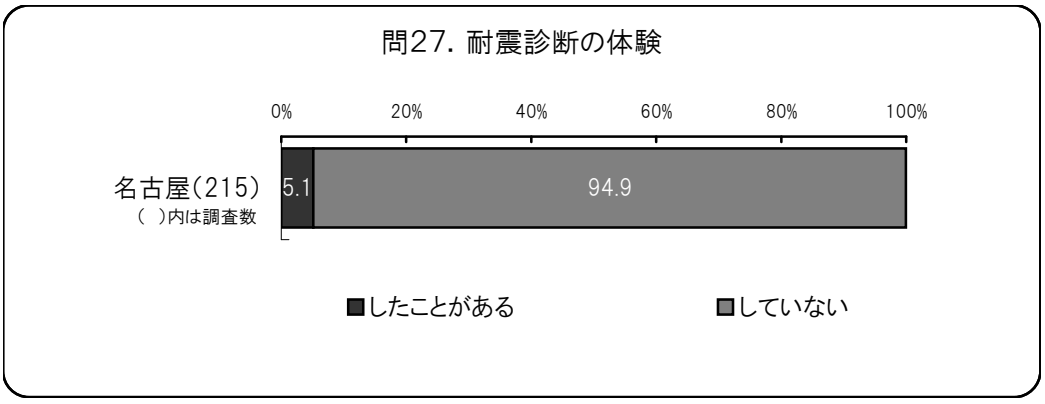
問26. では、このような大地震が起こった場合、あなたの家は安全だと思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

大地震が起こった場合の居住住宅の安全性は、「かなり危険である」が54.9%と最も高く、次いで「ほぼ安全である」が26.5%、「非常に危険である」が14.4%となっている。



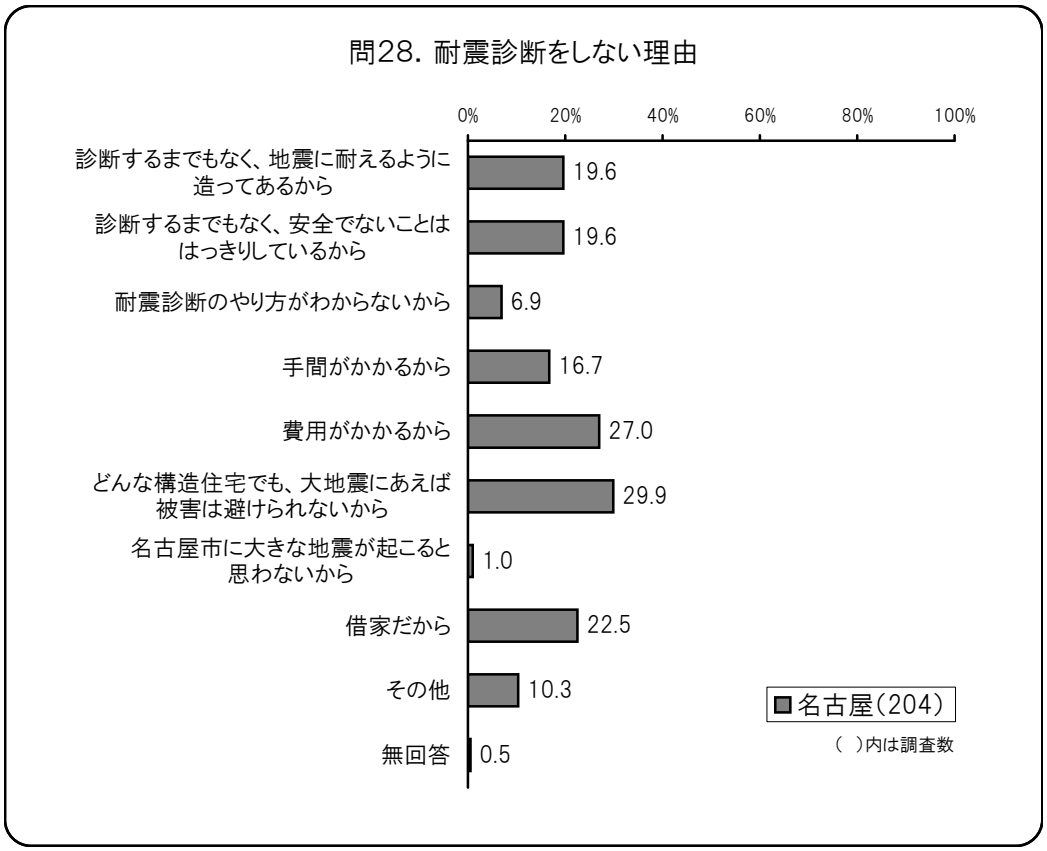
問27. お宅では、大地震に備えて、耐震診断をしたことがありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

耐震診断の体験は、「していない」が94.9%、「したことがある」が5.1%となっている。



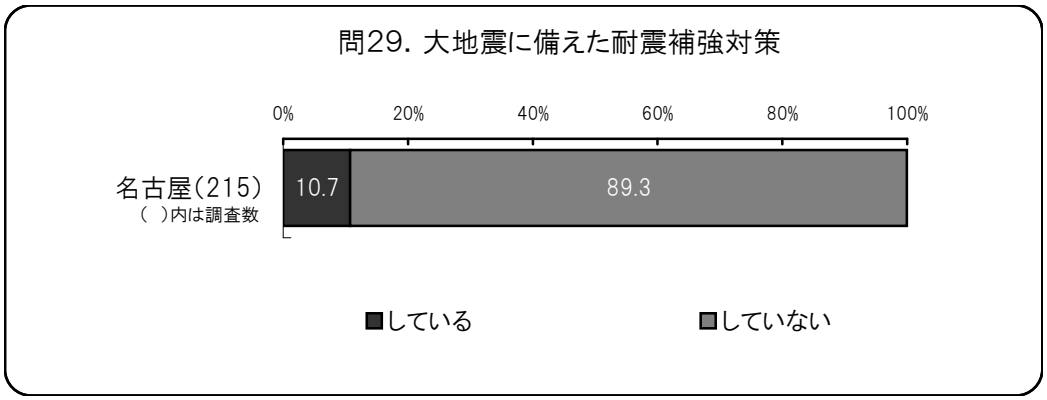
問28. （問27で「2」と答えた人におうかがいします）
お宅で耐震診断をしない理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

耐震診断をしない理由は、「どんな構造住宅でも、大地震にあえば被害は避けられないから」が29.9%と最も高く、「費用がかかるから」が27.0%、「借家だから」が22.5%となっている。



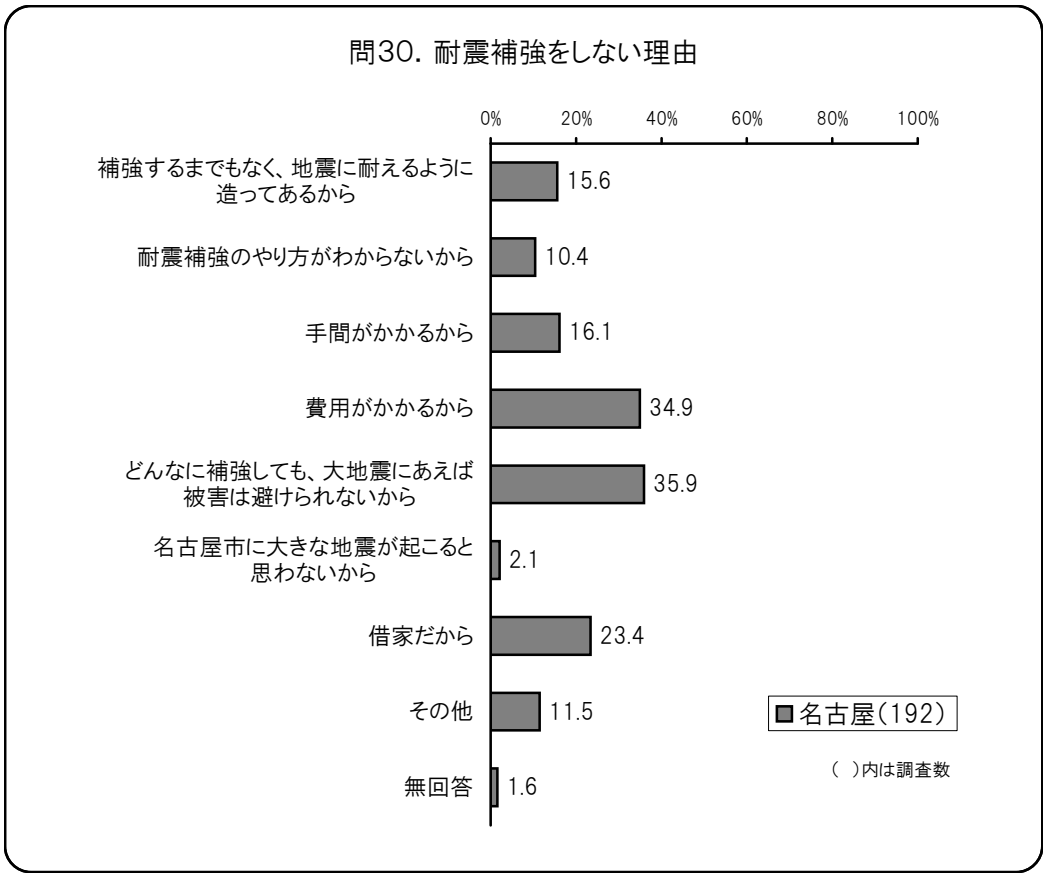
問29. では、お宅では、大地震に備えて、耐震補強をしていますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

大地震に備えた耐震補強対策は、「していない」が89.3%、「している」が10.7%となっている。



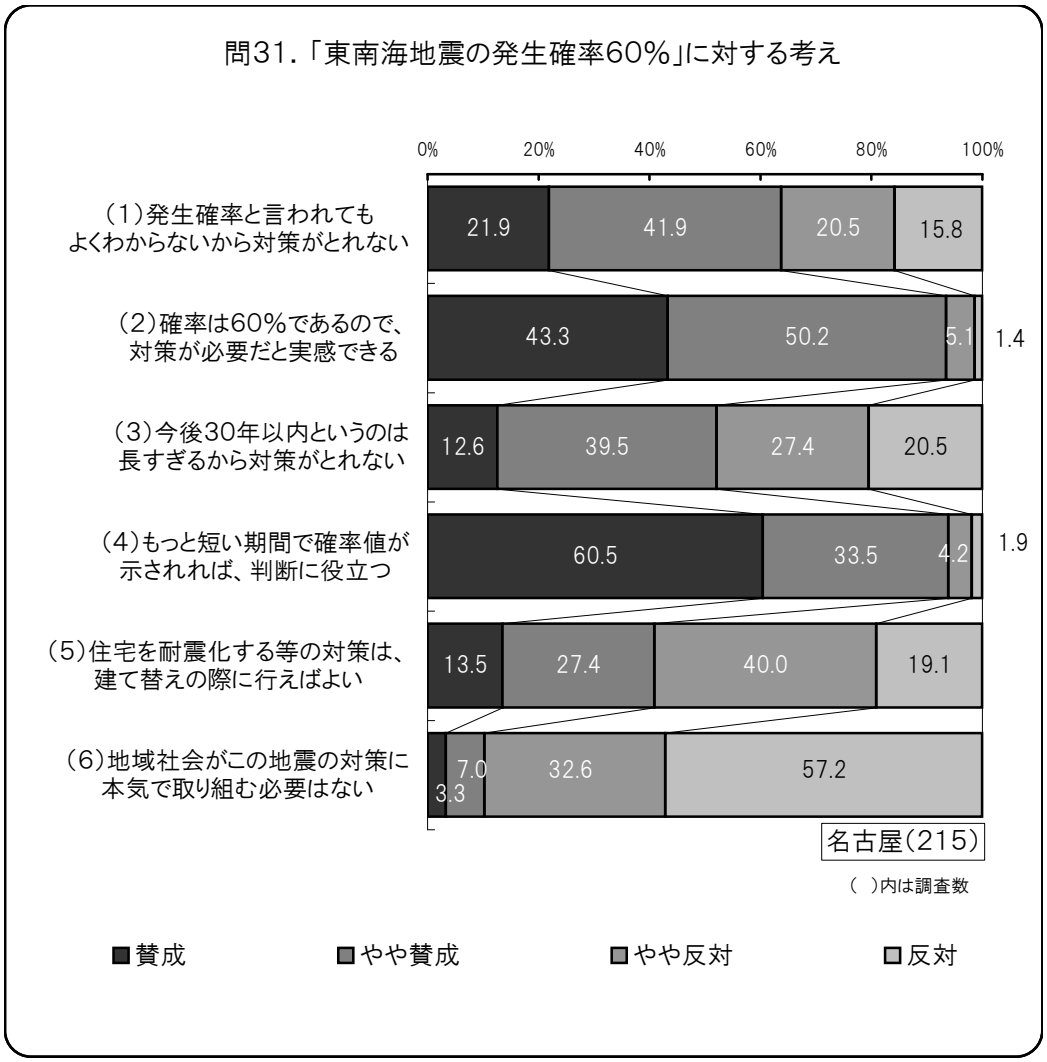
問30. （問29で「2」と答えた人におうかがいします）
お宅で耐震補強をしない理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

耐震補強をしない理由は、「どんなに補強しても、大地震にあえば被害は避けられないから」が35.9％と最も高く、次いで「費用がかかるから」が34.9％、「借家だから」が23.4％となっている。



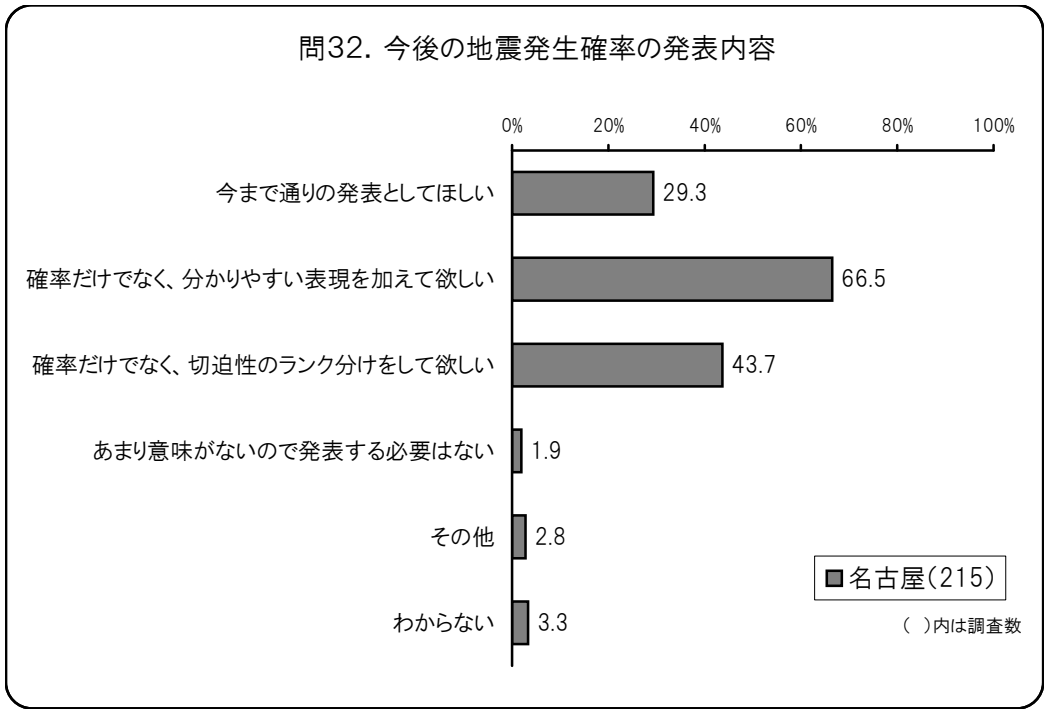
問31. 今後30年以内に東南海地震の発生確率がほぼ60%ということを知って、次のような受けとめ方をする人がいます。あなたは、それぞれに対して、賛成しますか、それとも反対しますか。あなたのお考えに近いものをそれぞれひとつずつ選んでください。

「東南海地震の発生確率60%」に対する考えは、「発生確率と言われてもよくわからないから対策がとれない」やや賛成が41.9%、「確率は60%であるので、対策が必要だと実感できる」やや賛成が50.2%、「今後30年以内というのは長すぎるから対策がとれない」やや賛成が39.5%、「もっと短い期間で確率値が示されれば、判断に役立つ」賛成が60.5%、「住宅を耐震化する等の対策は、建て替えの際に行えばよい」やや反対が40.0%、「地域社会がこの地震の対策に本気で取り組む必要はない」反対が57.2%となっている。



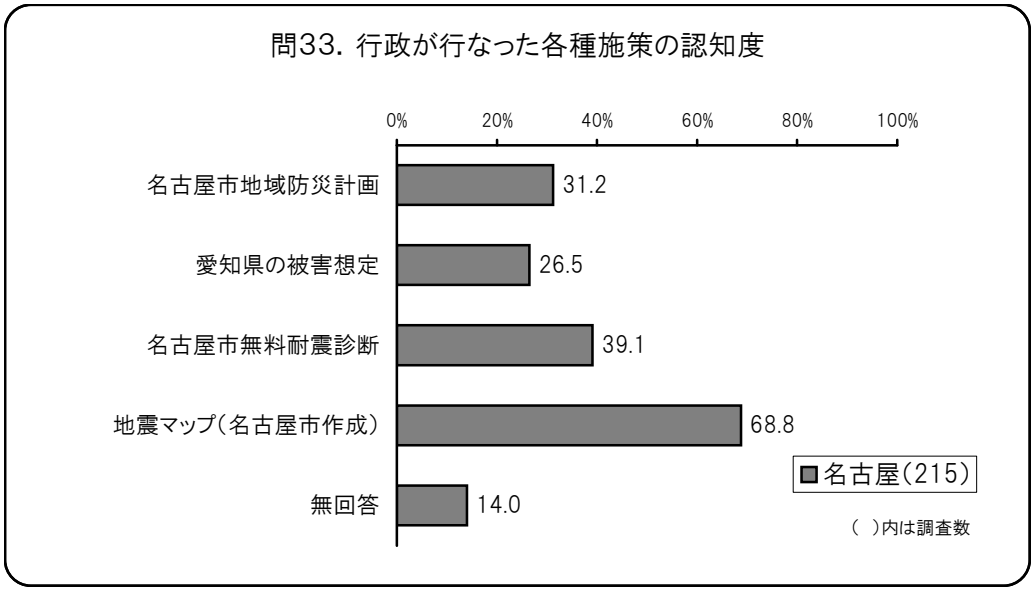
問32. あなたは地震の発生確率について、今後どのように発表すべきだと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

今後の地震発生確率の発表内容は、「確率だけではなく、わかりやすい表現を加えて欲しい」が66.5%と最も高く、次いで「確率だけでなく、切迫性のランク分けをして欲しい」が43.7%、「今まで通りの発表としてほしい」が29.3%となっている。



問33. この地震に対応するために行政が行った各種施策の中で、ご存知なものをいくつでも選んでください。

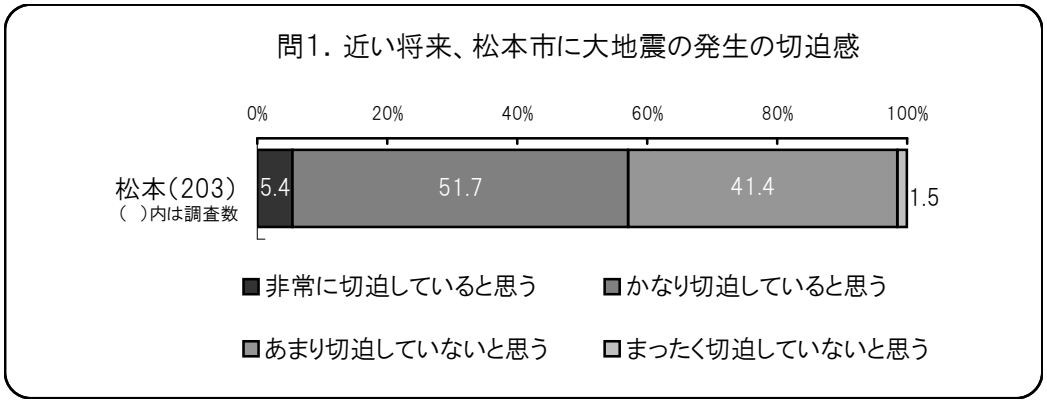
行政が行なった各種施策の認知度は、「地震マップ(名古屋市作成)が68.8%と最も高く、次いで「名古屋市無料耐震診断」が39.1%、「名古屋市地域防災計画」が31.2%となっている。



2　松本市調査

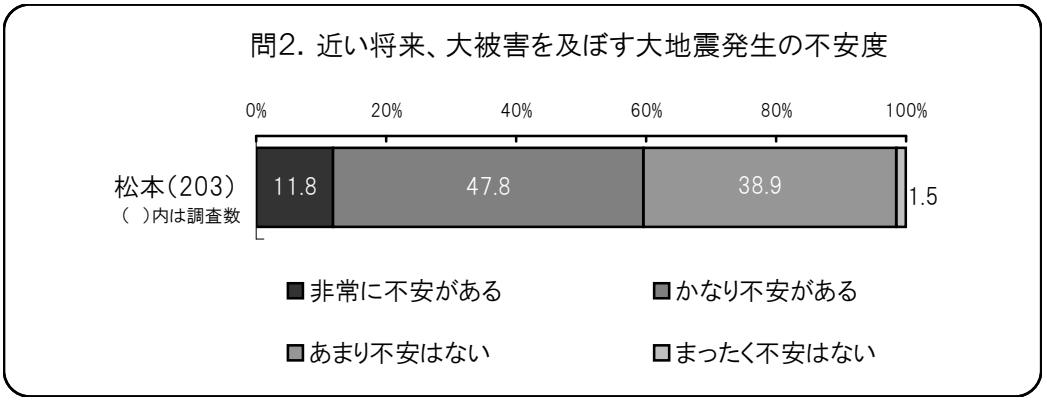
問1. あなたは近い将来、松本市に大地震の発生が切迫していると思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

近い将来、松本市に大地震発生の切迫感は、「かなり切迫していると思う」が51.7%と最も高く、次いで「あまり切迫していないと思う」が41.4%、「非常に切迫していると思う」が5.4%となっている。



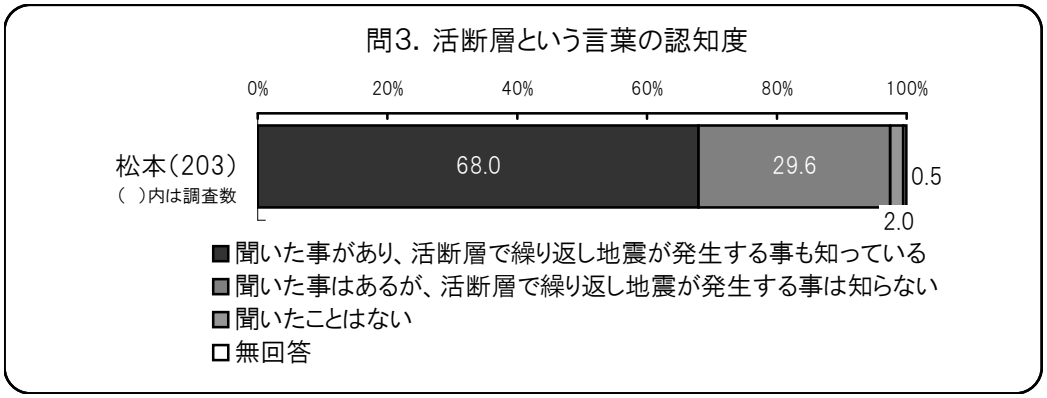
問2. あなたは近い将来、松本市に大きな被害を及ぼす大地震が起こるかもしれないという不安がありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

近い将来、大被害を及ぼす大地震発生の不安度は、「かなり不安がある」が47.8%と最も高く、次いで「あまり不安はない」が38.9%、「非常に不安がある」が11.8%となっている。



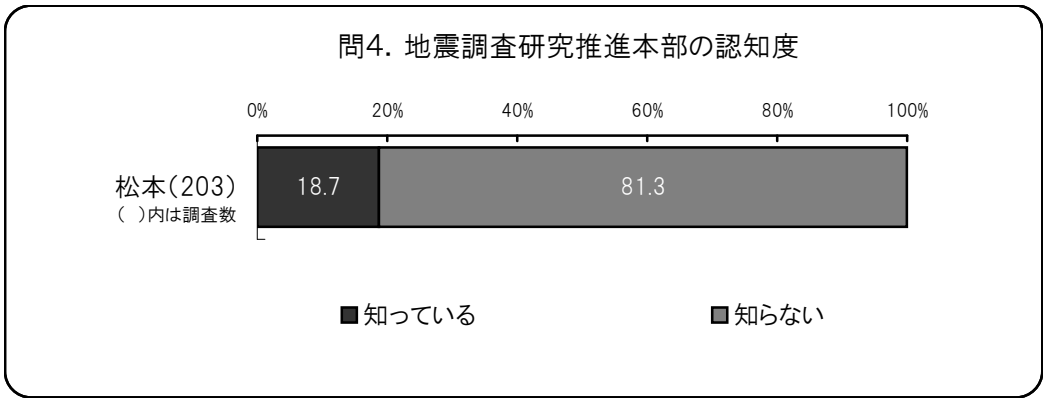
問3. 次に、地震を起こす原因になる活断層についておたずねします。あなたは、活断層ということばを聞いたことがありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

活断層という言葉の認知度は、「聞いた事があり、活断層で繰り返し地震が発生する事も知っている」が68.0%と最も高く、次いで「聞いた事はあるが、活断層で繰り返し地震が発生する事は知らない」が29.6%、「聞いたことはない」が2.0%となっている。



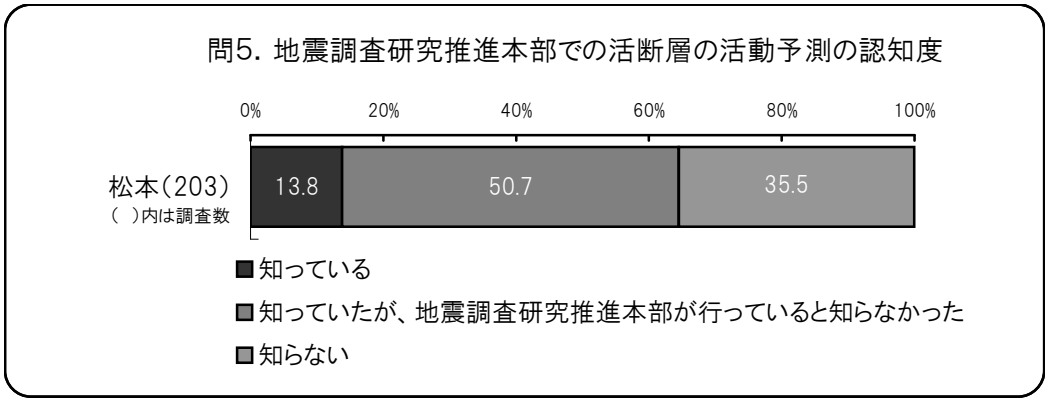
問4. 地震調査研究推進本部(の地震調査委員会)は、地震に関する調査研究を推進するため、文部科学省に設置された政府の特別機関です。あなたは、この機関のことをご存知でしたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

地震調査研究推進本部の認知度は「知らない」が81.3%、「知っている」が18.7%となっている。



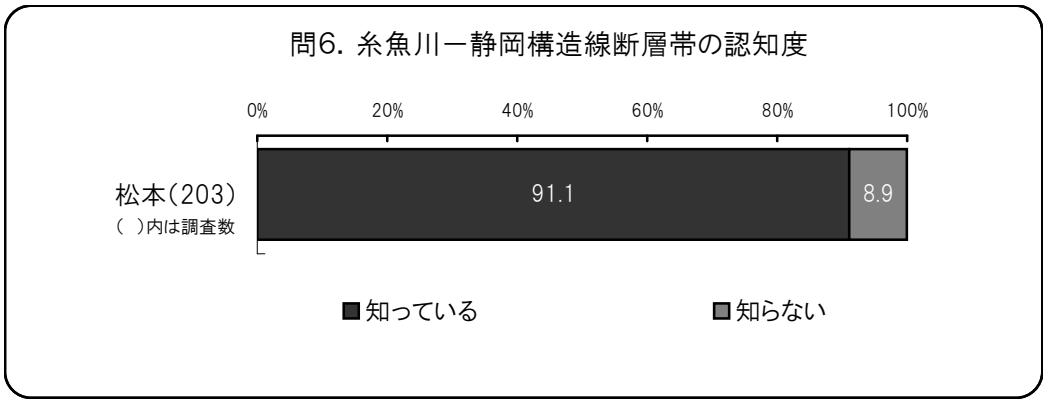
問5. 現在、地震調査研究推進本部(の地震調査委員会)では日本列島にある98の主要な活断層について、将来活断層がいつ活動するかを予測しています。あなたはこのことを知っていますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

地震調査研究推進本部での活断層の長期評価の認知度は「知っていたが、地震調査研究推進本部が行っていると知らなかった」が50.7%と最も高く、次いで「知らない」が35.5%、「知っている」が13.8%となっている。



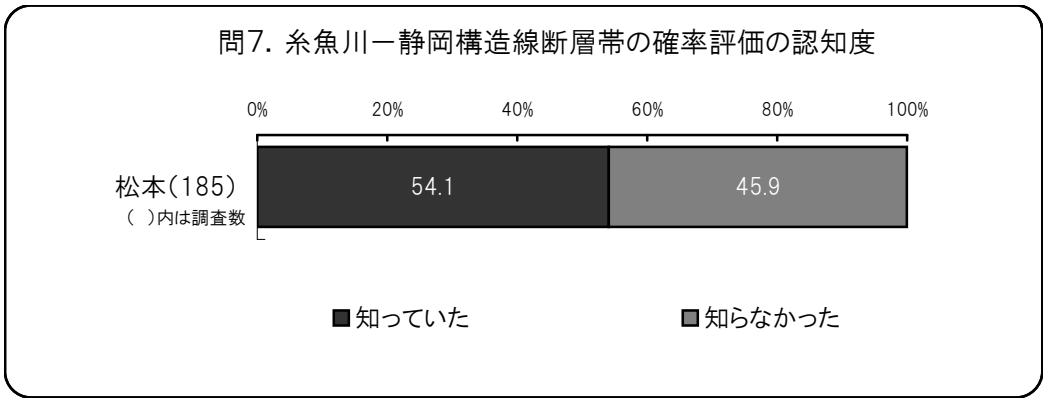
問6. あなたは、松本市の近くに糸魚川ー静岡構造線断層帯(又は牛伏寺(ごふくじ)断層)があることをご存知ですか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

糸魚川-静岡構造線断層帯の認知度は「知っている」が91.1%、「知らない」が8.9%となっている。



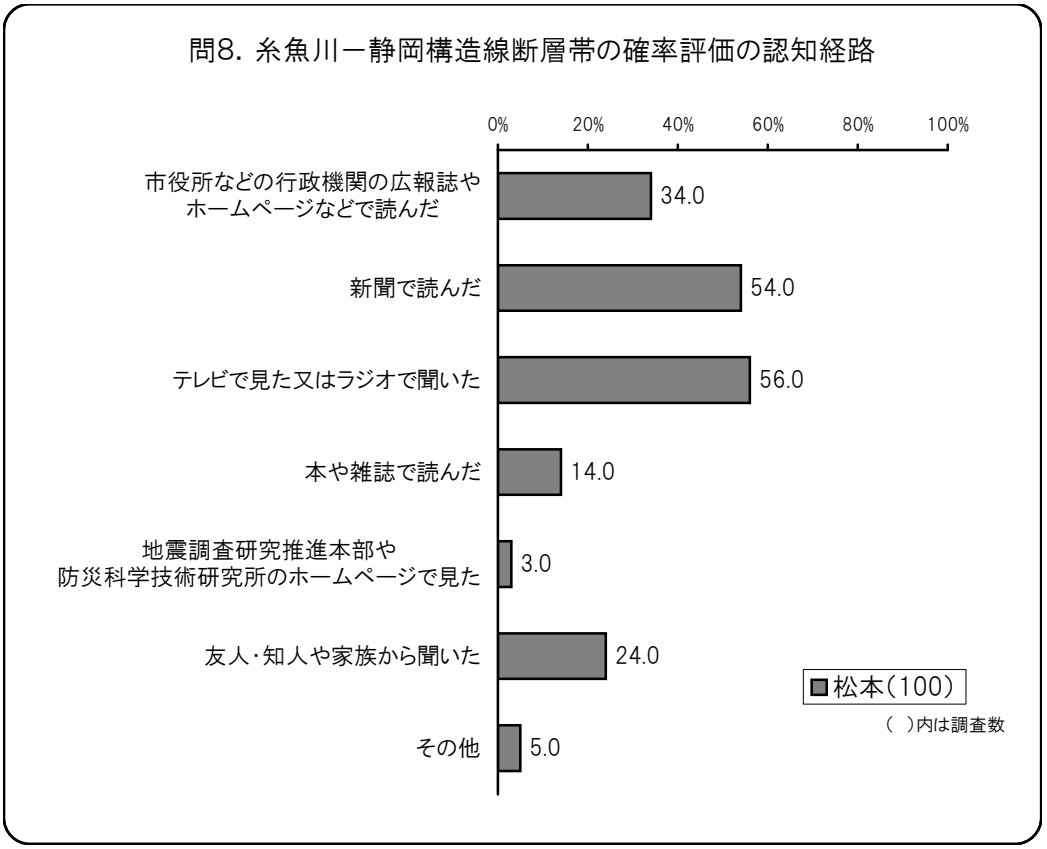
問7. （問6で「1」と答えた人におうかがいします）糸魚川－静岡構造線断層帯（又は牛伏寺断層）について、政府は、「今後30年以内に大地震が発生する確率は14%」と発表しました。あなたは、このことをご存知でしたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

糸魚川－静岡構造線断層帯の確率評価の認知度は「知っていた」が54.1%、「知らなかった」が45.9%となっている。



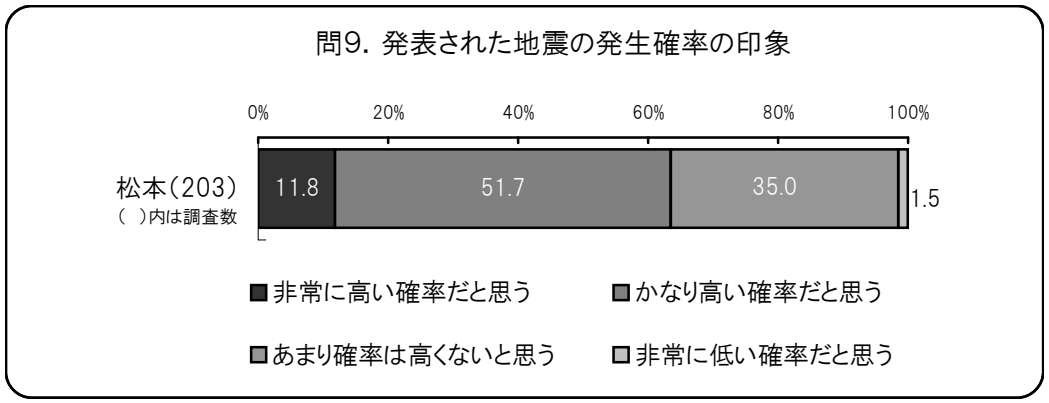
問8. （問7で「1」と答えた人におうかがいします）では、あなたは、その情報をどちらからご入手されましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

糸魚川－静岡構造線断層帯の確率評価の認知経路は「テレビで見た又はラジオで聞いた」が56.0%と最も多く、次いで「新聞で読んだ」が54.0%、「市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで読んだ」が34.0%となっている。



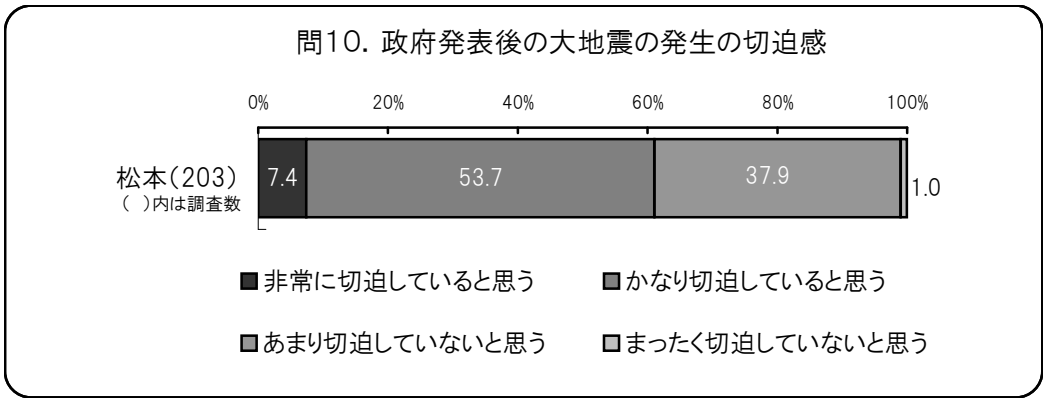
問9. あなたは「今後30年以内に大地震が発生する確率は14%」という数字について、どのように思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

発表された地震の発生確率の印象は「かなり高い確率だと思う」が51.7%と最も高く、次いで「あまり確率は高くないと思う」が35.0%、「非常に高い確率だと思う」が11.8%となっている。



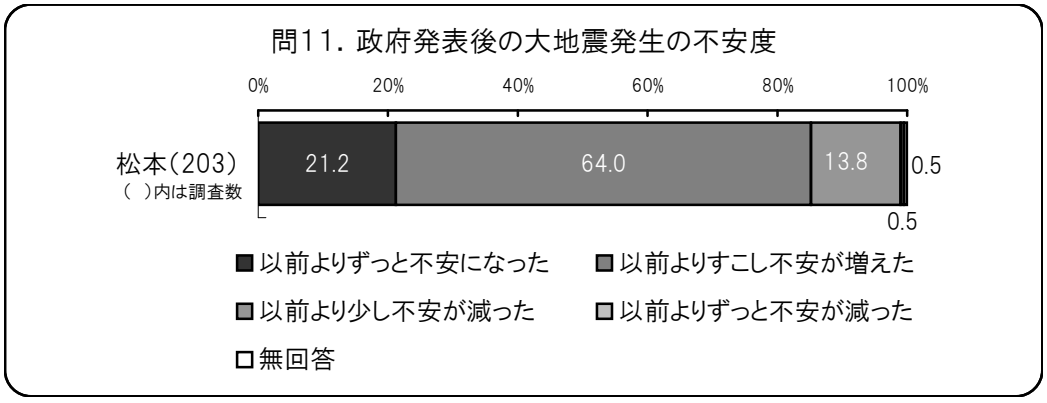
問10. あなたは、「今後30年以内に大地震が発生する確率は14%」という数字について、松本市に大きな被害を及ぼす大地震の発生が、どの程度切迫していると思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

政府発表を聞いての大地震発生の切迫感は「かなり切迫していると思う」が53.7%と最も高く、次いで「あまり切迫していないと思う」が37.9%、「非常に切迫していると思う」が7.4%となっている。



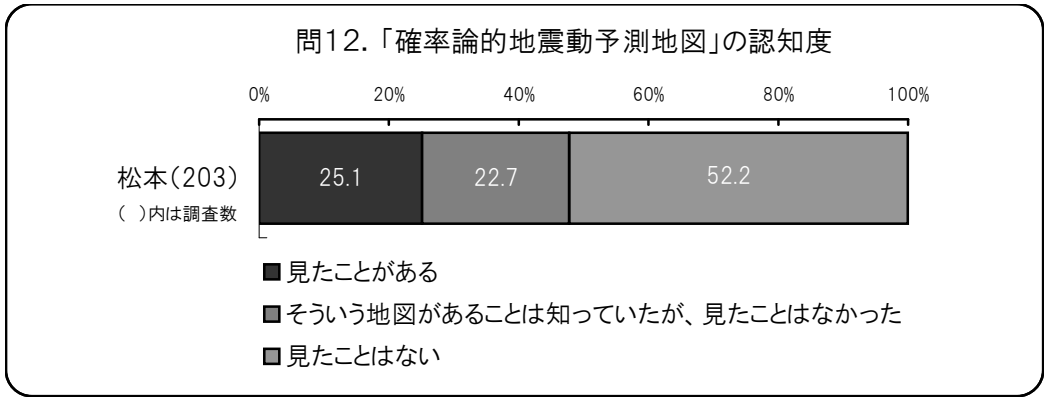
問11. あなたは「今後30年以内に大地震が発生する確率は14%」という数字について、松本市に大きな被害を及ぼす大地震に対し、どの程度の不安を持つようになりましたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

政府発表後の大地震発生の不安度は、「以前よりすこし不安が増えた」が64.0%と最も高く、次いで「以前よりずっと不安になった」が21.2%、「以前より少し不安が減った」が13.8%となっている。



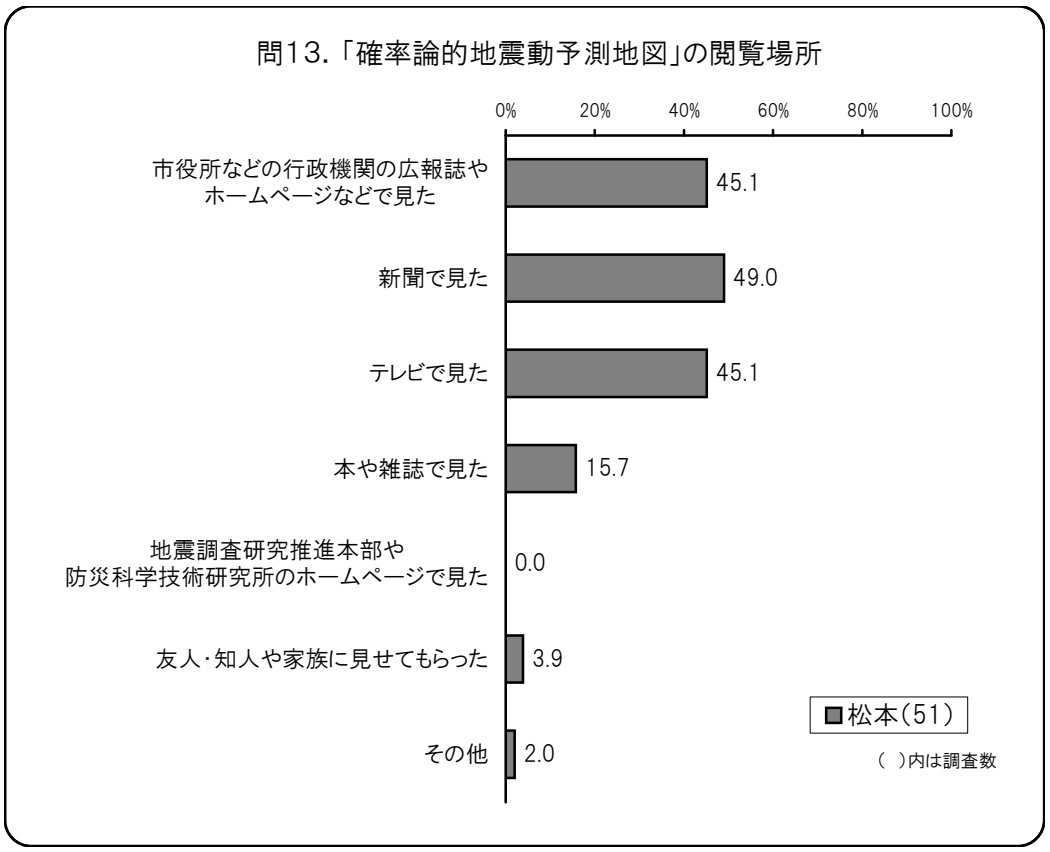
問12. 次に、確率論的地震動予測地図についておたずねします。実際の「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、お答えください。あなたは、この「確率論的地震動予測地図」をご覧になったことがありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

「確率論的地震動予測地図」の認知度は、「見たことはない」が52.2%と最も高く、次いで「見たことがある」が25.1%、「そういう地図があることは知っていたが、見たことはなかった」が22.7%となっている。



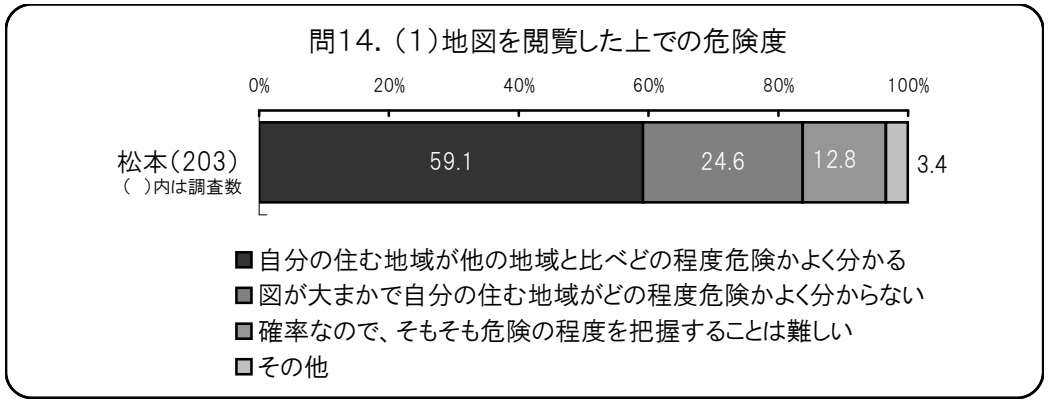
問13. （問12で「1」と答えた人におうかがいします）
それは、どちらでご覧になりましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

「確率論的地震動予測地図」の閲覧場所は、「新聞で見た」が49.0％と最も高く、次いで「市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで見た」と「テレビで見た」が45.1％となっている。



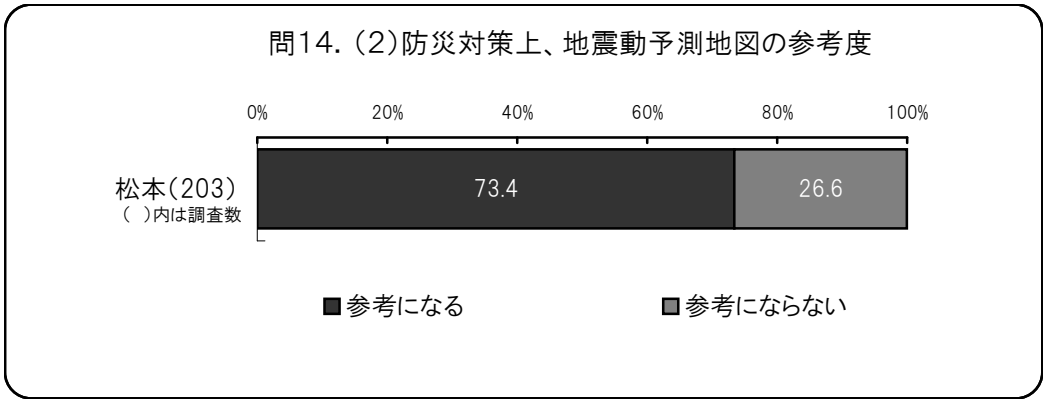
問14.　あなたはこの「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、どう思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。
(1)危険性について

地図を閲覧した上での危険度は、「自分の住む地域が他の地域と比べどの程度危険かよく分かる」が59.1%と最も高く、次いで「図が大まかで自分の住む地域がどの程度危険かよく分からない」が24.6%、「確率なので、そもそも危険の程度を把握することは難しい」が12.8%となっている。



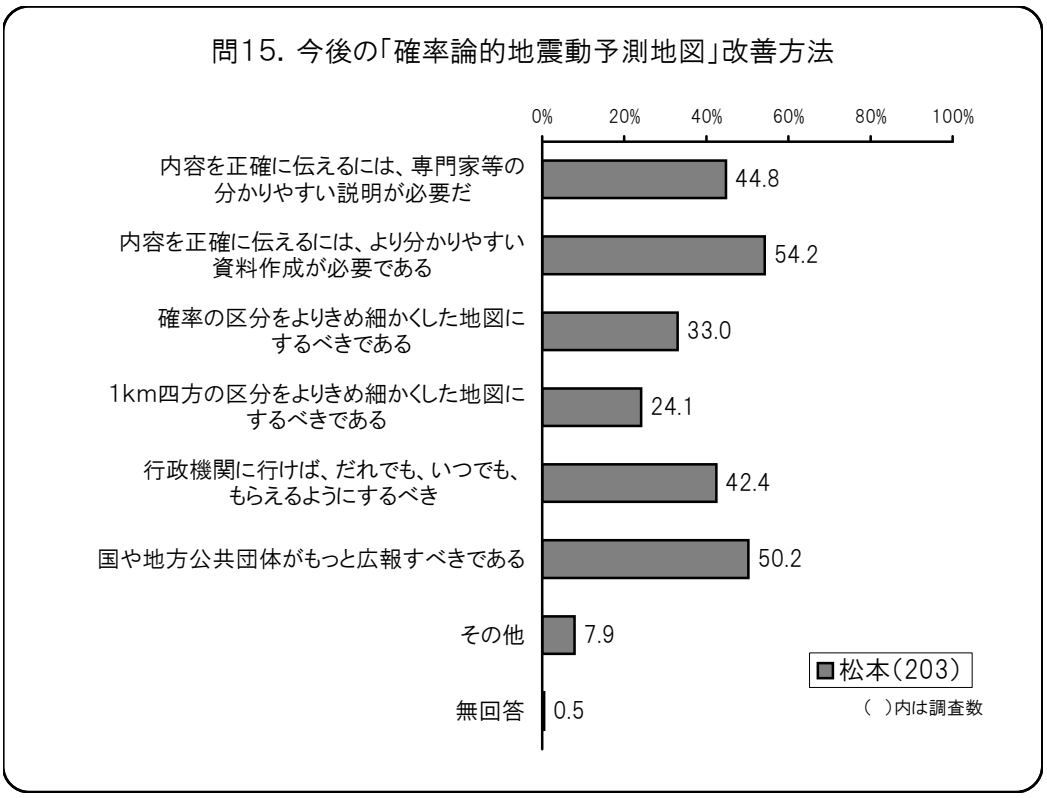
問14.　あなたはこの「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、どう思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。
(2)この地震動予測地図はわが家の防災対策を考える上で参考になるか

防災対策上、地震動予測地図の参考度は、「参考になる」が73.4%、「参考にならない」が26.6%となっている。



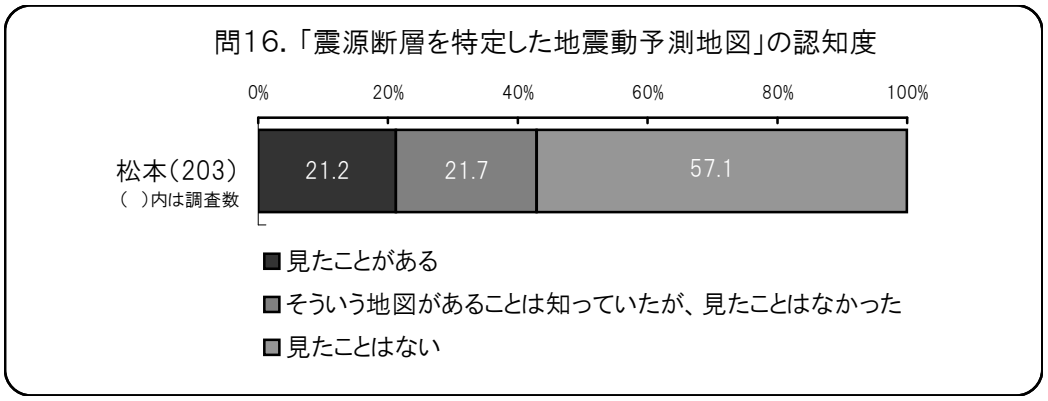
問15. では、今後、この「確率論的地震動予測地図」を市民の防災意識を高めたり、家庭の防災対策を充実したりするうえで、どのようにすべきだと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

今後の「確率論的地震動予測地図」改善方法は、「内容を正確に伝えるには、より分かりやすい資料作成が必要である」が54.2%と最も高く、次いで「国や地方公共団体がもっと広報すべきである」が50.2%、「内容を正確に伝えるには、専門家等の分かりやすい説明が必要だ」が44.8%となっている。



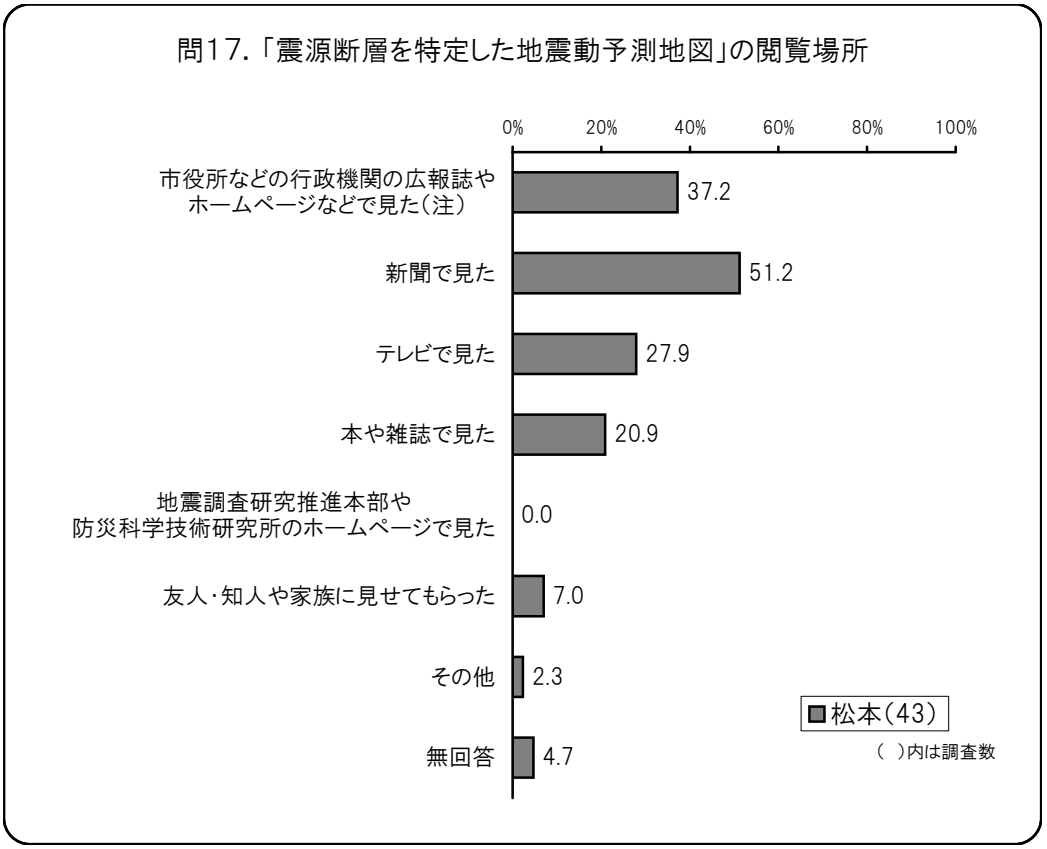
問16. 次に、強震動予測地図についておたずねします。実際の「震源断層を特定した地震動予測地図」（糸魚川－静岡構造線断層帯）をご覧になって、お答えください。あなたは、この「震源断層を特定した地震動予測地図」をご覧になったことがありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください

「震源断層を特定した地震動予測地図」の認知度は、「見たことはない」が57.1%と最も高く、次いで「そういうと地図があることは知っていたが、見たことはなかった」が21.7%、「見たことがある」が21.2%となっている。



問17. （問16で「1」と答えた人におうかがいします）それは、どちらでご覧になりましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

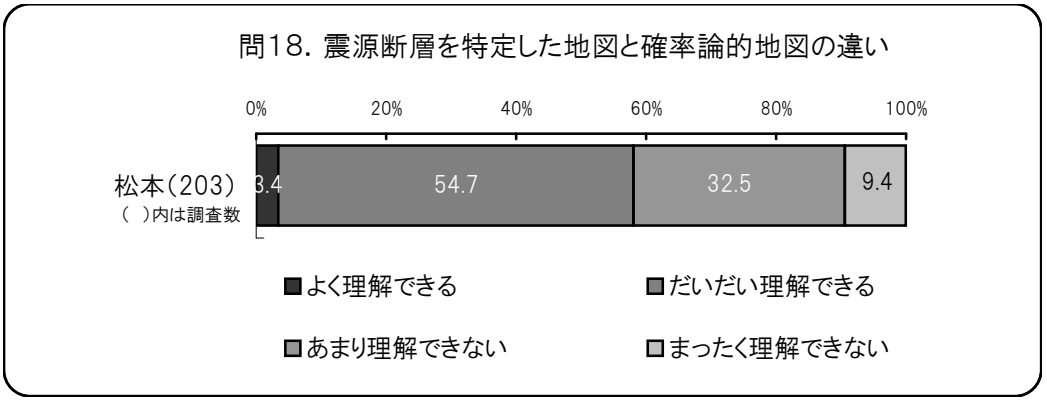
「震源断層を特定とした地震動予測地図」の閲覧場所は、「新聞で見た」が51.2%と最も高く、次いで「市役所や行政機関の広報誌やホームページなどで見た」が37.2%、「テレビで見た」が27.9%となっている。



注：地震調査委員会が公表している、「糸魚川－静岡構造線断層帯（北部・中部）の地震を想定した地震動予測地図」とは別に、長野県では独自の被害想定に基づいた同断層帯の地震を想定した計測震度の予測図を作成しホームページなどで公開している。

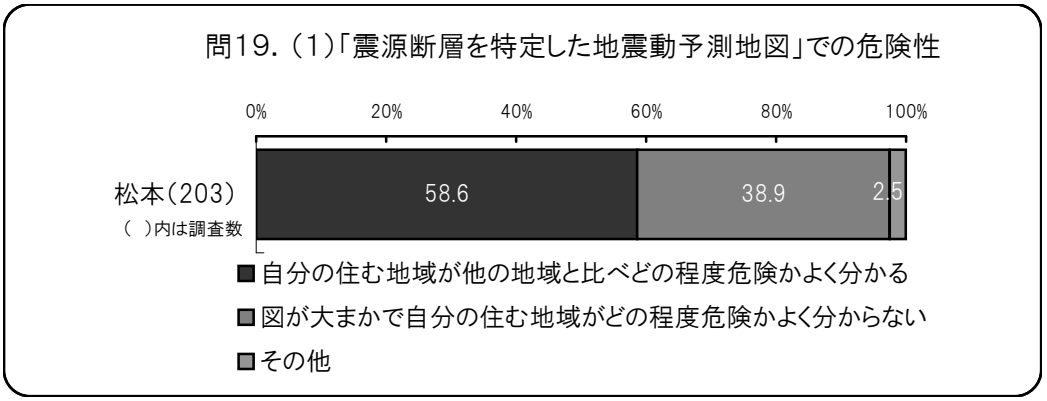
問18.あなたは、これらの「震源断層を特定した地震動予測地図」と「確率論的地震動予測地図」について、その違いを理解できますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

震源断層を特定とした地図と確率論的地図の違いは、「だいたい理解できる」が54.7%と最も高く、次いで「あまり理解できない」が32.5%、「まったく理解できない」が9.4%となっている。



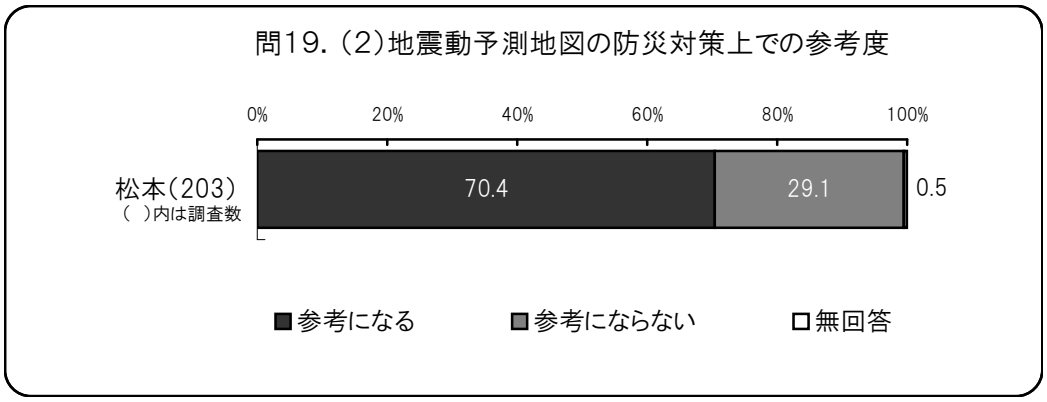
問19. あなたはこの「震源断層を特定した地震動予測地図」をご覧になって、どう思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。
(1)危険性について

「震源断層を特定した地震動予測地図」を見ての危険性の認知は、「自分の住む地域が他の地域と比べどの程度危険かよく分かる」が58.6%、次いで「図が大まかで自分の住む地域がどの程度危険かよく分からない」が38.9%、「その他」が2.5%となっている。



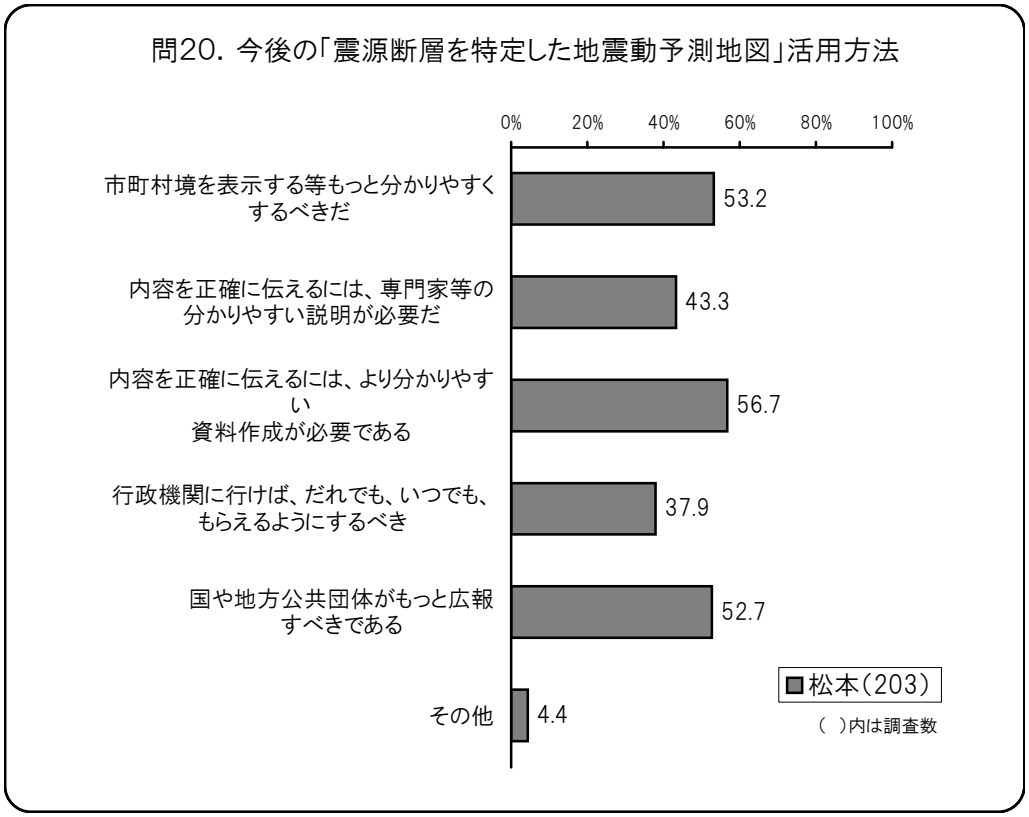
問19. あなたはこの「震源断層を特定した地震動予測地図」をご覧になって、どう思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。
(2)この地震動予測地図はわが家の防災対策を考える上で

地震動予測地図の防災対策上での参考度は、「参考になる」が70.4%、「参考にならない」が29.1%となっている。



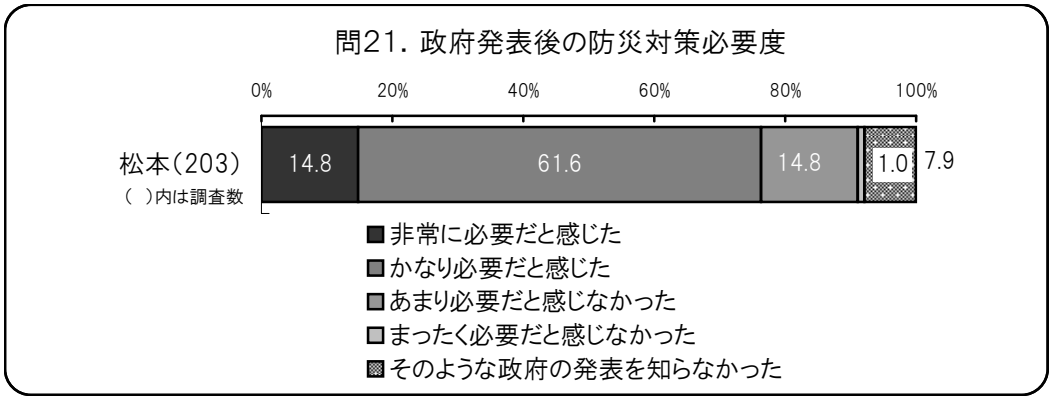
問20. では、今後、この「震源断層を特定した地震動予測地図」を市民の防災意識を高めたり、家庭の防災対策を充実したりするうえで、どのようにすべきだと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

今後の「震源断層を特定した地震動予測地図」の活用方法は、「内容を正確に伝えるには、より分かりやすい資料作成が必要である」が56.7%と最も高く、次いで「市町村境を表示する等もっと分かりやすくするべきだ」が53.2%、「国や地方公共団体がもっと広報すべきである」が52.7%となっている。



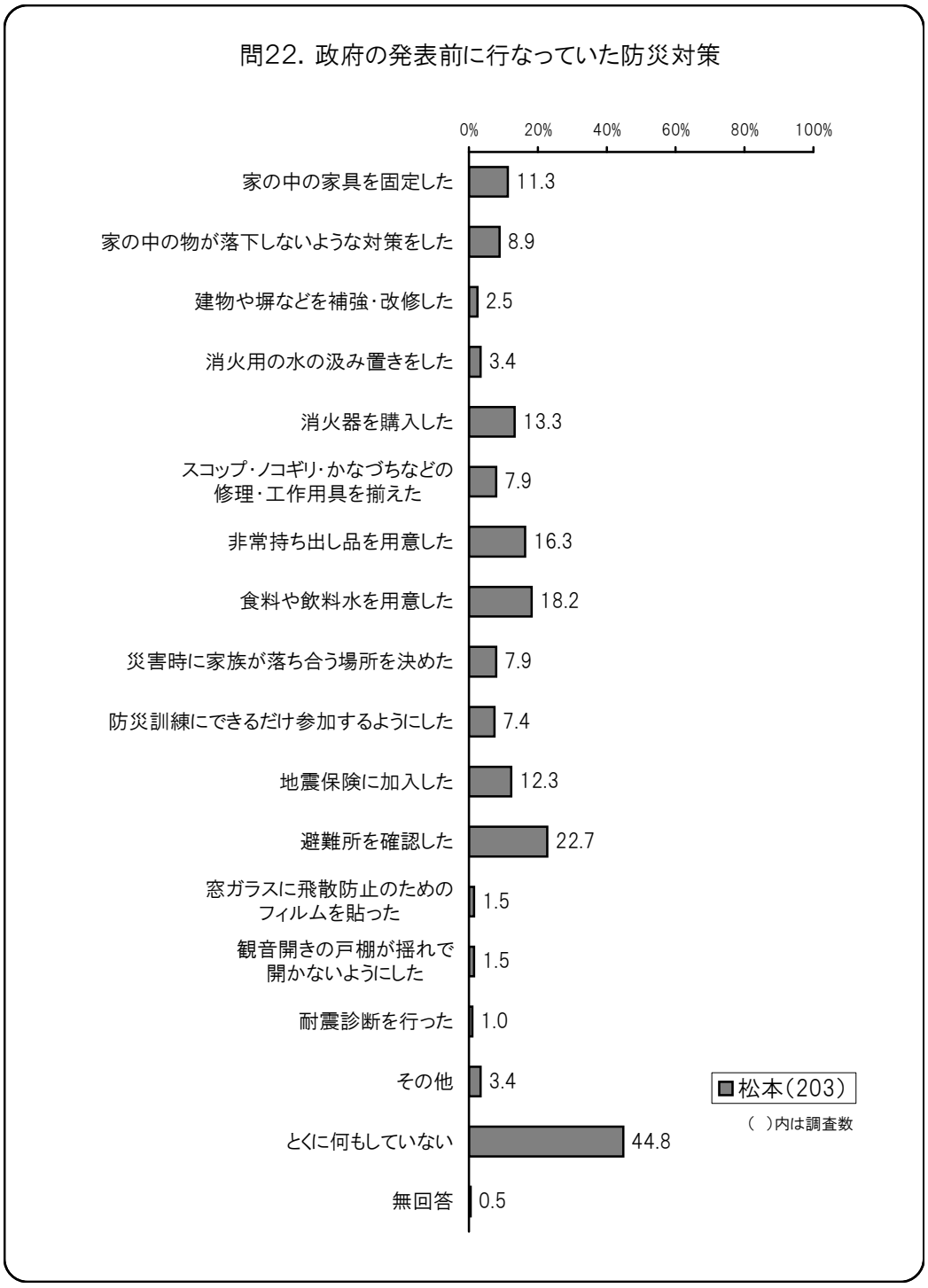
問21. 次に、お宅の防災対策についておたずねします。政府は、糸魚川－静岡構造線断層帯（又は牛伏寺断層）について、「今後30年以内に大地震が発生する確率は14%」と発表しました。あなたは、これらの発表を聞いて、地震が来る前にいろいろな防災対策をたてておく必要があると感じましたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

政府発表後の防災対策必要度は、「かなり必要だと感じた」が61.6%と最も高く、次いで「非常に必要だと感じた」と「あまり必要だと感じなかった」が14.8%となっている。



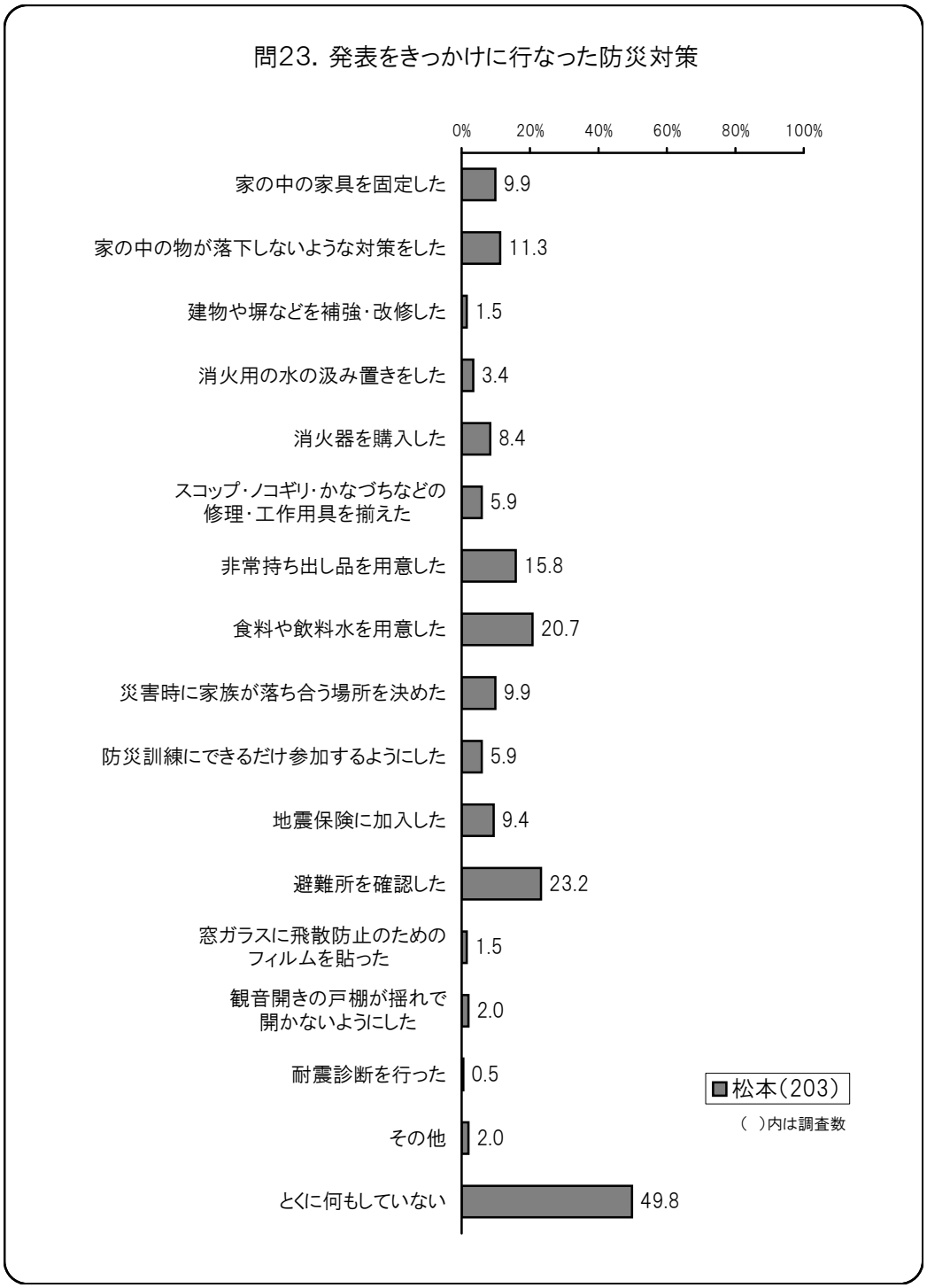
問22. お宅ではこのような政府の発表が出る前には、どのような防災対策を行っていましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

政府発表前に行なっていた防災対策は、「とくに何もしていない」が44.8%と最も高く、次いで「避難所を確認した」が22.7%、「食料や飲料水を用意した」が18.2%となっている。



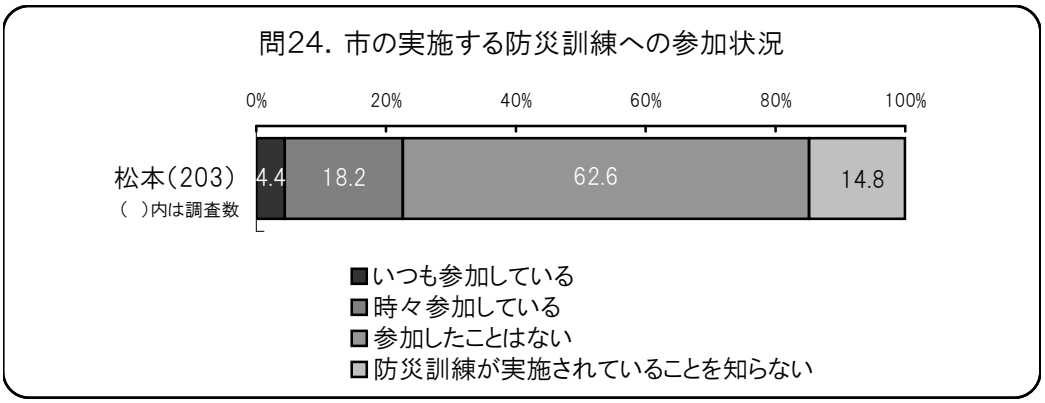
問23. では、糸魚川－静岡構造線断層帯（又は牛伏寺断層）の危険性に関する政府の発表をきっかけにして、お宅ではどのような防災対策を行いましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

発表をきかっけに行なった防災対策は、「とくに何もしていない」が49.8%と最も高く、次いで「非難所を確認した」が23.2%、「食料や飲料水を用意した」が20.7%となっている。



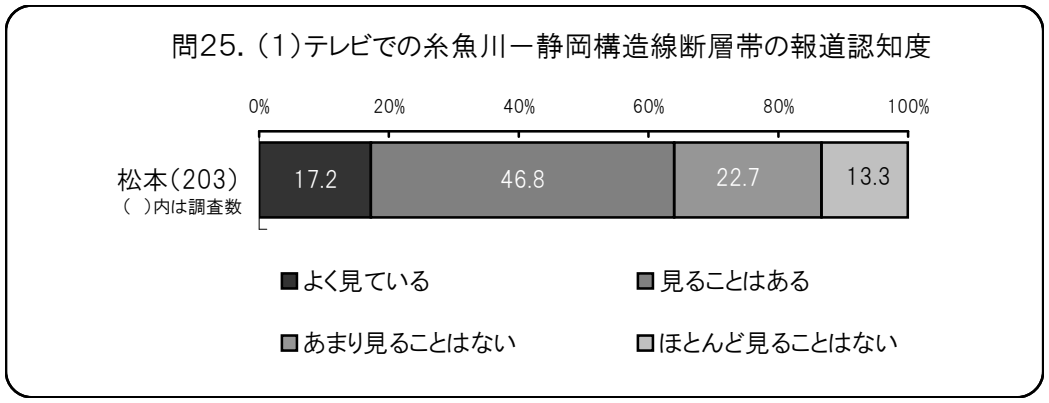
問24. あなたは、市の実施する防災訓練に参加したことがありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

市の実施する防災訓練への参加状況は、「参加したことはない」が62.6%と最も高く、次いで「時々参加している」が18.2%、「防災訓練が実施されていることを知らない」が14.8%となっている。



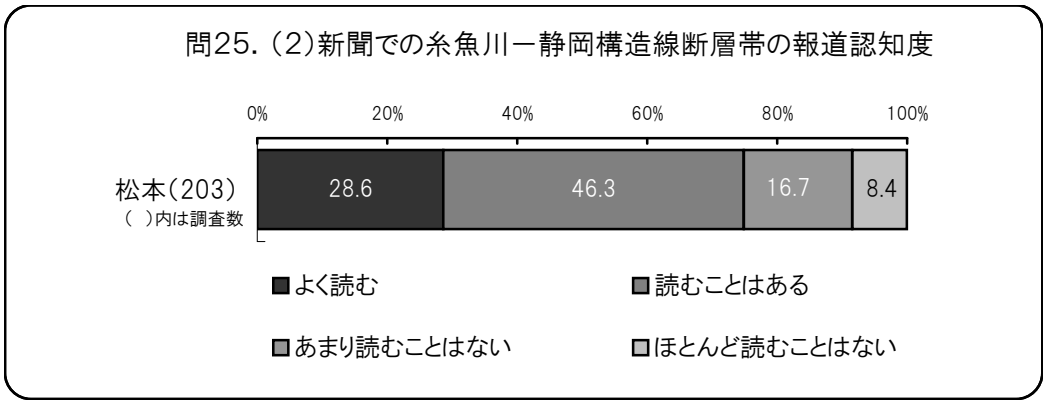
問25. あなたは、テレビや新聞で糸魚川ー静岡構造線断層帯(牛伏寺断層帯を含む)に関するニュースのことを見たり読んだりしますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。
(1)テレビで報道された場合、

テレビでの糸魚川ー静岡構造線断層帯の報道認知度は、「見ることはある」が46.8%と最も高く、次いで「あまり見ることない」が22.7%、「よく見ている」が17.2%となっている。



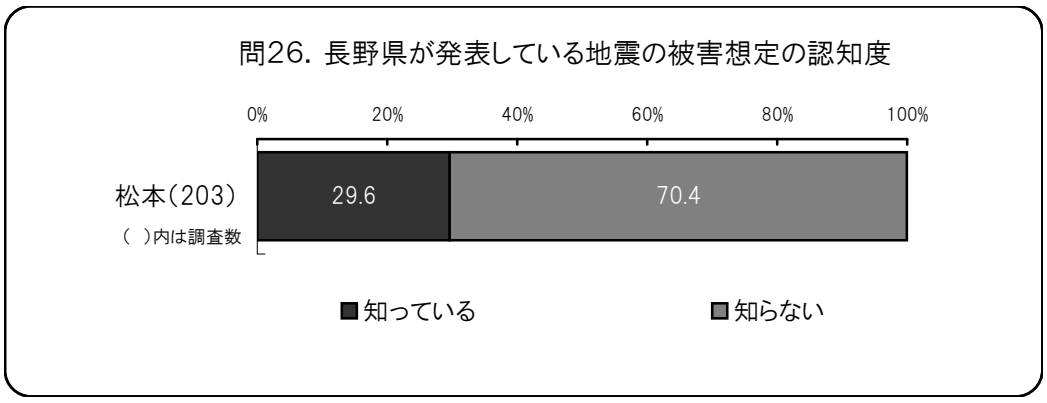
問25.　あなたは、テレビや新聞で糸魚川－静岡構造線断層帯（牛伏寺断層帯を含む）に関するニュースのことを見たり読んだりしますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。
（2）新聞で報道された場合

新聞での糸魚川－静岡構造線断層帯の報道認知度は、「読むことはある」が46.3％と最も高く、次いで「よく読む」が28.6％、「あまり読むことはない」が16.7％となっている。



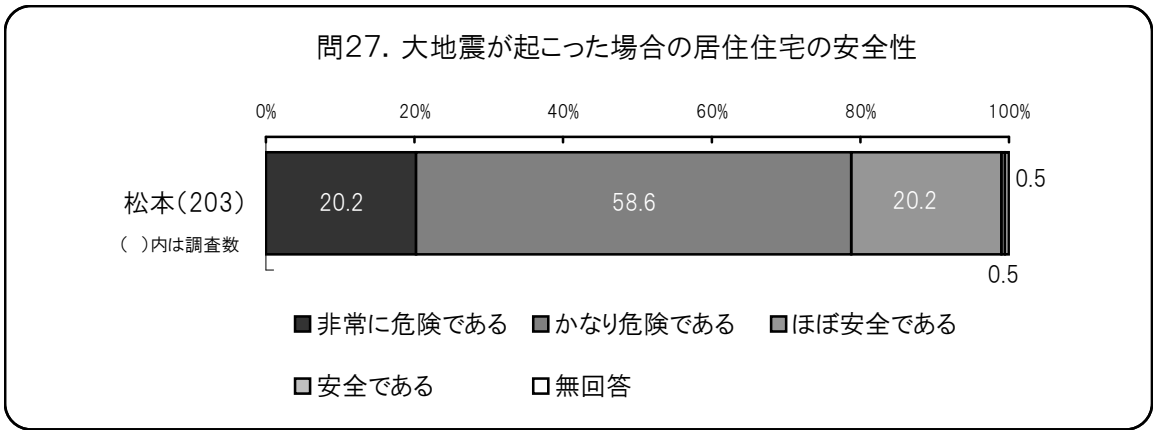
問26.　あなたは、糸魚川－静岡構造線断層帯に地震が発生した場合の被害想定を長野県が発表していることをご存知ですか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

長野県が発表している地震の被害想定の認知度は、「知らない」が70.4％、「知っているが」29.6％となっている。



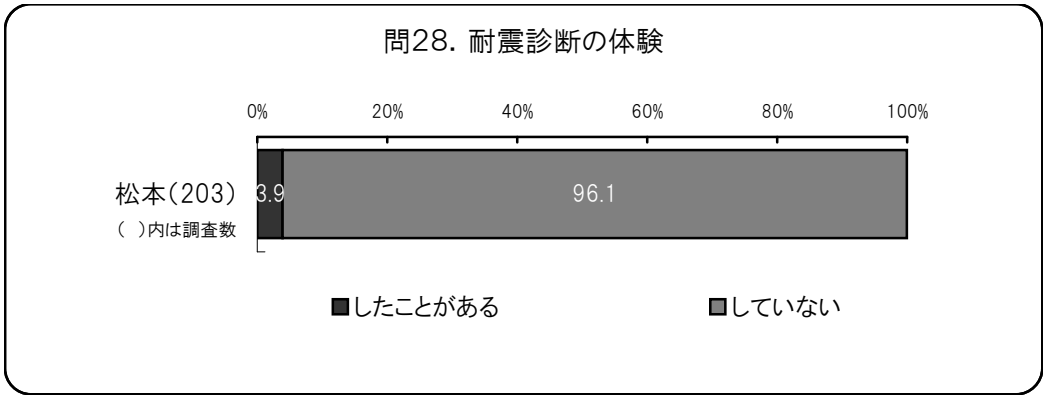
問27. では、このような大地震が起こった場合、あなたの家は安全だと思いますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

大地震が起こった場合の居住住宅の安全性は、「かなり危険である」が58.6%と最も高く、次いで「非常に危険である」と「ほぼ安全である」が20.2%となっている。



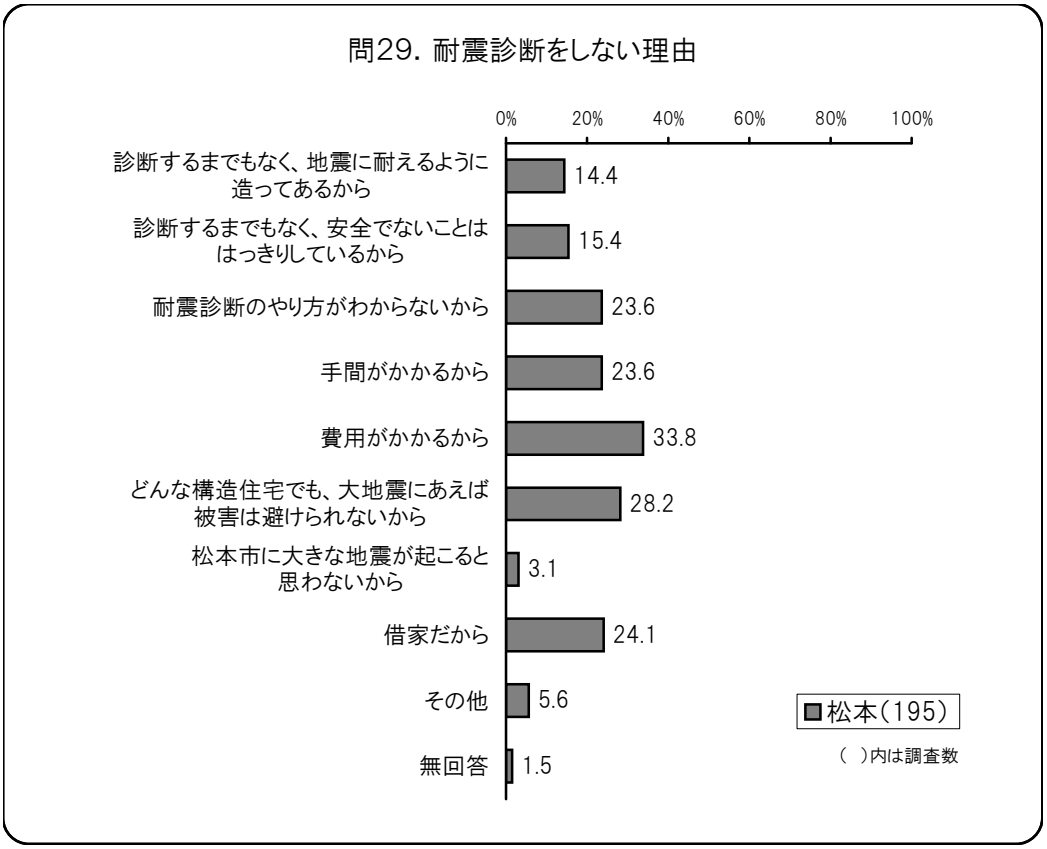
問28. お宅では、大地震に備えて、耐震診断をしたことがありますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

耐震診断の体験は「していない」が96.1%、「したことがある」が3.9%となっている。



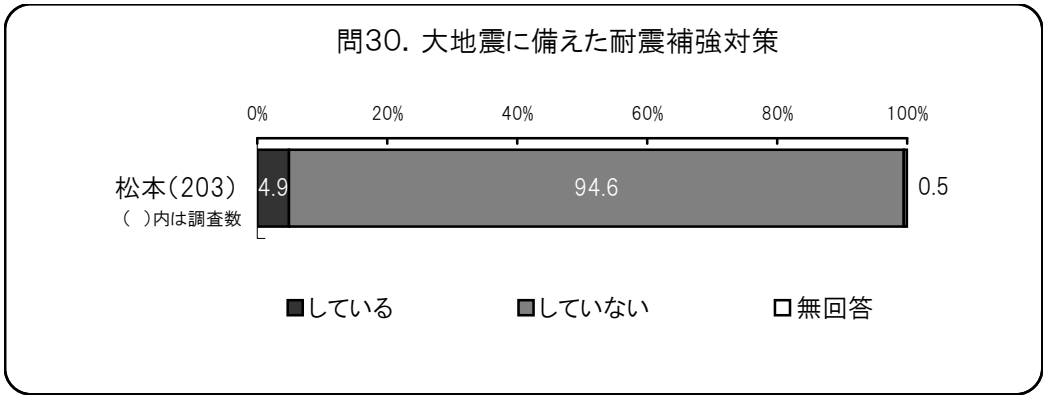
問29. （問31で「2」と答えた人におうかがいします）
お宅で耐震診断をしない理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

耐震診断をしない理由は、「費用がかかるから」が33.8%と最も高く、次いで「どんな構造住宅でも、大地震にあえば被害は避けられないから」が28.2%、「借家だから」が24.1%となっている。



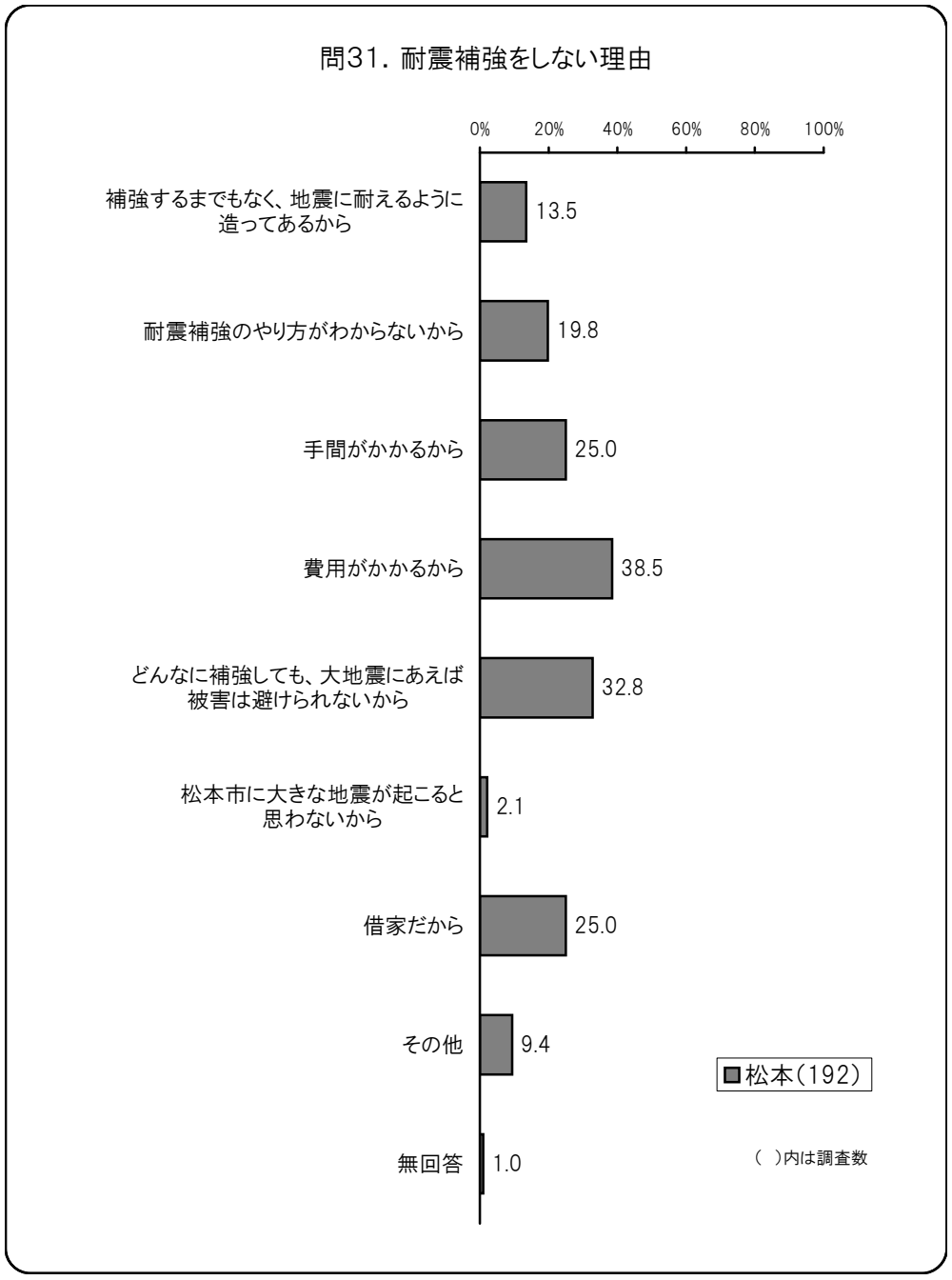
問30. では、お宅では、大地震に備えて、耐震補強をしていますか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

大地震に備えた耐震補強対策は、「していない」が94.6%、「している」が4.9%となっている。



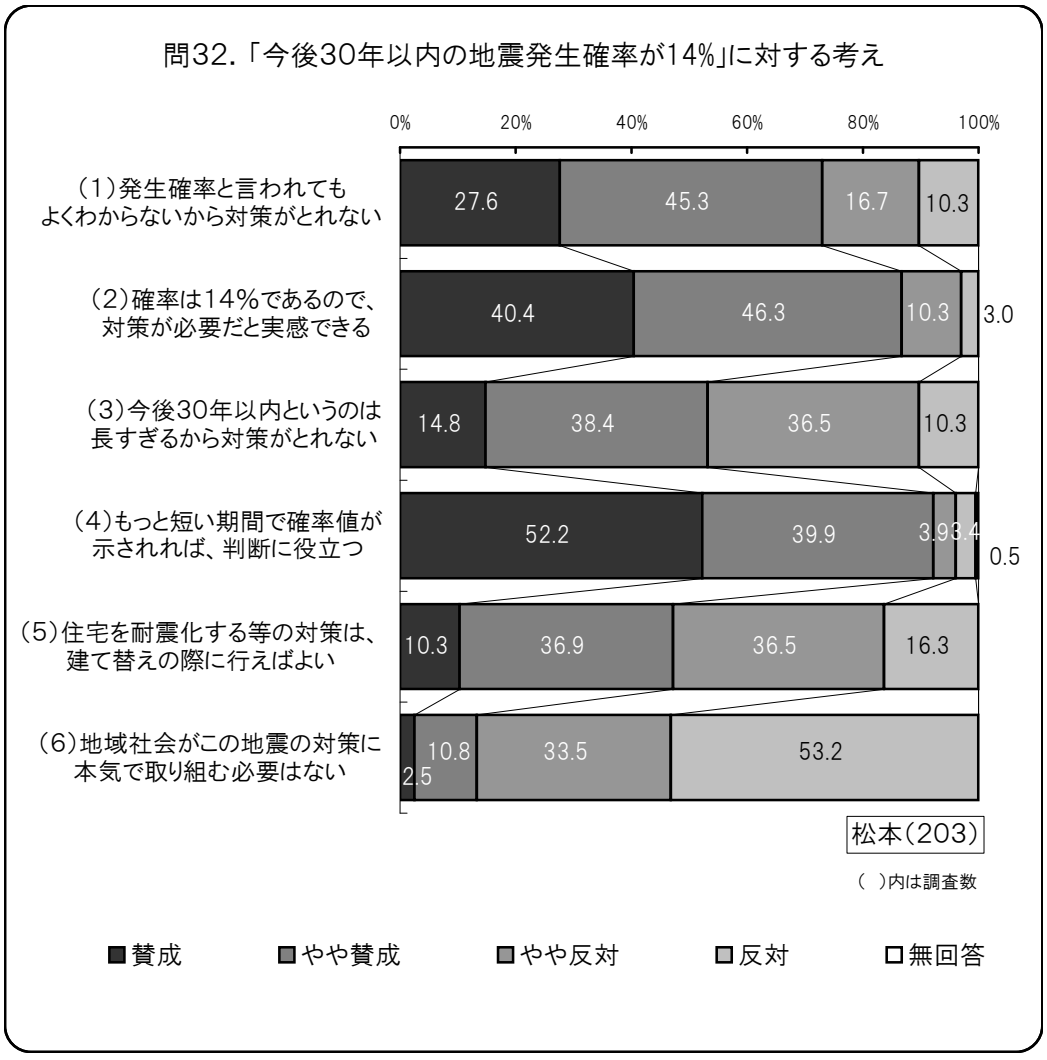
問31. （問33で「2」と答えた人におうかがいします）お宅で耐震補強をしない理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

耐震補強をしない理由は、「費用がかかるから」が38.5%と最も高く、次いで「どんなに補強しても、大地震にあえば被害は避けられないから」が32.8%、「手間がかかるから」と「借家だから」が25.0%となっている。



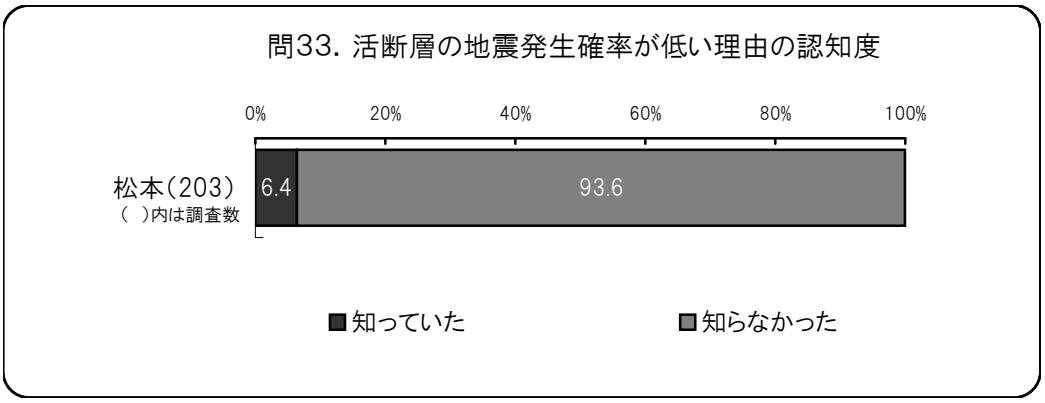
問32. 今後30年以内に糸魚川－静岡構造線断層帯（又は牛伏寺断層）で地震が発生する確率が14%ということを知って、次のような受けとめ方をする人がいます。あなたは、それぞれに対して、賛成しますか、それとも反対しますか。あなたのお考えに近いものをそれぞれひとつずつ選んでください。

「今後30年以内の地震発生確率が14%」に対する考えは、「発生確率と言われてもよくわからないから対策がとれない」やや賛成が45.3%、「確率は14%であるので、対策が必要だと実感できる」やや賛成が46.3%、「今後30年以内というのは長すぎるから対策がとれない」やや賛成が38.4%、「もっと短い期間で確率値が示されれば、判断に役立つ」賛成が52.2%、「住宅を耐震化する等の対策は、建て替えの際に行えばよい」やや賛成が36.9%、「地域社会がこの地震の対策に本気で取り組む必要はない」反対が53.2%となっている。



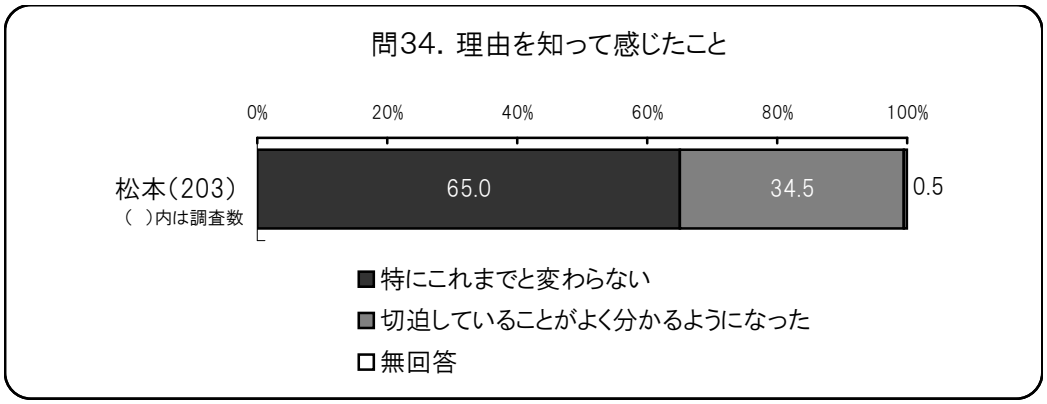
問33. 活断層は活動間隔が長い(約千年～数万年)ため、30年以内の地震の発生確率はいくら時間が経過しても高い数値にはなりません。例えば、活動の間隔が千年程度の場合、30年以内の発生確率は、20数%より高くはなりません。また、活動の間隔が1万年程度の場合、30年以内の発生確率は、3%未満の数値より高くはなりません。あなたはこのことをご存知でしたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

活断層の地震発生確率が低い理由の認知度は「知らなかった」が93.6%、「知っている」が6.4%となっている。



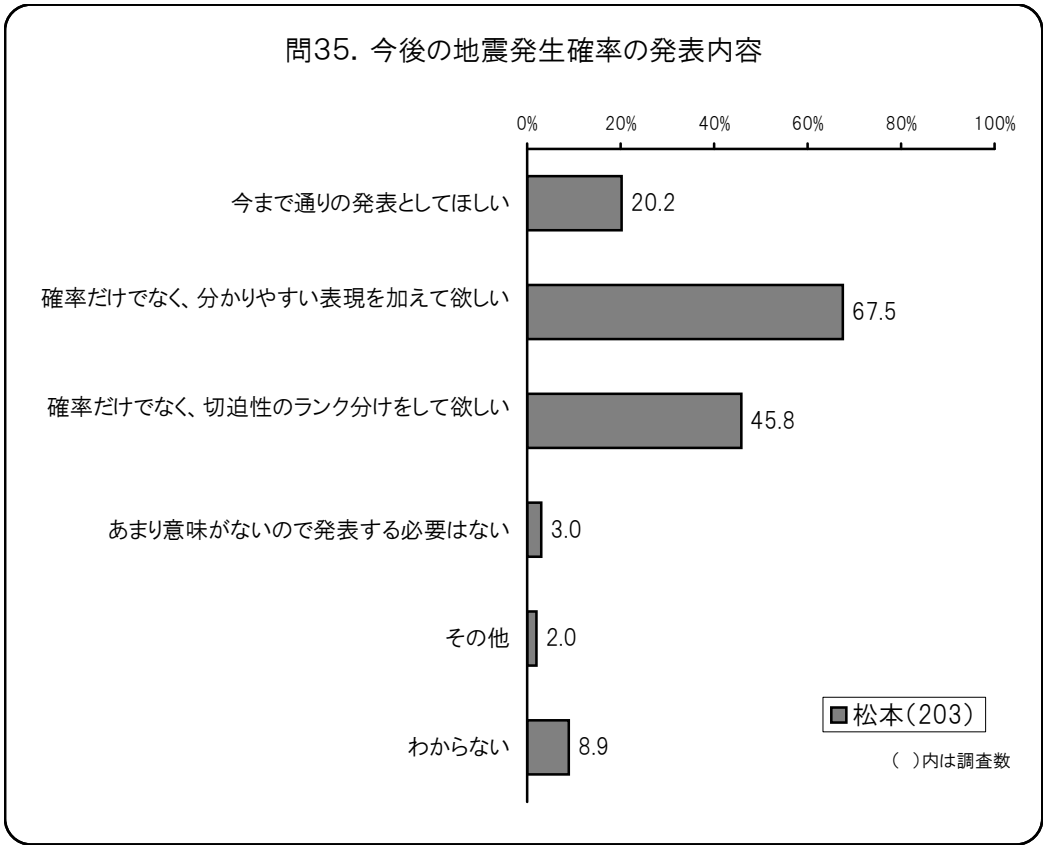
問34. では、あなたは、このことを聞いて、どのように感じましたか。あてはまるものをひとつだけ選んでください。

理由を知って感じたことは、「特にこれまでと変わらない」が65.0%、「切迫していることがよく分かるようになった」が34.5%となっている。



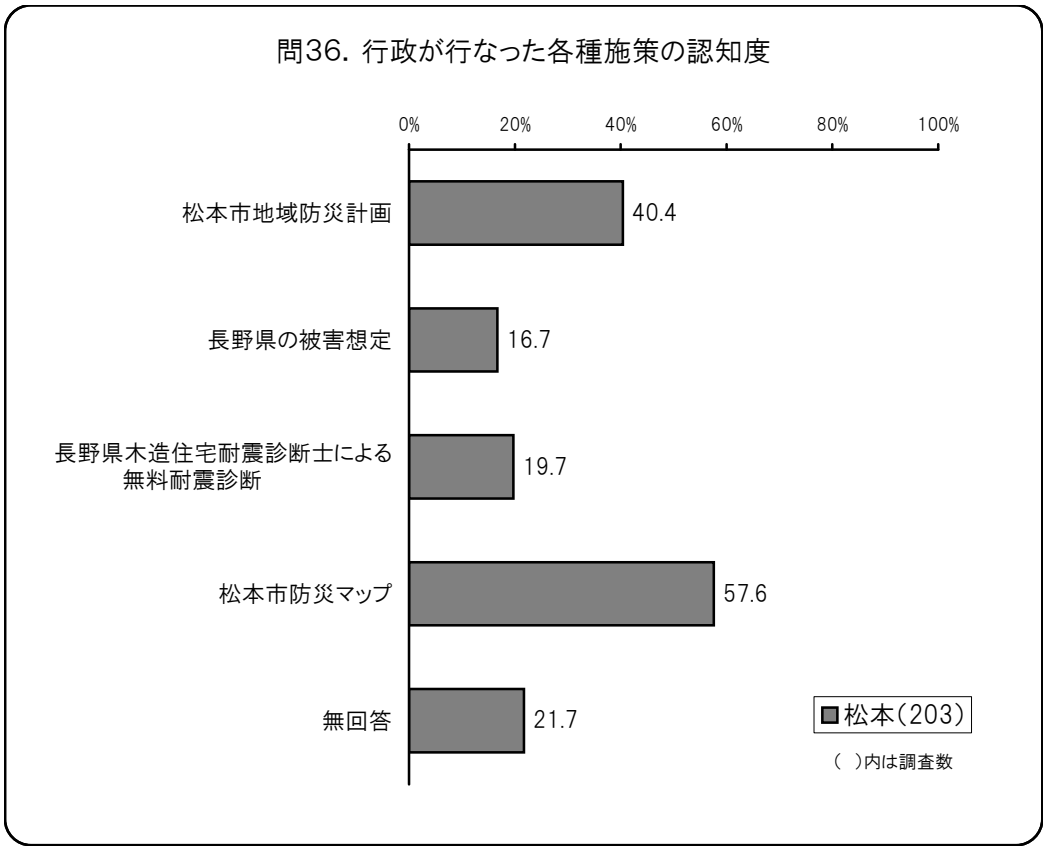
問35. 活断層は活動間隔が長い(約千年～数万年)ため、30年以内の地震の発生確率は高い数値にはなりません。あなたは活断層で発生する地震の発生確率について、今後どのように発表すべきだと思いますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

今後の地震発生確率の発表内容は、「確率だけでなく、分かりやすい表現を加えて欲しい」が67.5%最も高く、次いで「確率だけでなく、切迫性のランク分けをして欲しい」が45.8%、「今まで通りの発表としてほしい」が20.2%となっている。



問36. この地震に対応するために行政が行った各種施策の中で、ご存知なものをいくつでも選んでください。

行政が行なった各種施策の認知度は「松本市防災マップ」が57.6%と最も高く、次いで「松本市地域防災計画」が40.4%、「長野県木造住宅耐震診断士による無料耐震診断」が19.7%となっている。



Ⅳ　調査結果のまとめ

東洋大学　社会学部　教授　田中　淳
社会学部　教授　中村　功

１　大地震への切迫感・不安感

名古屋市も松本市も、大地震発生への切迫感や不安感は高い。

まず、居住する市で、大地震の発生が切迫していると思うかという問いに対して、名古屋市の回答者の 13%が大地震発生が「非常に切迫している」と感じており、59%の人が「かなり切迫している」と感じている、名古屋市の回答者の 72%が大地震発生に対して切迫感を持っていることがわかる[名. 問 1]。松本市ではやや比率は下がるが、それでも 5%が「非常に切迫している」、そして 52%が「かなり切迫している」と感じており、松本市の回答者の 57%が大地震発生に対して切迫感を持っていることがわかる[松. 問 1]。ちなみに、芸予地震の被害を受けた呉市民と松山市民を対象にした別の調査では「ここでは、大地震は全く関係のないものだと思っていた」と 54%が思っており、「ひょっとしたら」と思っていた人でも 40%、「ここでも大きな地震があるだろうと思っていた」人は 6%にとどまっていたという結果もある。今回の調査での回答選択肢とは表現は異なるが、名古屋市と松本市では大地震発生に対する切迫感が高いことがわかる。**(図 1)**

自分が居住する市で、大きな被害を及ぼす大地震が起こるかもしれないという不安があるかという問い対して、名古屋市では「非常に不安がある」という回答が 22%、「かなり不安がある」という回答が 53%、あわせると 75%の人が大地震が起こるかもしれないという「不安がある」と回答している[名. 問 2]。松本市でも 12%の回答者が「非常に不安がある」と答え、48%の回答者が「かなり不安がある」があると答えており、あわせて 60%の人が大地震が起こるかもしれないという不安感を持っていることがわかる[松. 問 2]。**(図 2)**

また、松本市では回答者の 91%が「糸魚川－静岡構造線断層帯または牛伏寺断層」を知っていると回答している[松. 問 6]。名古屋市では、被害をもたらす可能性のある地震としてそれを知っているかという設問に対して、83%が「東海地震」を知っており、78%が「東南海地震」を知っていた[名. 問 6]。全国的に知られている東海地震と比べても、松本市での糸魚川－静岡構造線断層帯の認知率が高いことがわかる。切迫感にせよ不安感にせよ、曖昧な感覚ではなく、具体的な地震に対して形成されていると言えよう。

（数値は%）

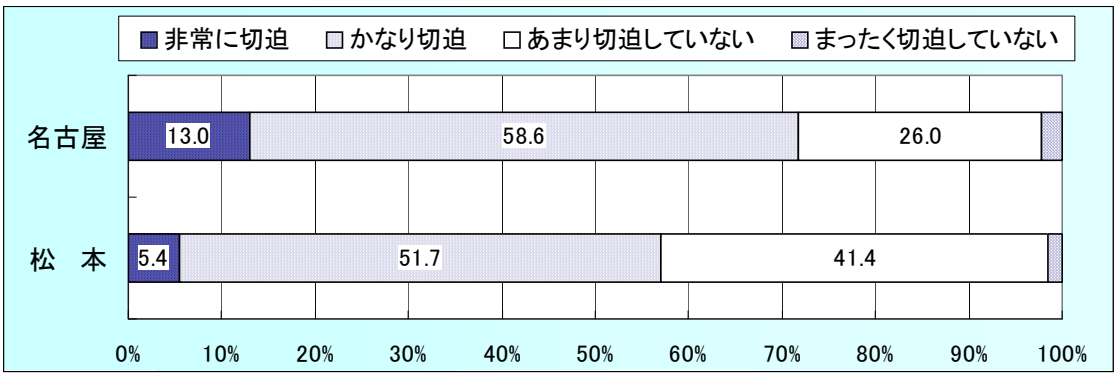


図１　大地震への切迫感

[名.問　]は名古屋市調査の設問番号、[松.問　]は松本市調査の設問番号

（数値は%）

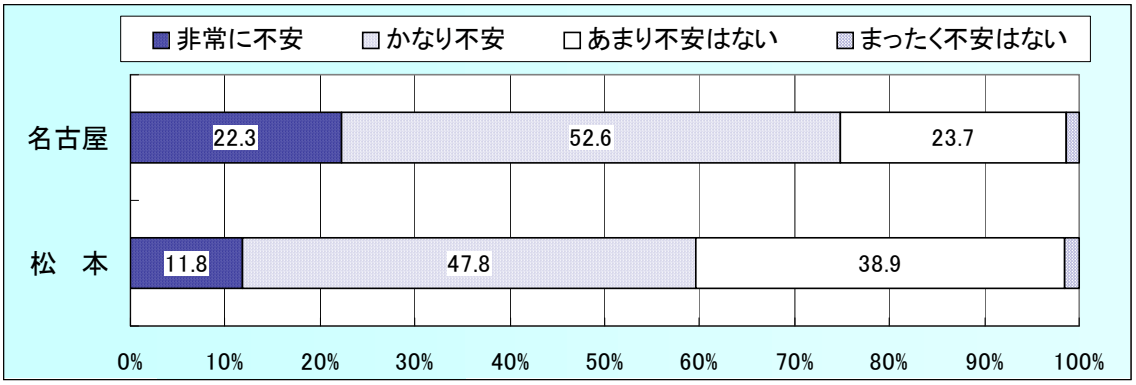


図２　大地震発生への不安感

２　長期評価の認知

この地震に対する高い意識は、長期評価の成果の一つとも考えられる。今回の調査では、長期評価がその対象としている「活断層」という言葉は定着していることがわかった[名・松. 問 3.]。活断層という言葉を７割前後の人が聞いた事があり、名古屋市では 71%、松本市では 68%の回答者が「活断層で繰り返し地震が発生する事も知っている」と回答している。その意味として、「繰り返し地震が発生することまでは知らなかった」人も名古屋市で 24%、松本市で 30%いるが、まったく「聞いたことはない」人は少ない（名古屋市 5%、松本市 2%）。

政府が活断層や海溝型地震の長期評価で確率評価を発表していることもよく知られており、名古屋市では「東南海地震」の確率評価について、61%が知っており[名. 問 7]、松本市では「糸魚川-静岡構造線断層帯」についての確率評価が発表されていることを 54%が知っていた[松. 問 7]（図３）。

ただし、その確率評価を地震調査研究推進本部が行っていることはあまり知られていない（名古屋市 11%、松本市 14%）[名・松. 問 5]。そもそも地震調査研究推進本部を知っている人自体が少ない（名古屋市 17%、松本市 19%）という結果になっている[名・松. 問 4]。

（数値は%）

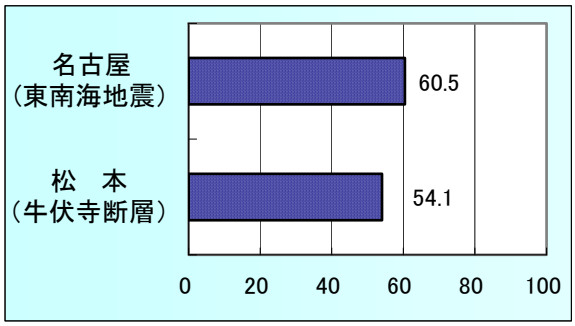


図３　評価結果発表の認知

（数値は%）

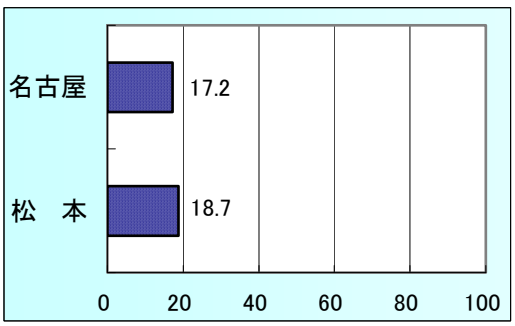


図４　地震調査推進本部の認知率

（数値は%）

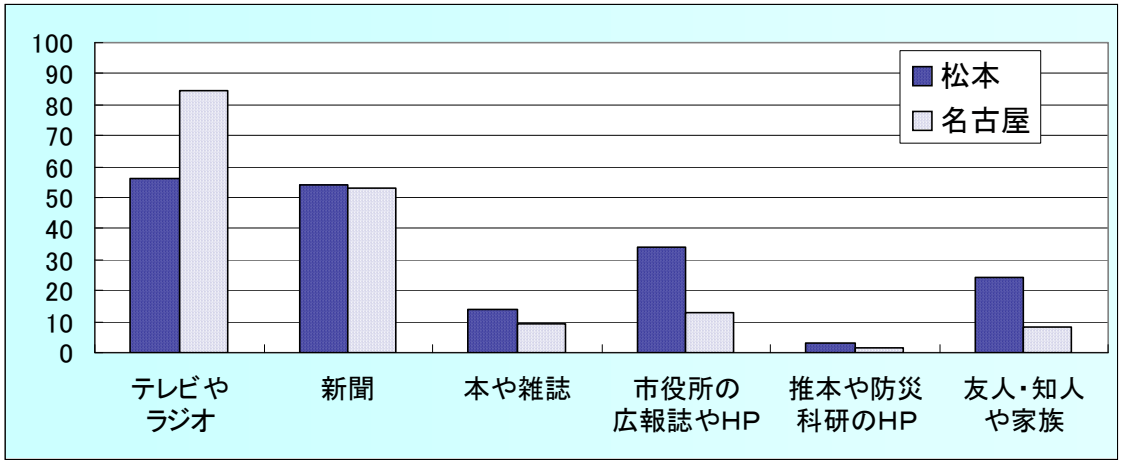


図５　認知経路

地震調査研究推進本部の情報に関する認知経路は、**図５**に示したように、「テレビやラジオ」（名古屋市 85%、松本市 56%）や「新聞」（名古屋市 53%、松本市 54%）とマスコミを通して知った人が多い[名・松.問 8]。

今回の調査結果を見る限り、地震調査研究推進本部の自体は、市民にはあまり知られていないことになる。しかし、その成果は認知されており、地震調査研究推進本部が行っている長期評価の社会的使命は充分に果たされていると言えよう。

３　発生確率発表の効果

確率の値が低い場合には、危険性を低く見られることも懸念されるが、今回の調査結果をみるかぎり、その懸念は特に問題とするほどではないことを示す。**図６**に示したように、発生確率が 60%と公表された東南海地震では、名古屋の回答者の 21%が「非常に高い確率だと思う」と回答し、また 69%が「かなり高い確率だと思う」と回答している。さすがに 60%という地震発生確率が公表された東南海地震に関しては、あわせると 9 割以上が高いと受け止めていることになる[**名. 問 9**]。

他方、地震発生確率が 14%と評価・公表された糸魚川－静岡構造線断層帯については、「あまり確率は高くないと思う」と見た人が 35%と多くなる。しかし、「非常に高い確率だと思う」と受け止めた松本市の回答者こそ 12%と少数であるが、52%が「かなり高い確率だと思う」と見ており、あわせると 3 分の 2（68%）の回答者が、発生確率 14%という数字を高い確率と受け止めていることがわかる[**松. 問 9**]。

また、発生確率の数字を聞いての地震に対する切迫感を問うた設問に対しても[**名・松. 問 10**]、「非常に切迫していると思う」と回答した人が名古屋市で 14%、松本市で 7%となり、「かなりに切迫していると思う」という回答者が名古屋市 66%、松本市 54%で、発生確率の数字に切迫感を感じた回答者は名古屋市で 80%、松本市で 61%となっている。同じように発生確率の数字を聞いての不安感を問うた設問に対しては、**図７**に示したように両市の回答者とも不安と感じるという回答率が高くなっている。一方、松本市で発生確率 14%と聞いて「以前よりずっと不安が減った」という回答が 0.5%、「以前より少し不安が減った」という回答が 14%あり、この 14%弱の人には発生確率 14%という数字が安心情報となった可能性はある。

（数値は%）

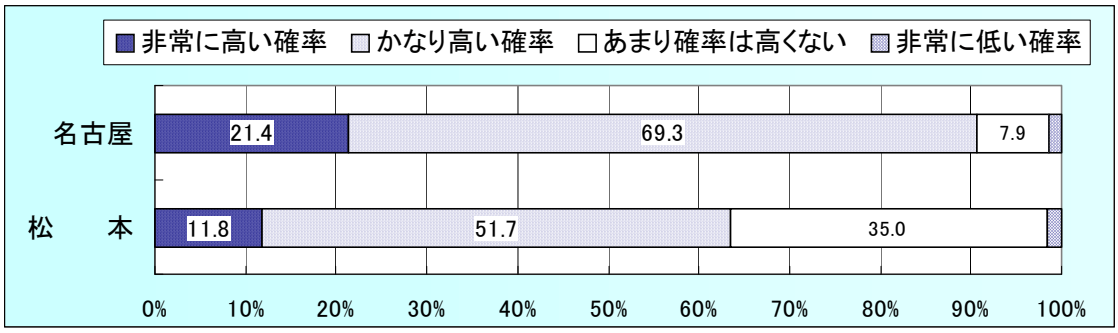


図６　発表された発生確率の評価

（数値は%）

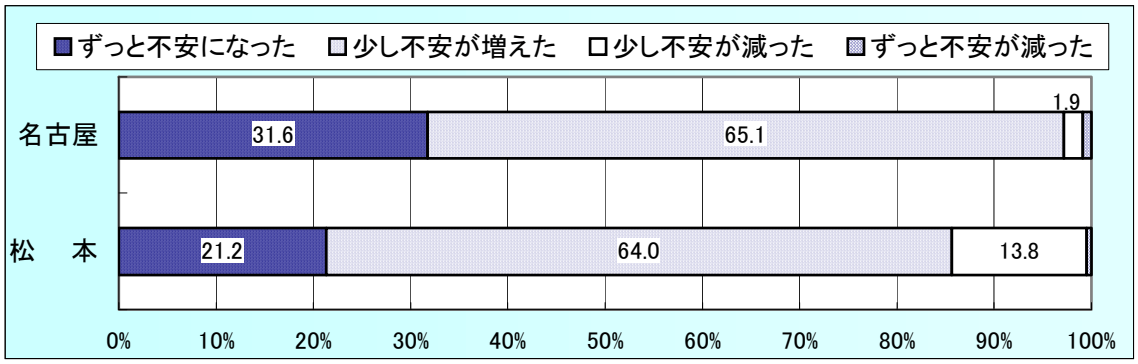


図７　政府発表後の不安度

４　確率表現の評価

しかし、地震の発生確率の意味そのものが正しく理解されているとは限らない。地震の危険性の指摘自体が危機意識を向上させた可能性も考えられる。今回の調査では、牛伏寺断層を含む糸魚川－静岡構造線断層帯の評価で地震発生確率が 14%と公表され、大地震の発生が懸念される松本市での調査で、「活断層は活動間隔が長い（約千年～数万年）ため、30 年以内の地震の発生確率はいくら時間が経過しても高い数値にはなりません。活動の間隔が千年程度の場合で高くても 20 数%より高くならず、1 万年程度の場合には 3%未満の数値より高くはなりません」と説明し、そのことを知っていたかを調べている[松. 問 33]。その結果をみると、説明した内容について、回答者の 94%が「知らなかった」と答えている。また、この説明を知らせた上で改めて、発生確率の数字の印象を聞いてみたが、「切迫していることがよく分かるようになった」という回答が 35%ある一方、「特にこれまでと変わらない」という人が 65%と 3 分の 2 を占めた[松. 問 34]。確率の説明の難しさを示す結果と言えよう。

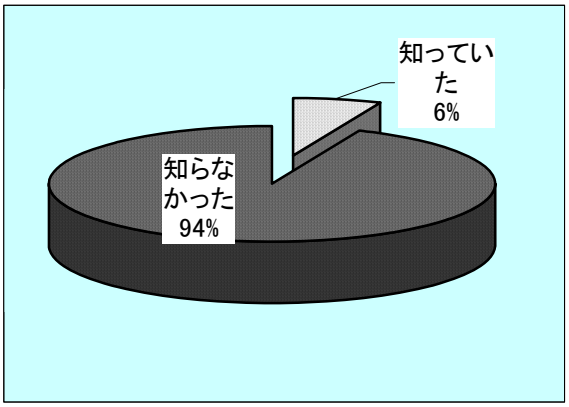


図８　確率の意味

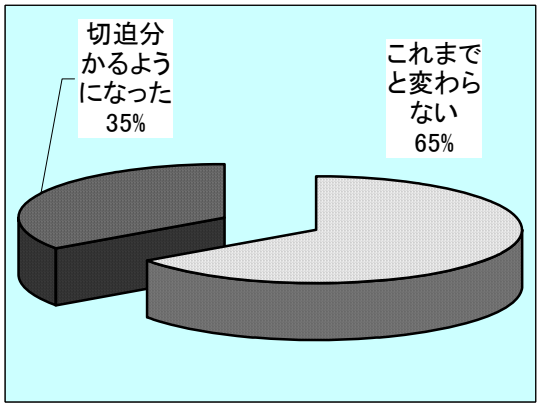


図９　補足説明の効果

表１　確率表現への意見

	確率はよくわからない	対策の必要を実感	30 年は長すぎる	もっと短い期間で	建て替え時に耐震化	取り組む必要はない
	名古屋	名古屋	名古屋	名古屋	名古屋	名古屋
賛　　成	21.9	43.3	12.6	60.5	13.5	3.3
やや賛成	41.9	50.2	39.5	33.5	27.4	7.0
やや反対	20.5	5.1	27.4	4.2	40.0	32.6
反　　対	15.8	1.4	20.5	1.9	19.1	57.2
	松 本	松 本	松 本	松 本	松 本	松 本
賛　　成	27.6	40.4	14.8	52.2	10.3	2.5
やや賛成	45.3	46.3	38.4	39.9	36.9	10.8
やや反対	16.7	10.3	36.5	3.9	36.5	33.5
反　　対	10.3	3.0	10.3	3.4	16.3	53.2

確率表現への意見を直接的に聞いた質問では、解釈が難しい結果となっている[名.問 31、松.問 32]。表１に示したように、「一般の人は発生確率と言われてもよくわからないから対策のとりようがない」とする人は多い。名古屋市では「賛成」と「やや賛成」とをあわせると 64%、松本市では 73%に達している。その一方で、大半の人が「確率表示は分かりにくいところがあるにせよ、30 年以内で 14%（松本市の場合。名古屋市では 60%）という数値であるので、対策の必要なことは実感できる」と答えている（松本市 87%、名古屋市 94%）。確率はよくわからないが、数字で具体的に示されている点は良いということになる。

一方、30 年確率で示した場合の 30 年という期間については長すぎると受け止めている人が多い。「一般の人にとって、今後 30 年以内というのは長すぎるから対策のとりようがない」という否定派は過半数を若干上回る程度であった（名古屋市 52%、松本市 53%）。しかし、「もっと短い期間で確率値が示されれば、対策が必要かどうかの判断に役立つ」という人は圧倒的に多い（名古屋市 94%、松本市 92%）。「30 年以内の発生確率が 14%であれば、住んでいる住宅を耐震化するなどの対策は、建て替えの際に行えばよい」と考える松本市民は 47%で半数近い。しかし、発

生確率が 60%と高い名古屋市民でも 41%であり、確率の高低には余り回答が依存していない。「地域社会がこの地震の対策に本気で取り組む必要はない」という対策否定派は、同じように確率によらず少ない（名古屋市 10%、松本市 13%）。

やはり、確率表現には若干のとまどいを見せ、30 年間という期間は住民の目からは対策を考える上で長すぎると見ていることになる。これらを補うなんらかの付加説明が必要だと考えられる。実際に、**図 10** に示したように、「あまり意味がないので発表する必要はない」とした人はほとんどいない。一番多いのが「分かりやすい表現を加えて欲しい」（名古屋市 67%、松本市 68%）や「切迫性のランク分けをして欲しい」（名古屋市 44%、松本市 46%）であった。確率は評価手法としても、また結果を公表する必要性からも有益ではあるが、その確率の意味を説明し理解を求めるだけでは十分ではなく、専門家が持つ切迫感を情報として付加していくことが望まれていると考えられる。

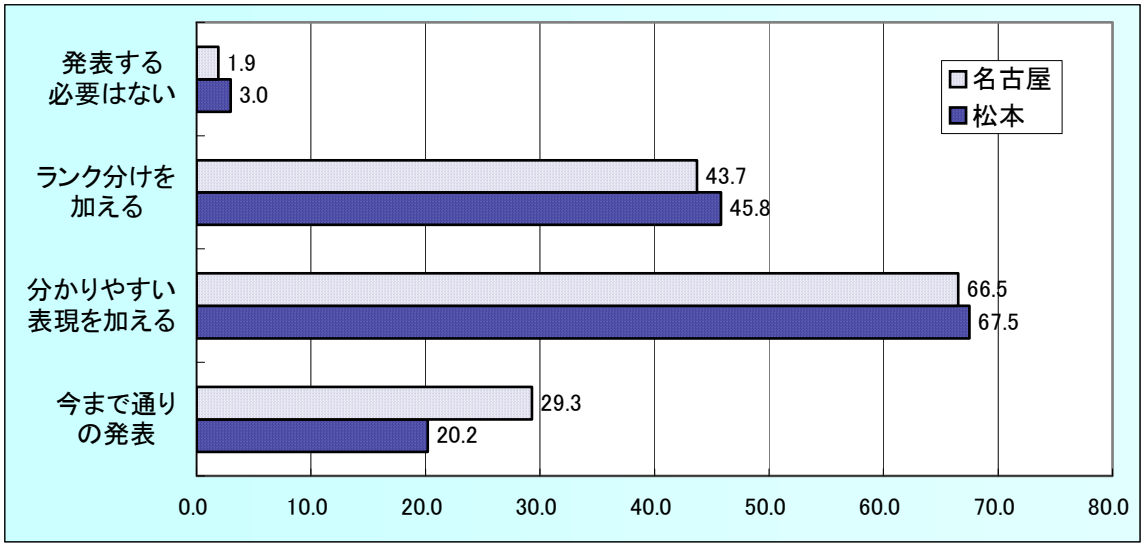


図 10　評価結果に求められる情報

５　地震動予測地図についての印象

１）「確率論的地震動予測地図」

平成 17 年 3 月に公表された「確率論的地震動予測地図」については、松本市で 25.1%、名古屋市で 38.1%の人が「見たことかある」と回答している **（表 2）**。この数字からは、まだ多くの人に知られているとは言えないだろう**[名. 問 16、松. 問 12]**。

確率論的地震動予測地図を見たことがあると回答した人が地図を目にした方法で最も多いのは「テレビでみた」という回答で、見たことのある人のうち名古屋市では 62.2%、松本市では 45.1%がテレビで見たと答えている。次に多いのは新聞で見たという回答で、名古屋市で 47.6%、松本市で 49.0%であった **（図 11）**。これは、発表直後の新聞報道 **（図 12）** などを示していると考えられる。一方、市役所などの行政の広報から知ったという回答は、名古屋市で 18.3%と低く、松本市では 45.1%と高くなっている**[名・松. 問 17]**。しかし松本市から、とくに確率論的地震動予測地図について広報したという事実はない。

今回の調査結果から見ると、住民への広報はテレビを中心としたマスコミ頼りであるのが現状で、これでは発表時のニュース性がなくなるにつれ、風化していく懸念がある。確率論的地震動予測地図を定着させて行くには、公的機関が息の長い広報・啓発活動を続けていく必要があるだろう。

表２.地震動予測地図見たことのある割合率

	確率論的地震動予測地図	震源断層を特定した地震動予測地図
名古屋	38.1%	－
松本	25.1%	21.2%

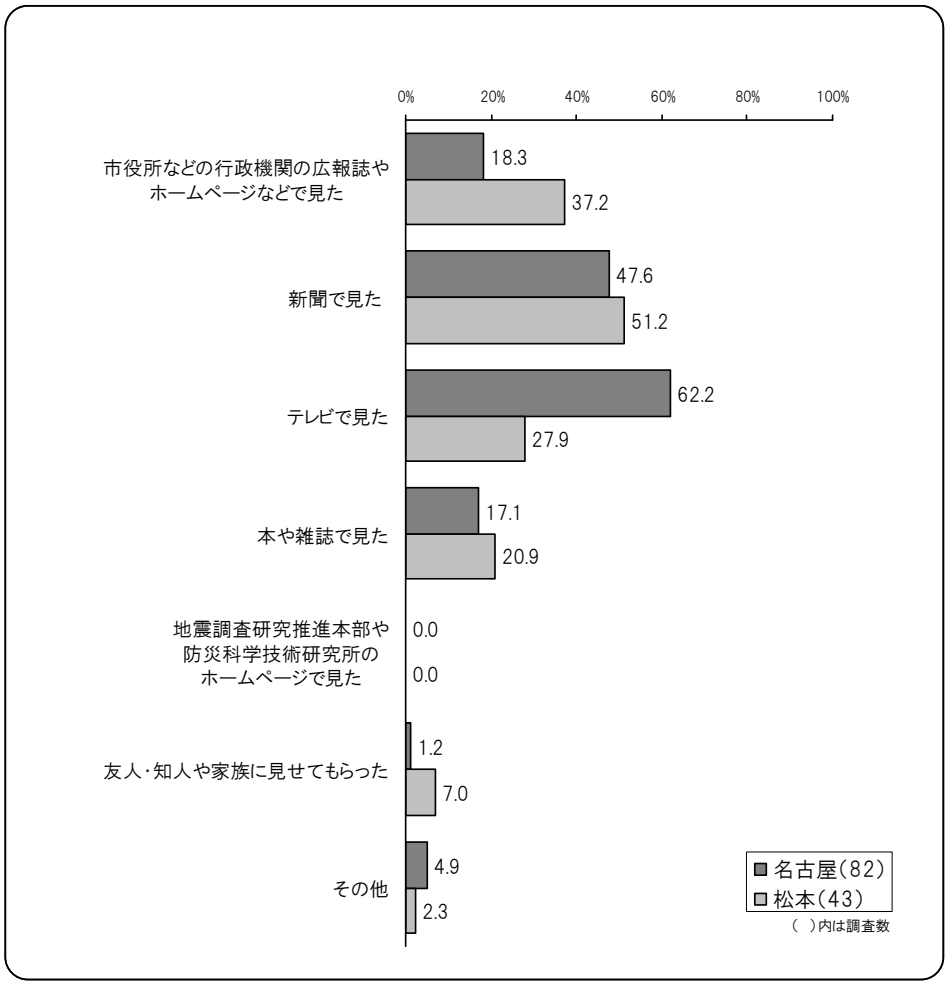


図 11　「確率論的地震動予測地図」を見た方法

信濃毎日 '05.3.24 (1面)

「30年内に震度6弱以上」確率
県内大半、6%以上
調査委予測

政府の地震調査委員会（津村建四朗委員長）は二十三日、将来発生する地震で強い揺れに見舞われる確率などをまとめた「地震動予測地図」を公表した。県内は、東海地震や糸魚川―静岡構造線断層帯（糸静線）などでの直下型地震の影響で、今後三十年以内に震度6弱以上に見舞われる確率がほぼ全域で6%以上と分かった。事務局の文部科学省地震・防災研究課は「全国的にみて確率の高い地域」としている。【関連記事4面に】

委員会が評価してきた糸静線など国内九十八の主要活断層による地震や日本近海の海溝型地震に加え、未知の活断層によるものなど、国内で起きる可能性のあるすべての地震を想定し、発生確率や揺れの分布を予測。それを基に、強い揺れに見舞われる確率分布などを一キロ四方ごとに地図で表した。

県内で三十年以内に震度6弱以上に見舞われる確率は、南アルプス山ろく一帯や飯田市周辺、諏訪湖周辺が「26%（約百年に一度発生のレベル）以上」という高率。糸静線に沿う格好で「6（約五百年に一度）―26%」の地域が南北に延びている。県庁所在地だけで行った個別評価で長野市は、糸静線での地震の影響があり6%だった。

全国で最も確率が高いのは、静岡県浜名湖周辺の95%。一定以上の面積が「26%以上」の確率に達したのは、静岡や長野をはじめ二十四都道府県に達した。

津村委員長は「日本はどこも強い揺れに襲わ

今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（長野県）

平成 17 年 3 月 24 日
信濃毎日新聞　朝刊 1 面記事

今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（関東―中部）

東海 大地震高い確率

政府の地震調査委員会が23日公表した「地震動予測地図」。30年以内に震度6弱以上に見舞われる確率は、発生が懸念される東海、東南海、南海地震の影響で、静岡県から四国南部までの太平洋側が26%以上と高くなった。これは約100年に1回以上起きる可能性に相当するという。＝関連❸面

中日 '05.3.24 (1)

平成 17 年 3 月 24 日
中日新聞朝刊 1 面記事

図 12　地震動予測地図の公表を伝える新聞記事(上:信濃毎日新聞、下:中日新聞)

「確率論的地震動予測地図」（p89 参照）を実際に見てもらった上で、この図に関する意見を聞いたところ[**名. 問 16、松. 問 12**]、名古屋市で 68.4%、松本市で 59.1%が、他と比べて自分の住む地域が危険であることがよくわかると回答している。このことから、住民の防災意識の向上に資するという目的は概ね達成していると言える（**図 13**）。しかし、この図（全国地図）では大まかすぎでよくわからないという回答が名古屋市で 17.2%、松本市で 24.6%あった。地図そのものの縮尺を変えたり、主要道路や駅などの目標物を入れよりわかりやすいものにする工夫や、WEB 上ですでにそのような機能を実現している、地震ハザードステーション（防災科学技術研究所ホームページ上：http://www.j-shis.bosai.go.jp/）をもっと広報するなど改善の余地はありそうである。

「確率論的地震動予測地図」が防災対策の参考になるかをたずねたところ、名古屋市で 67.4%、松本市で 73.4%と多くの人が参考になると答えている[名.問 18(2)、松.問 14(2)]。この結果から「確率論的地震動予測地図」は防災対策に一定の効果があると言えそうである（**図 14**）。

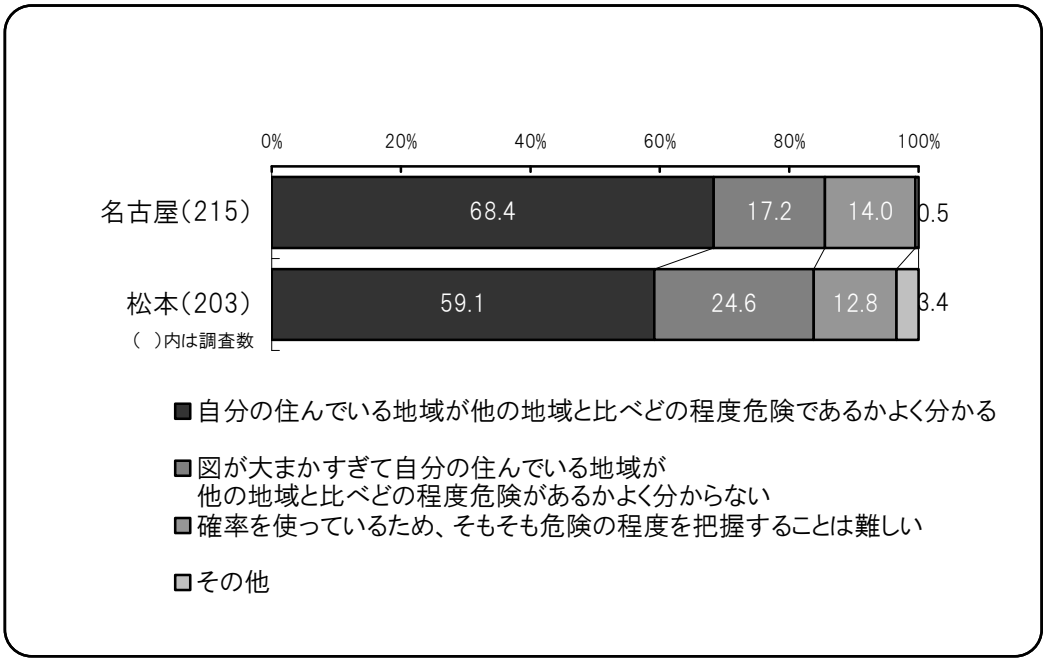


図 13　確率論的地震動予測地図を見た上での危険性の認識について

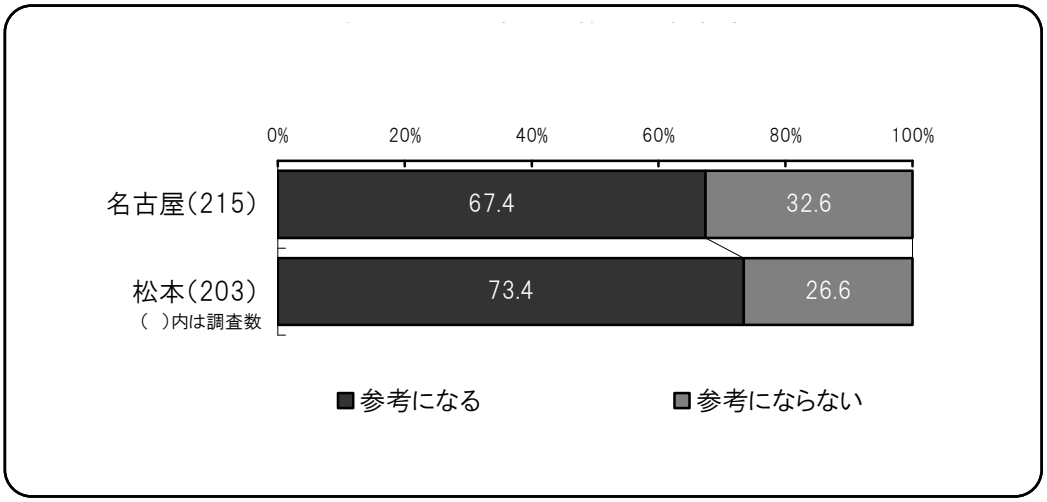


図 14 確率論的地震動予測地図を見た上での防災対策への参考度について

確率論的地震動予測地図の今後の改善点としては、「わかりやすい資料作成が必要である」(名古屋 52.1%、松本 54.2%)や「国や地方公共団体がもっと広報するべきである」(名古屋 55.3、松本 50.2%)といった意見が多かった[名.問 19、松.問 15]。

2)「震源断層を特定した地震動予測地図」

一方、震源断層を特定した地震動予測地図に関しては、国からは名古屋市周辺が対象になっているものは発表されていないため、松本市でだけ「震源断層を特定した地震動予測地図（糸魚川－静岡構造線断層帯(北部､中部)の地震を想定した強震動評価)」についての印象に関して調査した［**松.問 16**］。

それによると、この図を見たことがあるという人は 21.2%と、確率論的地震動予測地図より、やや少なかった。公表されたのが平成 14 年のため、平成１７年公表の確率論的地震動予測地図より記憶が薄らいだのであろうか。

閲覧方法としては新聞で見た人が 51.2%ともっとも多く､行政機関の広報で知った人が 37.2%と続いた[**松. 問 17**]。確かにこの地図は、平成 14 年 11 月 1 日づけの信濃毎日新聞では、１面トップに図入りで報道されており、これを見た人が多かったのであろう。

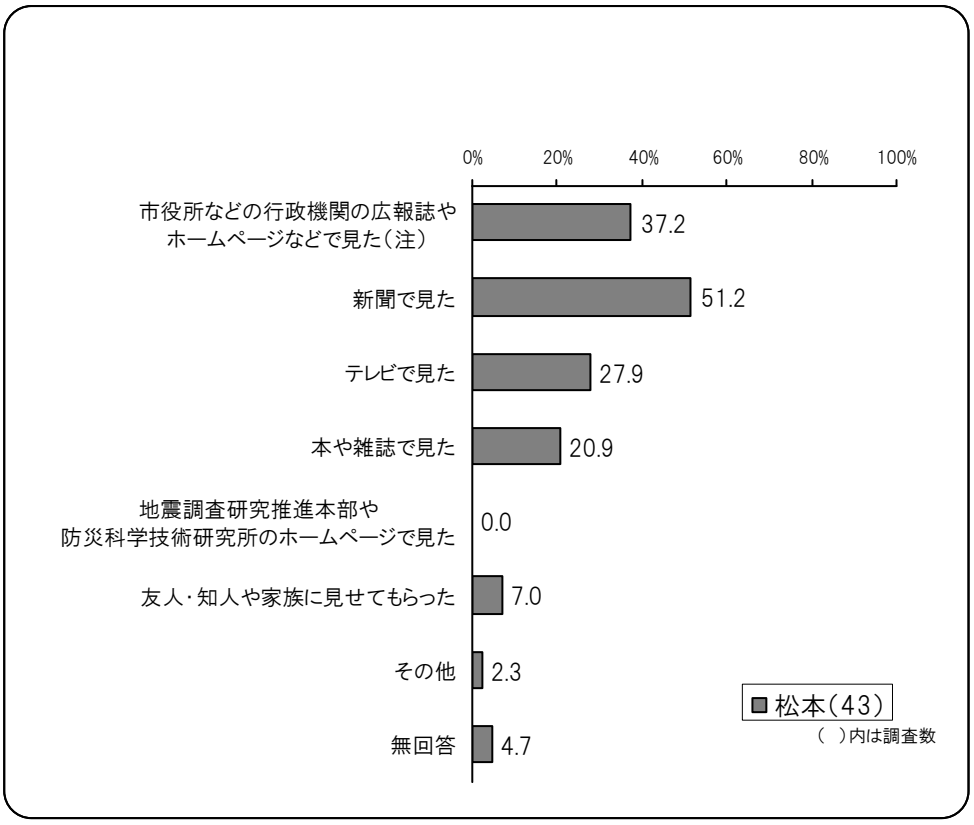


図 15　「震源断層と特定した地震動予測地図（糸魚川－静岡構造線断層帯）を見た方法

確率論的地震動予測地図との違いの理解度についても聞いているが、両者の違いをよく理解できるとした人はわずか 3.4%で、一見してその違いを理解することは難しいようである[**松. 問 18**]。一方、この地図を見て、自分の住んでいる地域の危険性についてどう思うかとの問い[**松. 問 19**]に対しては、「他の地域と比べてどの程度危険であるかがよくわかる」と 58.6%の人が回答している。

一方、震源断層を特定した地震動予測地図を防災意識の高揚や、防災対策の充実につなげるためにどのようにすべきか」という問い[**松. 問 20**]に対しては、「市町村境を表示する等もっとわかりやすくすべきだ」とする回答が 53.2%あり、確率論的地震動予測地図と同じく、この図に関しても図をわかりやすくする工夫が求められている。同様に「この図に加えてわかりやすい資料を作成する必要がある」とする回答も 56.7%あった。また「行政がもっと広報すべきだ」とする意見も 52.7%あった（**図 16**）。

この地図が防災対策を考える上参考になるかという問い[松.問 19-(2)]に対しては、「参考になる」という人は 70.4%と多かったが、確率論的地震動予測地図の 73.4%よりはやや低かった（**図 17**）。

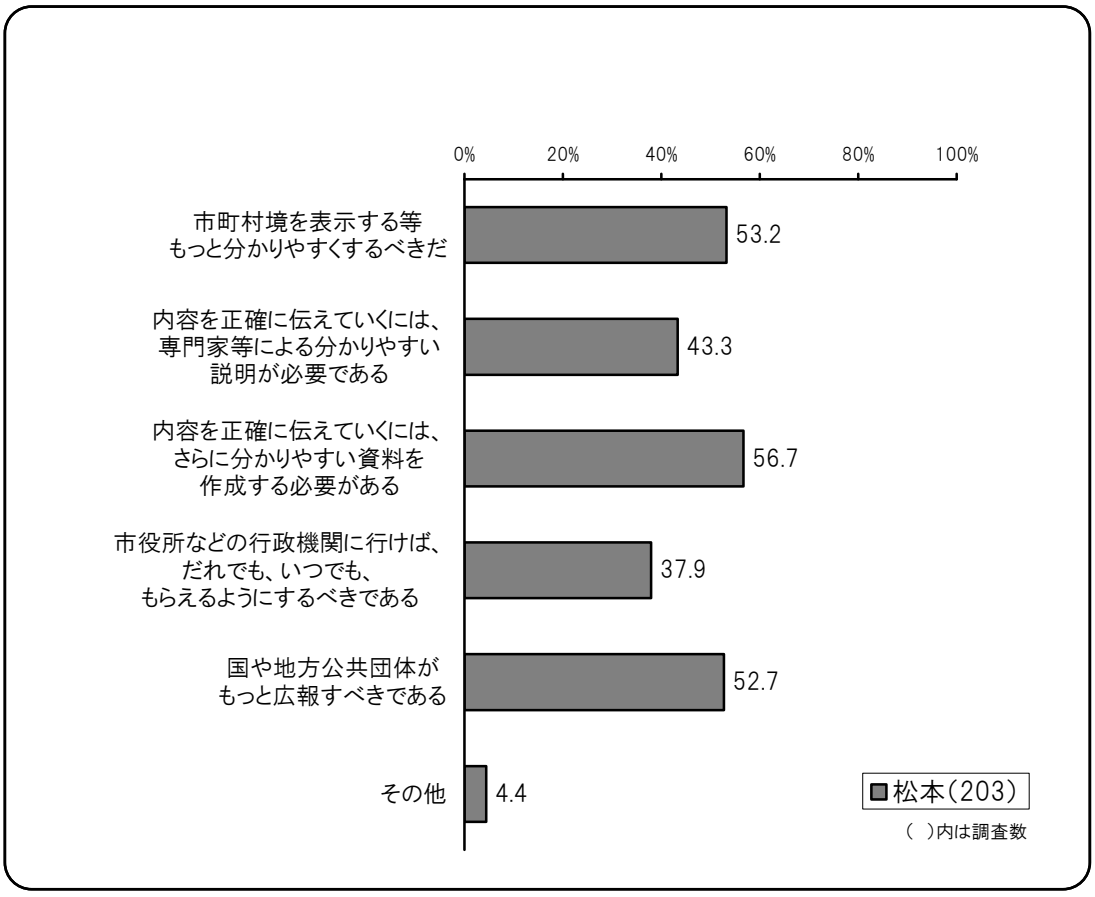


図 16 震源断層を特定した地震動予測地図を防災意識高揚や、防災対策につなげるための方策

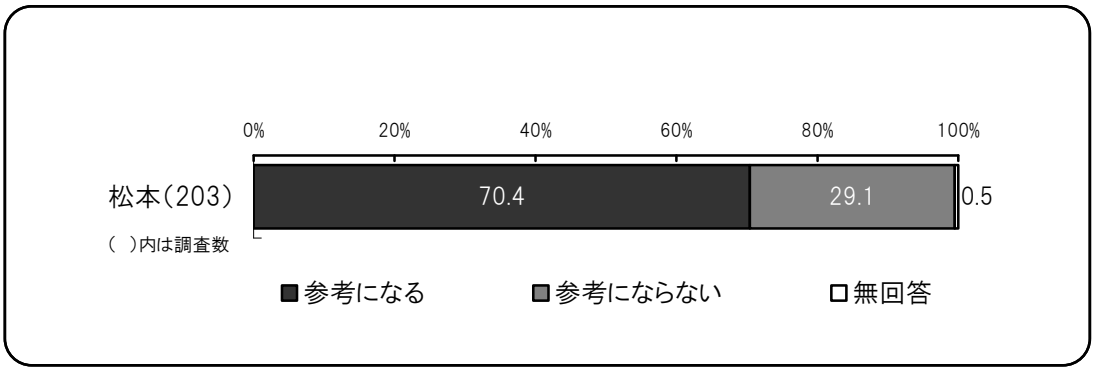


図 17 震源断層を特定した地震動予測地図はわが家の防災対策上参考になるか

6　長期評価の防災対策への影響度

1）防災意識向上に対する影響度

地震調査研究推進本部が行っている、30 年以内の地震発生確率(東南海地震は 60%、糸魚川－静岡構造線断層帯（牛伏寺断層を含む区間）は 14%）公表が名古屋市と松本市の市民の防災対策につながったのかを質問した[名. 問 20、松. 問 21]。その結果、名古屋市では 30.7%の人が「非常に必要」と感じ、49.8%が「かなり必要」だと感じている。一方、松本市では 14.8%が「非常に必要」と感じ 61.6%が「かなり必要」だと感じている。名古屋のほうが非常に必要と感じた人が松本市の２倍に達している。確率評価の発表は、市民が防災対策の必要性を認識することに役立っていると言える（図 18)。

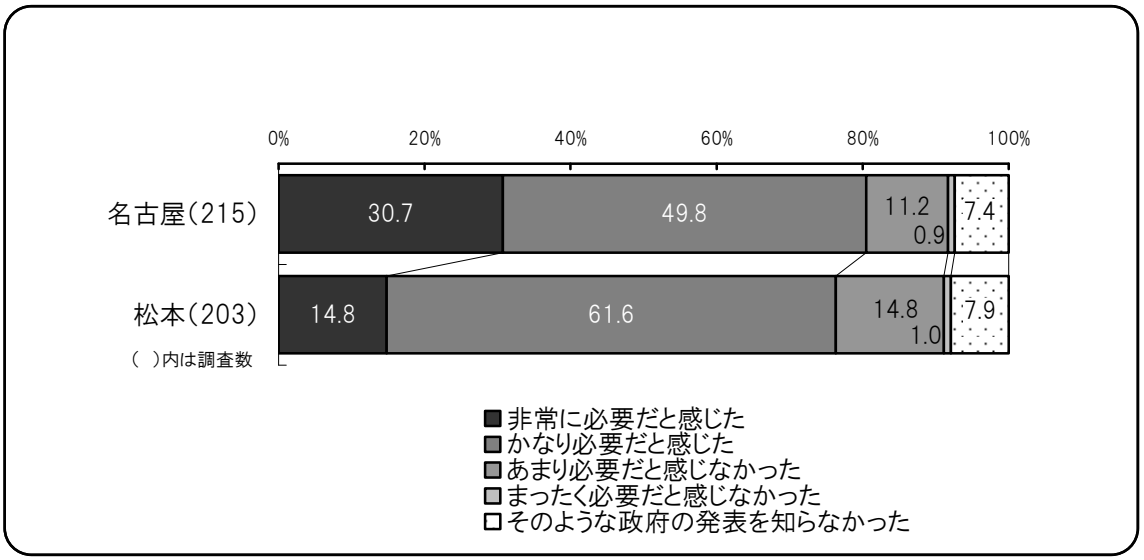


図 18　地震発生確率を聞いての防災対策の必要度

一方、発表をきっかけに実際に行った防災対策を尋ねた設問[名. 問 22、松. 問 23]に対する回答を見ると、先に述べた必要性の認識に比べると、対策の実行率はやや低くなっている。発表をきっかけとして行われた主な対策は、避難場所の確認、水食料の用意、非常持ち出し品の用意で１－２割の人が新たに行っている。しかし耐震診断や家の補強など、重要だが、手間や資金のかかる対策については、ほとんど行われていない。また、確率評価をきっかけに防災対策を「とくに何もしていない」という回答は、名古屋市で 37.2%、松本市で 49.8%となっており、名古屋市と松本市における防災対策の必要性の認識の差は、実際の防災対策の実行の差にもつながっている（図 19)。

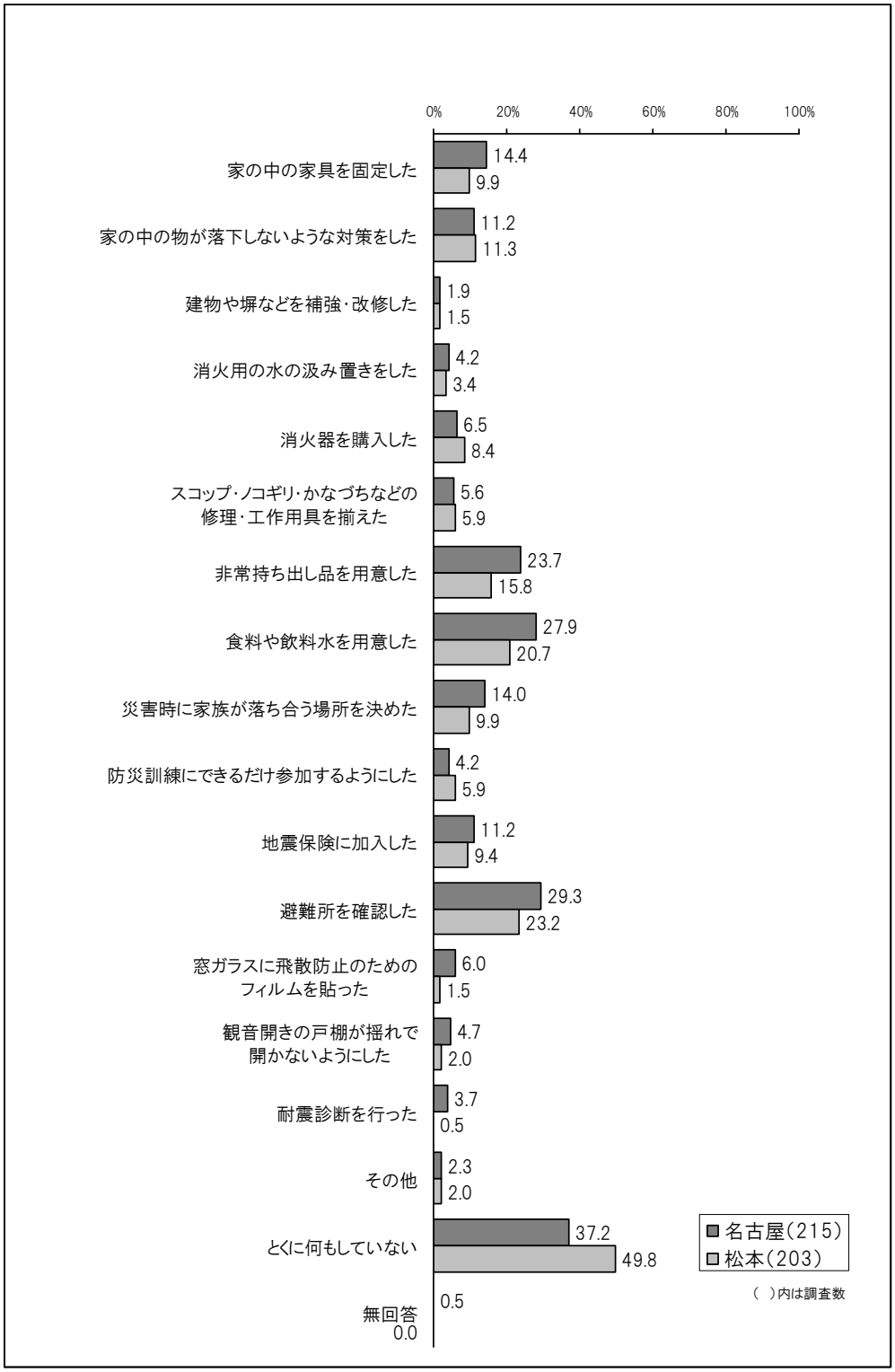


図 19　確率評価の発表をきっかけに行った防災対策

2）震災対策への影響度

地震防災対策で極めて重要なのが耐震対策である。本調査の結果では名古屋市でも松本市でも７－８割と多くの人が自宅の耐震性に不安を持っていることがわかった**（図 20）［名. 問 26、松. 問 27］**。しかし、両市とも耐震診断の実施率は４－５％と極めて低いのが現状である**（図 21）［名. 問 27、松. 問 28］**。

耐震診断をしない理由としては、診断するまでもなく「地震に耐えられるように造ってあるから」、「経過年数や構造から見て安全でないことがはっきりしているから」の二つの回答が両市とも２割程度あるが、これらを除くと、「費用がかかる」、「手間がかかる」、が多く、どちらの市でも２－３割の人が挙げていた。また、次に多いのが「どんな構造の家でも大地震が起これば被害は避けられない」という、あきらめの気持ちの回答となっている**（図 22）［名. 問 28、松. 問 29］**。

地震動予測地図などで住民の防災対策の必要性の認識を高めることはできるが、それを耐震診断－耐震補強などの実質的な対策につなげるには、行政などが具体的な形でサポートする体制が重要であるということであろう。

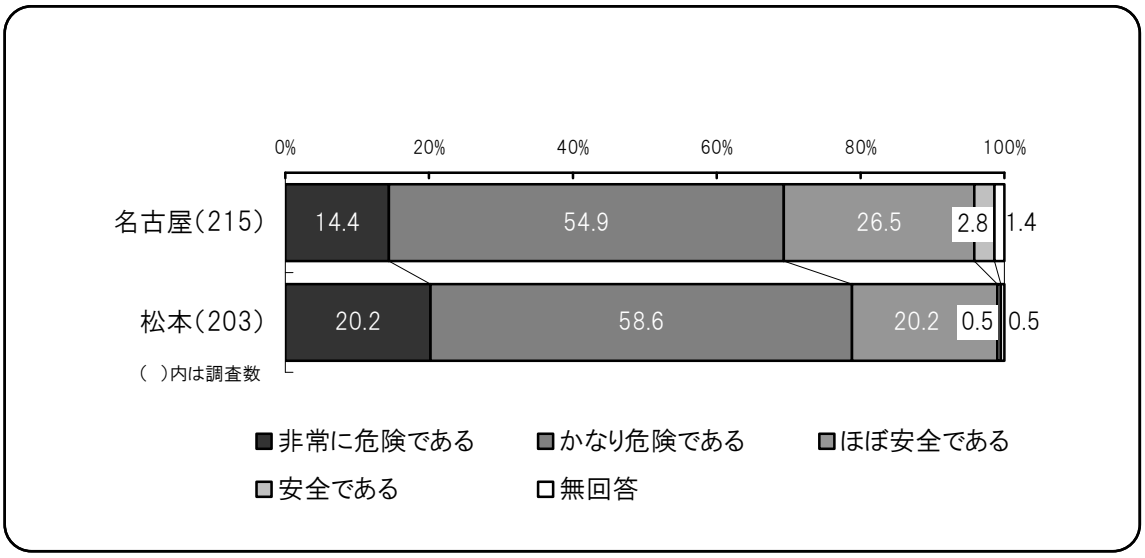


図 20　大地震が起こった場合の居住住宅の安全性

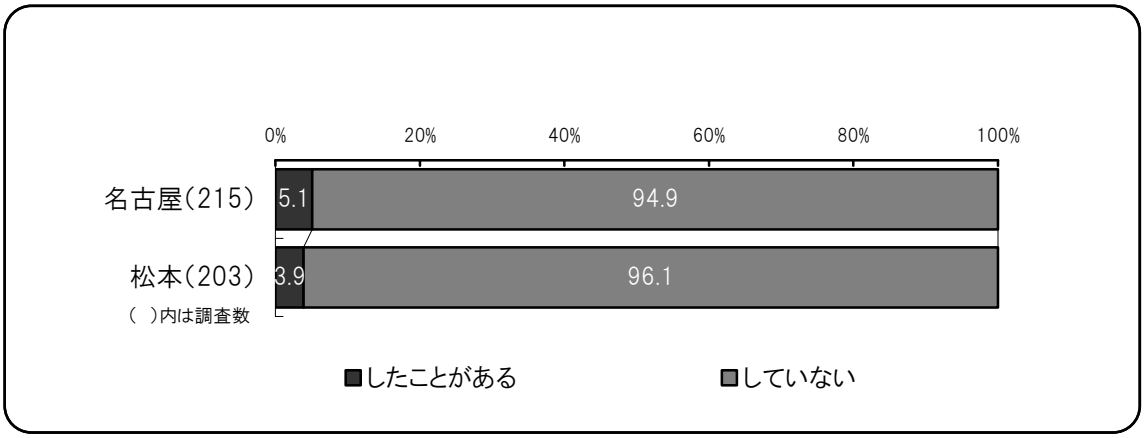


図 21　耐震診断の実施率

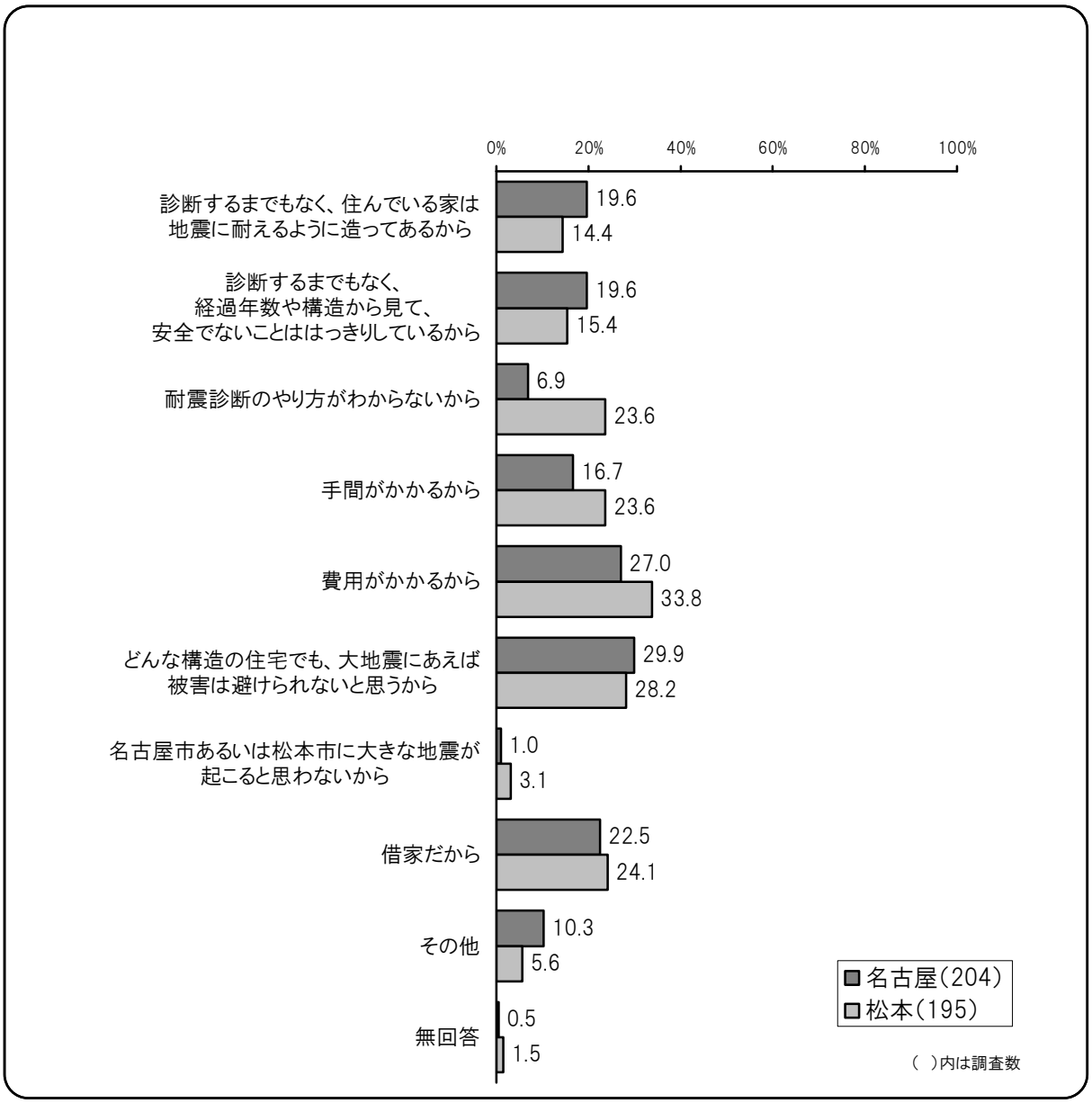


図 22　耐震診断をしない理由

Ⅴ 自由記述

1 名古屋市

性別	年齢	問8. 東南海地震の政府発表の認知経路
男性	40歳代	会社で

性別	年齢	問17.「確率論的地震動予測地図」の閲覧場所
女性	60歳代	学区で防災についての話を学校の講堂で聞いた
男性	50歳代	何かのパンフレットで見たが覚えていない。
女性	50歳代	広報なごや地震マップ保存版　緑区
女性	40歳代	大学で

性別	年齢	問18.（1）「確率論的地震動予測地図」を閲覧での危険度
男性	50歳代	多くの断層については未知の部分、難しい

性別	年齢	問19. 今後の「確率論的地震動予測地図」活用方法
女性	50歳代	町内会で発行する
男性	40歳代	地震の危険性は大なり小なりみんな感じている事だから具体的な施策（テレビで東京の広域避難所の公園に災害非難時の簡易トイレが設置されているのを見た）等をもっとPRして災害に対する備えについて認識を高めていくべきだと思う。発生確率で60%だろうが70%、90%だろうが大衆的にはあまり意味はないと思う。
男性	40歳代	どの程度の被害かを具体的に知りたい
男性	30歳代	予測注意ではなく
男性	50歳代	基本的にホームページが有効と思う、新聞にもその事を知らせて欲しい
女性	50歳代	プレートの位置等も表してもっと分かりやすくしてほしい
女性	40歳代	月に一度、防災の日にする
女性	60歳代	活断層があるのはわかっていると思うので市のどの位置を通っているといった地図をみせてほしい
女性	40歳代	・仕事先も家も名古屋港が近いので津波の事も詳しくわかりやすくテレビや新聞等で教えてほしいです。・地震がきた時はどこに避難するのかは分かるのですが港区や南区海の近い人たち、地震も恐いですけど津波も怖いと思っていると思います。高い所に逃げなさいと言いますが高い所は少ないと思うのですが、どこに避難すればいいのかとか名古屋港の防波堤は安全なのか等もっともっと詳しく知りたいです。名古屋の事ばかり言ってすみません。本当にもっと細かくわかりやすく教えてほしいと思いました。よろしくお願いします。
女性	50歳代	発生率の高いエリアに対してさらに細かい地図をつくり、地方公共団体が色々な方法で広報すべき。
女性	30歳代	地域で具体的に活動する人が必要
男性	20歳代	原子力発電所の被害を最も早く皆に知らせ、必要ならば政府が安全圏に導くようにする。
女性	30歳代	地域の声を出し小さい団体での活動行事を作る
男性	50歳代	地盤地質と併用して説明して欲しい

性別	年齢	問21. 政府の発表前に行なっていた防災対策
男性	50歳代	ベットの前にスリッパを用意している。
女性	60歳代	重い家具は捨て軽いものにした。高い家具は中間部を捨て低くした。
女性	60歳代	新築した
女性	50歳代	家の外に水を入れたペットボトル20本くらい置いている・電灯、スリッパ枕元に

性別	年齢	問22. 発表をきっかけに行なった防災対策
女性	50歳代	屋根を軽くした
女性	40歳代	地震が起きた時、自分の身をどの様にして守るか
女性	60歳代	重い家具は捨て軽いものに。高い家具は低くした。（中間部を捨てた）
男性	50歳代	家具のような重くて高い物は低い物にかえた
女性	50歳代	耐震補強をした

性別	年齢	問28. 耐震診断をしない理由
男性	60歳代	マンションなので分からない
女性	50歳代	マンションなので
男性	40歳代	公営住宅だから
女性	20歳代	公営住宅だから
女性	60歳代	集合住宅だから
男性	50歳代	今回の地震は予測ができるとの情報により避難の場所を考えている
女性	30歳代	新築物件だったので診断基準に入っていなかった。
女性	60歳代	市営住宅だから
男性	50歳代	市営住宅のため
男性	60歳代	市営住宅入居の為
女性	30歳代	埋立ての土地なので地盤が弱いから
男性	60歳代	マンションだから
女性	30歳代	手続方法がわからない
女性	40歳代	業者が信用できない
女性	60歳代	新築だから
女性	20歳代	親と同居していてその事について話合った事がない為分からない。(診断をしたかどうか)
男性	20歳代	社宅
男性	50歳代	マンションなので
女性	50歳代	地震に耐えるよう造ってあると思うが、家が山の中なので廻りの山がくずれるかもと思っている
男性	60歳代	平屋2×4なのでしなくてもよいと思っている

性別	年齢	問30. 耐震補強をしない理由
女性	60歳代	マンションの組合で話がない
男性	60歳代	マンションなので分からない
女性	50歳代	マンションなので
男性	50歳代	マンションだから
女性	40歳代	しようとは思っている
男性	40歳代	家具が少ないから、公営住宅だから
女性	50歳代	地震に堪えられそうにないので1,2年内に家を建替えたいと思っているので耐震補強は無駄だと思うから。
女性	20歳代	公営住宅だから
女性	60歳代	建て直しするかもしれないので
男性	50歳代	筋交いを多くし丈夫にしておるが図面による診断が希望
女性	40歳代	集合住宅では一件だけでやっても意味がないと思うから
女性	60歳代	市営住宅だから
男性	50歳代	市営住宅のため
男性	60歳代	市営住宅入居の為
女性	60歳代	危険とわかっても、金銭的余裕がないから。
男性	60歳代	マンションだから
女性	20歳代	親と同居していてその事について話合った事がない為分からない。(診断をしたかどうか)
男性	20歳代	社宅
男性	30歳代	建て替えようと思っているから
男性	50歳代	マンションなので
男性	60歳代	平屋2×4なのでしなくてもよいと思っている

性別	年齢	問32. 今後の地震発生確率の発表内容
男性	30歳代	明日くると言え
女性	60歳代	30年以内は長すぎます。私はこの世にいないかも。昔は10年、今は5年でしょうか。
男性	40歳代	耐震・防火対策を強化するように義務付けする。
女性	50歳代	早く津波予想の様な情報発信が出来る様に！！
男性	50歳代	発生確率と被害想定

2 松本市

性別	年齢	問8. 牛伏寺断層についての認知経路
女性	20歳代	学生時代に先生より
男性	60歳代	老人大学の講師より
男性	40歳代	Yahooニュース
男性	20歳代	職場
男性	60歳代	信大教授講演

性別	年齢	問13.「確率論的地震動予測地図」の閲覧場所
男性	60歳代	信大教授講演

性別	年齢	問14. (1)地図を閲覧した上での危険度
女性	20歳代	他の地域と比べ危険なのはわかるが、その程度まで把握できない
男性	40歳代	日本全体が地震の危険にある事はわかるが、もっと具体性が欲しい
男性	50歳代	地震が予測できても自然のものなので他に生活するわけにはいかないからその時はその時で自然の中で生きるしかない
男性	30歳代	どのような情報(データ)を元に作られたものかわからないので、危険性を感じにくい

性別	年齢	問15. 今後の「確率論的地震動予測地図」活用方法
男性	50歳代	マスメディアで繰り返し具体的対策を広報すべき
男性	50歳代	予想外の所で大地震があったりしたので実感としてわかない。子供の頃より糸魚川－静岡構造線の事は勉強したが、40年近く何もないので今ひとつ危機感が感じられない
女性	40歳代	テレビ、インターネット等での広報
女性	20歳代	スーパー・コンビニなどで掲示する
男性	50歳代	予測して天気のようにわかれば助かる
女性	30歳代	実際に被害にあってなかったり被災の現状を知らないと紙面上でのことと聞き流されてしまうと思う。なので、個人個人意識改革が大事なのでそちらのほうに力を入れるべき。痛い目に会わないとわからないのでは
女性	60歳代	小さな地区単位で気楽に質問のできる話し合いの場を設ける
男性	50歳代	「30年以内」「確率40%」の危険度合を解説してもらいたい
女性	60歳代	少しの動きでもみんなに伝えて欲しい
男性	30歳代	情報元を明確にし、内容の信憑性を高めて欲しい
男性	30歳代	確率が低いと安心してしまうのでよくない
男性	40歳代	期日の予測もするべきではないでしょうか
男性	40歳代	テレビ等メディアを使って市民に関心を持つ様に働きかけて欲しい

性別	年齢	問17.「震源断層を特定した地震動予測地図」の閲覧場所
男性	50歳代	役所の資料

性別	年齢	問19. (1)「震源断層を特定した地震動予測地図」での危険性
女性	20歳代	震度の度合を比べる事はできるが震度自体実際どの程度の揺れの区分かわからない為、リアリティが感じられない
男性	40歳代	図の細かい説明がないと図だけでは判断出来ない
女性	50歳代	この地図が絶対的なものではないと思うので、冷静に判断したい
男性	30歳代	予測される(松本特有の)被害との比較がないので何ともいえない
男性	20歳代	地図下の図説の言葉の意味がわからない

性別	年齢	問20. 今後の「震源断層を特定した地震動予測地図」活用方法
男性	50歳代	松本地区住民にもっと危険性を広報する事
男性	40歳代	誰でも、子供でもわかる具体性が必要だ
女性	30歳代	実際に被害にあってなかったり被災の現状を知らないと紙面上でのことと聞き流されてしまうと思う。なので、個人個人意識改革が大事なのでそちらのほうに力を入れるべき。痛い目に会わないとわからないのでは
女性	60歳代	自分の住んでいる地区がどこに該当するのか分かるものにする
男性	30歳代	ネットで見れるように
女性	40歳代	地図に自分の場所がわからなければ伝わらない
女性	50歳代	行政機関がどのような対策をしているかを伝えてから家庭もそれに対応する準備をするように教えて欲しい
女性	50歳代	今回のアンケートなどをもっと実施して、住民の意識を高めていく活動をすべきである

性別	年齢	問22. 政府の発表前に行なっていた防災対策
男性	50歳代	地震にあった時どう行動するべきか考えている
女性	40歳代	倒れてきそうな家具のある部屋には寝ない
男性	60歳代	スリッパ、タオルを身近に置いた
女性	50歳代	眠る室を変えた（室になにも無し）
女性	60歳代	家の中でどこが一番安全かを考えた
女性	50歳代	等別な事はしていないがいつも意識はしている

性別	年齢	問23. 発表をきっかけに行なった防災対策
女性	60歳代	住み替えられる資金を用意し、離れをしっかり確保する
男性	60歳代	スリッパ、タオルを身近に置いた
女性	60歳代	家の中でどこが一番安全かを考えた
女性	50歳代	等別な事はしていないがいつも意識はしている

性別	年齢	問29. 耐震診断をしない理由
女性	60歳代	今住んでいる家は手離したり、一生住むと思わないから
男性	50歳代	家具類は別として建物は大丈夫のような気がしてしまう
男性	50歳代	現在診断を受けようと話し合っているところです。
男性	60歳代	建てて10年くらいだから
女性	50歳代	昭和56年以降の建物であるから。プラス補強では無理→新築しかないと思います。
女性	30歳代	家族に目的意識が無いから。個々バラバラ
男性	50歳代	いつくるかわからないから、そこまで手が届いていない
男性	40歳代	地盤が盛り土で弱いので、家を強くしても意味がない
男性	50歳代	やりたいと思っています。

性別	年齢	問31. 耐震補強をしない理由
女性	60歳代	新築してもよいと思うので、子供子孫がいないので安心の出来る所へ引越してもよいと思っている
男性	50歳代	診断を受けて必要な補強を使用と話し合っている最中です。
女性	50歳代	実際にどのくらいの強さの地震がくるかわからないから。
女性	60歳代	いつかやりたいと思っている
男性	40歳代	補強をするなら建て替えが必要な程老朽化している
女性	30歳代	家族に目的意識が無いから。個々バラバラ
女性	40歳代	色んな詐欺もあり、何を信用していいかもわからない。
男性	50歳代	切迫感があまり無いことと、経済的な理由
男性	40歳代	必要かどうかわからないから
女性	30歳代	何をどうしたらいいのか分からない
男性	50歳代	いつくるかわからないから、そこまで手が届いていない
男性	40歳代	地盤が弱いから意味がない
男性	50歳代	耐震診断をしてからやるつもりである。
男性	30歳代	家主ではないので

性別	年齢	問35. 今後の地震発生確率の発表内容
女性	30歳代	発生確率ではなく発生した場合の予測被害の状況などを発表した方が切迫性がある。皆、興味を持つのでは?
男性	40歳代	確率はどうあれ、毎月決まったとき（毎月1日の朝、昼、晩のTVなど）視覚に訴える広報をその対策を事例にして加えて、国が継続して国民にすべき。
男性	30歳代	予想される被害について具体的な表現をしてほしい。切迫性のランク分けは、へたな安心感を生むのでやめた方がよいと思う
男性	40歳代	期日の予定日等を発表

資　料

地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査
（名古屋市版）

文部科学省研究開発局地震・防災研究課
東京大学大学院情報学環　廣井研究室
東洋大学社会学部　田中研究室

調査日 ／ ／ ／　　SEQ

問1. あなたは近い将来、名古屋市に大地震の発生が切迫していると思いますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に切迫していると思う	2. かなり切迫していると思う
3. あまり切迫していないと思う	4. まったく切迫していないと思う

問2. あなたは近い将来、名古屋市に大きな被害を及ぼす大地震が起こるかもしれないという不安がありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に不安がある	2. かなり不安がある
3. あまり不安はない	4. まったく不安はない

問3. 次に、地震を起こす原因になる活断層についておたずねします。あなたは、活断層ということばを聞いたことがありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 聞いたことがあるし、活断層で繰り返し地震が発生することも知っている
2. 聞いたことはあるが、活断層で繰り返し地震が発生することは知らない
3. 聞いたことはない

問4. 地震調査研究推進本部（の地震調査委員会）は、地震に関する調査研究を推進するため、文部科学省に設置された政府の特別機関です。あなたは、この機関のことをご存知でしたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っている	2. 知らない

問5. 現在、地震調査研究推進本部（の地震調査委員会）では日本列島にある 98 の主要な活断層について、将来活断層がいつ活動するかを予測しています。あなたはこのことを知っていますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っている
2. 活断層の評価をしていることは知っていたが、地震調査研究推進本部（の地震調査委員会）が行っているとは知らなかった
3. 知らない

問6. 最近、名古屋市内に被害をもたらす可能性のある地震がいろいろ報道されていますが、以下にあげた地震について、あなたは知っていますか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 東海地震	2. 東南海地震
3. 愛知県周辺にある活断層の地震	4. ひとつも知らない

問7. 政府は、東南海地震について「今後 30 年以内に発生する確率はほぼ 60%」と発表しました。あなたは、このことをご存知でしたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っていた	2. 知らなかった

問8. **（問 7 で「1」と答えた人におうかがいします）**

では、あなたは、その情報をどちらからご入手されましたか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで読んだ	
2. 新聞で読んだ	3. テレビで見た又はラジオで聞いた
4. 本や雑誌で読んだ	
5. 地震調査研究推進本部や防災科学技術研究所のホームページで見た	
6. 友人･知人や家族から聞いた	7. その他（具体的に　　）

問9. あなたは「今後 30 年以内に東南海地震が発生する確率はほぼ 60%」という数字について、どのように思いますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に高い確率だと思う	2. かなり高い確率だと思う
3. あまり確率は高くないと思う	4. 非常に低い確率だと思う

問10. あなたは、「今後 30 年以内に東南海地震が発生する確率はほぼ 60%」という数字について、名古屋市に大きな被害を及ぼす大地震の発生が切迫していると思いますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に切迫していると思う	2. かなり切迫していると思う
3. あまり切迫していないと思う	4. まったく切迫していないと思う

問11. あなたは「今後 30 年以内に東南海地震が発生する確率はほぼ 60%」という数字について、名古屋市に大きな被害を及ぼす大地震に対し、どの程度の不安を持つようになりましたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 以前よりずっと不安になった	2. 以前よりすこし不安が増えた
3. 以前より少し不安が減った	4. 以前よりずっと不安が減った

問12. 東海地震の想定震源域が見直され、名古屋市の一部も震度6弱のおそれがあり、内閣総理大臣が強化地域に指定しました。あなたは、このことをご存知でしたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っていた	2. 知らなかった

問13. いつ起こってもおかしくないといわれている東海地震について、地震調査研究推進本部が今後30年以内の発生確率を参考値ながら86%と発表しました。あなたは、このことについて、どう感じましたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 発生確率86%を聞いて、あらためていつ起きてもおかしくないと実感した
2. いつ起こってもおかしくないとされているとすれば、発生確率86%は低いと感じた

問14. あなたは、東南海地震と東海地震は連動して起こる可能性が高いということを知っていましたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っていた	2. 知らなかった

問15. 名古屋市のそばには加木屋断層帯のような活断層があり、例えば、加木屋断層帯については、想定される地震の規模はM7.4程度、今後30年以内の発生確率は0.1%とされています。活断層についてどのように感じますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 活断層は地震の発生する確率は低いが、局地的に大きな被害を出すので注意が必要だ
2. 活断層は地震の発生する確率が低いので、海溝型地震（東南海地震等）だけを考えておけばよい

問16. 次に、確率論的地震動予測地図についておたずねします。実際の「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、お答えください。

あなたは、この「確率論的地震動予測地図」をご覧になったことがありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 見たことがある
2. そういう地図があることは知っていたが、見たことはなかった
3. 見たことはない

問17. **（問16で「1」と答えた人におうかがいします）**

それは、どちらでご覧になりましたか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで見た	
2. 新聞で見た	3. テレビで見た
4. 本や雑誌で見た	
5. 地震調査研究推進本部や防災科学技術研究所のホームページで見た	
6. 友人･知人や家族に見せてもらった	7. その他（具体的に　　）

問18. あなたはこの「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、どう思いますか。あてはまるものを（1）（2）**それぞれひとつだけ**選んでください。

（1）危険性について

1. 自分の住んでいる地域が他の地域と比べどの程度危険であるかよく分かる
2. 図が大まかすぎて自分の住んでいる地域が他の地域と比べどの程度危険であるかよく分からない
3. 確率を使っているため、そもそも危険の程度を把握することは難しい
4. その他（具体的に　　）

（2）この地震動予測地図はわが家の防災対策を考える上で

1. 参考になる　　2. 参考にならない

問19. では、今後、この「確率論的地震動予測地図」を市民の防災意識を高めたり、家庭の防災対策を充実したりするうえで、どのようにすべきだと思いますか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 内容を正確に伝えていくには、専門家等による分かりやすい説明が必要である
2. 内容を正確に伝えていくには、さらに分かりやすい資料を作成する必要がある
3. 防災意識啓発のためには、確率の区分をよりきめ細かくした地図にするべきである
4. 防災意識啓発のためには、1km 四方の区分をよりきめ細かくした地図にするべきである
5. 市役所などの行政機関に行けば、だれでも、いつでも、もらえるようにするべきである
6. 国や地方公共団体がもっと広報すべきである
7. その他（具体的に　　）

問20. 次に、お宅の防災対策についておたずねします。政府は、平成 13 年に「今後 30 年以内に東南海地震が発生する確率はほぼ 60%」と発表しました。あなたは、これらの発表を聞いて、地震が来る前にいろいろな防災対策をたてておく必要があると感じましたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に必要だと感じた	2. かなり必要だと感じた
3. あまり必要だと感じなかった	4. まったく必要だと感じなかった
5. そのような政府の発表を知らなかった	

問21. お宅ではこのような政府の発表が出る前には、どのような防災対策を行っていましたか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 家の中の家具を固定した	2. 家の中の物が落下しないような対策をした
3. 建物や塀などを補強･改修した	4. 消火用の水の汲み置きをした
5. 消火器を購入した	
6. スコップ･ノコギリ･かなづちなどの修理･工作用具を揃えた	
7. 非常持ち出し品を用意した	8. 食料や飲料水を用意した
9. 災害時に家族が落ち合う場所を決めた	10. 防災訓練にできるだけ参加するようにした
11. 地震保険に加入した	12. 避難所を確認した
13. 窓ガラスに飛散防止のためのフィルムを貼った	
14. 観音開きの戸棚が揺れで開かないようにした	
15. 耐震診断を行った	16. その他（具体的に　　）
17. とくに何もしていない	

問22. では、この東南海地震の発表をきっかけにして、お宅ではどのような防災対策を行いましたか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 家の中の家具を固定した	2. 家の中の物が落下しないような対策をした
3. 建物や塀などを補強･改修した	4. 消火用の水の汲み置きをした
5. 消火器を購入した	
6. スコップ･ノコギリ･かなづちなどの修理･工作用具を揃えた	
7. 非常持ち出し品を用意した	8. 食料や飲料水を用意した
9. 災害時に家族が落ち合う場所を決めた	10. 防災訓練にできるだけ参加するようにした
11. 地震保険に加入した	12. 避難所を確認した
13. 窓ガラスに飛散防止のためのフィルムを貼った	
14. 観音開きの戸棚が揺れで開かないようにした	
15. 耐震診断を行った	16. その他（具体的に　　）
17. とくに何もしていない	

問23.　あなたは、市の実施する防災訓練に参加したことがありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. いつも参加している	2. 時々参加している
3. 参加したことはない	4. 防災訓練が実施されていることを知らない

問24.　あなたは、テレビや新聞で東南海地震に関するニュースのことを見たり読んだりしますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

（1）テレビで報道された場合、

1. よく見ている	2. 見ることはある
3. あまり見ることはない	4. ほとんど見ることはない

（2）新聞で報道されているのを目にした場合、

1. よく読む	2. 読むことはある
3. あまり読むことはない	4. ほとんど読むことはない

問25.　あなたは、東南海地震や東海地震が発生した場合の被害想定を愛知県が発表していることをご存知ですか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っている	2. 知らない

問26.　では、このような大地震が起こった場合、あなたの家は安全だと思いますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に危険である	2. かなり危険である
3. ほぼ安全である	4. 安全である

問27. お宅では、大地震に備えて、耐震診断をしたことがありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. したことがある	2. していない

問28. **（問 27 で「2」と答えた人におうかがいします）**

お宅で耐震診断をしない理由は何ですか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 診断するまでもなく、住んでいる家は地震に耐えるように造ってあるから
2. 診断するまでもなく、経過年数や構造から見て、安全でないことははっきりしているから
3. 耐震診断のやり方がわからないから
4. 手間がかかるから
5. 費用がかかるから
6. どんな構造の住宅でも、大地震にあえば被害は避けられないと思うから
7. 名古屋市に大きな地震が起こると思わないから
8. 借家だから
9. その他（具体的に　　）

問29. では、お宅では、大地震に備えて、耐震補強をしていますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. している	2. していない

問30. **（問 29 で「2」と答えた人におうかがいします）**

お宅で耐震補強をしない理由は何ですか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 補強するまでもなく、住んでいる家は地震に耐えるように造ってあるから
2. 耐震補強のやり方がわからないから
3. 手間がかかるから
4. 費用がかかるから
5. どんなに補強しても、大地震にあえば被害は避けられないと思うから
6. 名古屋市に大きな地震が起こると思わないから
7. 借家だから
8. その他（具体的に　　）

問31. 今後 30 年以内に東南海地震の発生確率がほぼ 60%ということを知って、次のような受けとめ方をする人がいます。あなたは、それぞれに対して、賛成しますか、それとも反対しますか。あなたのお考えに近いものを**それぞれひとつずつ**選んでください。

	賛成	やや賛成	やや反対	反対
例）この地域に、いつかわからないが、大きな地震は必ず来る	1	2	3	4
1. 一般の人は発生確率と言われてもよくわからないから対策のとりようがない	1	2	3	4
2. 確率表示は分かりにくいところがあるにせよ、30 年以内でほぼ 60%という数値であるので、対策の必要なことが実感できる	1	2	3	4
3. 一般の人にとって、今後 30 年以内というのは長すぎるから対策のとりようがない	1	2	3	4
4. 30 年以内といった期間でなく、もっと短い期間で確率値が示されれば、対策が必要かどうかの判断に役立つ	1	2	3	4
5. 30 年以内の発生確率がほぼ 60%であれば、住んでいる住宅を耐震化するなどの対策は、建て替えの際に行えばよい	1	2	3	4
6. 30 年以内の発生確率がほぼ 60%であれば、地域社会がこの地震の対策に本気で取り組む必要はない	1	2	3	4

問32. あなたは地震の発生確率について、今後どのように発表すべきだと思いますか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 今まで通りの発表としてほしい
2. 確率だけでは切迫性がよく分からないので、分かりやすい表現を加えて欲しい
3. 確率だけでは切迫性がよく分からないので、切迫性のランク分けをして欲しい
4. あまり意味がないので発表する必要はない
5. その他（具体的に　　）
6. わからない

問33. この地震に対応するために行政が行った各種施策の中で、ご存知なものを**いくつでも**選んでください。

1. 名古屋市地域防災計画	2. 愛知県の被害想定
3. 名古屋市無料耐震診断	4. 地震マップ（名古屋市作成）

F1. あなたの性別についてお答えください。

1. 男性	2. 女性

F2. あなたの年齢は、次のうちどれにあてはまりますか。

1. 20 歳代	2. 30 歳代	3. 40 歳代	4. 50 歳代	5. 60 歳代以上

F3. あなたの職業はどれにあたりますか。

1. 農林漁業従業者	2. 自営業	3. 経営管理職	4. 専門技術職
5. 事務職	6. 労務職	7. 販売･サービス従業者	8. 自由業
9. 専業主婦	10. パートや自営業手伝いの主婦		11. 学生
12. 無職･年金生活者	13. その他（具体的に		）

F4. あなたは、ここにお住まいになってから何年になりますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 5 年未満	2. 5 年以上 10 年未満	3. 10 年以上 20 年未満
4. 20 年以上 30 年未満	5. 30 年以上	

F5. あなたがお住まいの家は、いつ頃立てられたものですか。増改築されている場合には、主な部分の建築年にあてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 昭和56年以前	2. 昭和57年以降

F6. あなたがお住まいの住宅の所有形態は次のどれにあたりますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 持ち家	2. 賃貸住宅
3. 社宅等	4. その他（ ）

F7. あなたがお住まいの住宅の形状は次のどれにあたりますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 一戸建て（平屋）	2. 一戸建て（2 階建て）	3. 一戸建て（3 階建て以上）
4. 集合住宅（平屋）	5. 集合住宅（2 階建て）	6. 集合住宅（3 階建て以上）

F8. あなたご自身は、これまでに大きな自然災害（地震や風水害、火山噴火等）で被害を受けたことがありますか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 地震の被害を受けたことがある	2. 洪水等の風水害の被害を受けたことがある
3. その他の災害で被害を受けたことがある（具体的に	）
4. 自然災害で被害を受けたことはない	

＜ご協力大変ありがとうございました＞

地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査
（松本市版）

文部科学省研究開発局地震・防災研究課
東京大学大学院情報学環　廣井研究室
東洋大学社会学部　田中研究室

調査日 ／ ／ ／　　SEQ

問1. あなたは近い将来、松本市に大地震の発生が切迫していると思いますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に切迫していると思う	2. かなり切迫していると思う
3. あまり切迫していないと思う	4. まったく切迫していないと思う

問2. あなたは近い将来、松本市に大きな被害を及ぼす大地震が起こるかもしれないという不安がありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に不安がある	2. かなり不安がある
3. あまり不安はない	4. まったく不安はない

問3. 次に、地震を起こす原因になる活断層についておたずねします。あなたは、活断層ということばを聞いたことがありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 聞いたことがあるし、活断層で繰り返し地震が発生することも知っている
2. 聞いたことはあるが、活断層で繰り返し地震が発生することは知らない
3. 聞いたことはない

問4. 地震調査研究推進本部（の地震調査委員会）は、地震に関する調査研究を推進するため、文部科学省に設置された政府の特別機関です。あなたは、この機関のことをご存知でしたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っている	2. 知らない

問5. 現在、地震調査研究推進本部（の地震調査委員会）では日本列島にある 98 の主要な活断層について、将来活断層がいつ活動するかを予測しています。あなたはこのことを知っていますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っている
2. 活断層の評価をしていることは知っていたが、地震調査研究推進本部（の地震調査委員会）が行っているとは知らなかった
3. 知らない

問6. あなたは、松本市の近くに糸魚川－静岡構造線断層帯（又は牛伏寺（ごふくじ）断層）があることをご存知ですか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っている	2. 知らない

問7. **（問 6 で「1」と答えた人におうかがいします）**

糸魚川－静岡構造線断層帯（又は牛伏寺断層）について、政府は、「今後 30 年以内に大地震が発生する確率は 14%」と発表しました。あなたは、このことをご存知でしたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っていた	2. 知らなかった

問8. **（問 7 で「1」と答えた人におうかがいします）**

では、あなたは、その情報をどちらからご入手されましたか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで読んだ	
2. 新聞で読んだ	3. テレビで見た又はラジオで聞いた
4. 本や雑誌で読んだ	
5. 地震調査研究推進本部や防災科学技術研究所のホームページで見た	
6. 友人･知人や家族から聞いた	7. その他（具体的に　　）

問9. あなたは「今後 30 年以内に大地震が発生する確率は 14%」という数字について、どのように思いますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に高い確率だと思う	2. かなり高い確率だと思う
3. あまり確率は高くないと思う	4. 非常に低い確率だと思う

問10. あなたは、「今後 30 年以内に大地震が発生する確率は 14%」という数字について、松本市に大きな被害を及ぼす大地震の発生が、どの程度切迫していると思いますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に切迫していると思う	2. かなり切迫していると思う
3. あまり切迫していないと思う	4. まったく切迫していないと思う

問11. あなたは「今後 30 年以内に大地震が発生する確率は 14%」という数字について、松本市に大きな被害を及ぼす大地震に対し、どの程度の不安を持つようになりましたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 以前よりずっと不安になった	2. 以前よりすこし不安が増えた
3. 以前より少し不安が減った	4. 以前よりずっと不安が減った

問12.　次に、確率論的地震動予測地図についておたずねします。実際の「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、お答えください。

あなたは、この「確率論的地震動予測地図」をご覧になったことがありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 見たことがある
2. そういう地図があることは知っていたが、見たことはなかった
3. 見たことはない

問13.　（問 12 で「1」と答えた人におうかがいします）

それは、どちらでご覧になりましたか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 市役所などの行政機関の広報誌やホームページで見た
2. 新聞で見た
3. テレビで見た
4. 本や雑誌で見た
5. 地震調査研究推進本部や防災科学技術研究所のホームページで見た
6. 友人･知人や家族に見せてもらった
7. その他（具体的に　　）

問14.　あなたはこの「確率論的地震動予測地図」をご覧になって、どう思いますか。あてはまるものを（1）（2）**それぞれひとつだけ**選んでください。

（1）危険性について

1. 自分の住んでいる地域が他の地域と比べどの程度危険であるかよく分かる
2. 図が大まかすぎて自分の住んでいる地域が他の地域と比べどの程度危険があるかよく分からない
3. 確率を使っているため、そもそも危険の程度を把握することは難しい
4. その他（具体的に　　）

（2）この地震動予測地図はわが家の防災対策を考える上で

1. 参考になる
2. 参考にならない

問15.　では、今後、この「確率論的地震動予測地図」を市民の防災意識を高めたり、家庭の防災対策を充実したりするうえで、どのようにすべきだと思いますか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 内容を正確に伝えていくには、専門家等による分かりやすい説明が必要である
2. 内容を正確に伝えていくには、さらに分かりやすい資料を作成する必要がある
3. 防災意識啓発のためには、確率の区分をよりきめ細かくした地図にするべきである
4. 防災意識啓発のためには、1km 四方の区分をよりきめ細かくした地図にするべきである
5. 市役所などの行政機関に行けば、だれでも、いつでも、もらえるようにするべきである
6. 国や地方公共団体がもっと広報すべきである
7. その他（具体的に　　）

問16.　**次に、強震動予測地図についておたずねします。<u>実際の「震源断層を特定した地震動予測地図」（糸魚川－静岡構造線断層帯）をご覧になって、お答えください。</u>**

あなたは、この「震源断層を特定した地震動予測地図」をご覧になったことがありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 見たことがある
2. そういう地図があることは知っていたが、見たことはなかった
3. 見たことはない

問17.　**（問 16 で「1」と答えた人におうかがいします）**

それは、どちらでご覧になりましたか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで見た	
2. 新聞で見た	3. テレビで見た
4. 本や雑誌で見た	
5. 地震調査研究推進本部や防災科学技術研究所のホームページで見た	
6. 友人･知人や家族に見せてもらった	7. その他（具体的に　　）

問18.　あなたは、これらの「震源断層を特定した地震動予測地図」と「確率論的地震動予測地図」について、その違いを理解できますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. よく理解できる	2. だいたい理解できる
3. あまり理解できない	4. まったく理解できない

問19.　あなたはこの「震源断層を特定した地震動予測地図」をご覧になって、どう思いますか。あてはまるものを（1）（2）**それぞれひとつだけ**選んでください。

（1）危険性について

1. 自分の住んでいる地域が他の地域と比べどの程度危険であるかよく分かる
2. 図が大まかすぎて自分の住んでいる地域が他の地域と比べどの程度危険があるかよく分からない
3. その他（具体的に　　）

（2）この地震動予測地図はわが家の防災対策を考える上で

1. 参考になる	2. 参考にならない

問20.　では、今後、この「震源断層を特定した地震動予測地図」を市民の防災意識を高めたり、家庭の防災対策を充実したりするうえで、どのようにすべきだと思いますか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 市町村境を表示する等もっと分かりやすくするべきだ
2. 内容を正確に伝えていくには、専門家等による分かりやすい説明が必要である
3. 内容を正確に伝えていくには、さらに分かりやすい資料を作成する必要がある
4. 市役所などの行政機関に行けば、だれでも、いつでも、もらえるようにするべきである
5. 国や地方公共団体がもっと広報すべきである
6. その他（具体的に　　）

問21. 次に、お宅の防災対策についておたずねします。政府は、糸魚川－静岡構造線断層帯（又は牛伏寺断層）について、「今後 30 年以内に大地震が発生する確率は 14%」と発表しました。あなたは、これらの発表を聞いて、地震が来る前にいろいろな防災対策をたてておく必要があると感じましたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に必要だと感じた	2. かなり必要だと感じた
3. あまり必要だと感じなかった	4. まったく必要だと感じなかった
5. そのような政府の発表を知らなかった	

問22. お宅ではこのような政府の発表が出る前には、どのような防災対策を行っていましたか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 家の中の家具を固定した	2. 家の中の物が落下しないような対策をした
3. 建物や塀などを補強･改修した	4. 消火用の水の汲み置きをした
5. 消火器を購入した	
6. スコップ･ノコギリ･かなづちなどの修理･工作用具を揃えた	
7. 非常持ち出し品を用意した	8. 食料や飲料水を用意した
9. 災害時に家族が落ち合う場所を決めた	10. 防災訓練にできるだけ参加するようにした
11. 地震保険に加入した	12. 避難所を確認した
13. 窓ガラスに飛散防止のためのフィルムを貼った	
14. 観音開きの戸棚が揺れで開かないようにした	
15. 耐震診断を行った	16. その他（具体的に　　）
17. とくに何もしていない	

問23. では、糸魚川－静岡構造線断層帯（又は牛伏寺断層）の危険性に関する政府の発表をきっかけにして、お宅ではどのような防災対策を行いましたか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 家の中の家具を固定した	2. 家の中の物が落下しないような対策をした
3. 建物や塀などを補強･改修した	4. 消火用の水の汲み置きをした
5. 消火器を購入した	
6. スコップ･ノコギリ･かなづちなどの修理･工作用具を揃えた	
7. 非常持ち出し品を用意した	8. 食料や飲料水を用意した
9. 災害時に家族が落ち合う場所を決めた	10. 防災訓練にできるだけ参加するようにした
11. 地震保険に加入した	12. 避難所を確認した
13. 窓ガラスに飛散防止のためのフィルムを貼った	
14. 観音開きの戸棚が揺れで開かないようにした	
15. 耐震診断を行った	16. その他（具体的に　　）
17. とくに何もしていない	

問24.　あなたは、市の実施する防災訓練に参加したことがありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. いつも参加している	2. 時々参加している
3. 参加したことはない	4. 防災訓練が実施されていることを知らない

問25.　あなたは、テレビや新聞で糸魚川－静岡構造線断層帯（牛伏寺断層帯を含む）に関するニュースのことを見たり読んだりしますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

（1）テレビで報道された場合、

1. よく見ている	2. 見ることはある
3. あまり見ることはない	4. ほとんど見ることはない

（2）新聞で報道されているのを目にした場合、

1. よく読む	2. 読むことはある
3. あまり読むことはない	4. ほとんど読むことはない

問26.　あなたは、糸魚川－静岡構造線断層帯に地震が発生した場合の被害想定を長野県が発表していることをご存知ですか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っている	2. 知らない

問27.　では、このような大地震が起こった場合、あなたの家は安全だと思いますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 非常に危険である	2. かなり危険である
3. ほぼ安全である	4. 安全である

問28.　お宅では、大地震に備えて、耐震診断をしたことがありますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. したことがある	2. していない

問29.　**（問 31 で「2」と答えた人におうかがいします）**

お宅で耐震診断をしない理由は何ですか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 診断するまでもなく、住んでいる家は地震に耐えるように造ってあるから
2. 診断するまでもなく、経過年数や構造から見て、安全でないことははっきりしているから
3. 耐震診断のやり方がわからないから
4. 手間がかかるから
5. 費用がかかるから
6. どんな構造の住宅でも、大地震にあえば被害は避けられないと思うから
7. 松本市に大きな地震が起こると思わないから
8. 借家だから
9. その他（具体的に　　）

問30.　では、お宅では、大地震に備えて、耐震補強をしていますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. している	2. していない

問31.　**（問 33 で「2」と答えた人におうかがいします）**

お宅で耐震補強をしない理由は何ですか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 補強するまでもなく、住んでいる家は地震に耐えるように造ってあるから
2. 耐震補強のやり方がわからないから
3. 手間がかかるから
4. 費用がかかるから
5. どんなに補強しても、大地震にあえば被害は避けられないと思うから
6. 松本市に大きな地震が起こると思わないから
7. 借家だから
8. その他（具体的に　　）

問32. 今後 30 年以内に糸魚川－静岡構造線断層帯（又は牛伏寺断層）で地震が発生する確率が 14%ということを知って、次のような受けとめ方をする人がいます。あなたは、それぞれに対して、賛成しますか、それとも反対しますか。あなたのお考えに近いものを**それぞれひとつずつ**選んでください。

	賛成	やや賛成	やや反対	反対
例）この地域に、いつかわからないが、大きな地震は必ず来る	1	2	3	4
1. 一般の人は発生確率と言われてもよくわからないから対策のとりようがない	1	2	3	4
2. 確率表示は分かりにくいところがあるにせよ、30 年以内で 14%という数値であるので、対策の必要なことは実感できる	1	2	3	4
3. 一般の人にとって、今後 30 年以内というのは長すぎるから対策のとりようがない	1	2	3	4
4. 30 年以内といった期間でなく、もっと短い期間で確率値が示されれば、対策が必要かどうかの判断に役立つ	1	2	3	4
5. 30 年以内の発生確率が 14%であれば、住んでいる住宅を耐震化するなどの対策は、建て替えの際に行えばよい	1	2	3	4
6. 30 年以内の発生確率が 14%であれば、地域社会がこの地震の対策に本気で取り組む必要はない	1	2	3	4

問33. 活断層は活動間隔が長い（約千年～数万年）ため、30 年以内の地震の発生確率はいくら時間が経過しても高い数値にはなりません。例えば、活動の間隔が千年程度の場合、30 年以内の発生確率は、20 数%より高くはなりません。また、活動の間隔が 1 万年程度の場合、30 年以内の発生確率は、3%未満の数値より高くはなりません。あなたはこのことをご存知でしたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 知っていた　　2. 知らなかった

問34. では、あなたは、このことを聞いて、どのように感じましたか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 特にこれまでと変わらない
2. 切迫していることがよく分かるようになった

問35.　活断層は活動間隔が長い（約千年～数万年）ため、30 年以内の地震の発生確率は高い数値にはなりません。あなたは活断層で発生する地震の発生確率について、今後どのように発表すべきだと思いますか。あてはまるものを**いくつでも**選んでください。

1. 今まで通りの発表としてほしい
2. 確率だけでは切迫性がよく分からないので、分かりやすい表現を加えて欲しい
3. 確率だけでは切迫性がよく分からないので、切迫性のランク分けをして欲しい
4. あまり意味がないので発表する必要はない
5. その他（具体的に　　）
6. わからない

問36.　この地震に対応するために行政が行った各種施策の中で、ご存知なものを**いくつでも**選んでください。

1. 松本市地域防災計画
2. 長野県の被害想定
3. 長野県木造住宅耐震診断士による無料耐震診断
4. 松本市防災マップ

F1. あなたの性別についてお答えください。

1. 男性	2. 女性

F2. あなたの年齢は、次のうちどれにあてはまりますか。

1. 20 歳代	2. 30 歳代	3. 40 歳代	4. 50 歳代	5. 60 歳代以上

F3. あなたの職業はどれにあたりますか。

1. 農林漁業従業者	2. 自営業	3. 経営管理職	4. 専門技術職
5. 事務職	6. 労務職	7. 販売･サービス従業者	8. 自由業
9. 専業主婦	10. パートや自営業手伝いの主婦		11. 学生
12. 無職･年金生活者	13. その他（具体的に		）

F4. あなたは、ここにお住まいになってから何年になりますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 5 年未満	2. 5 年以上 10 年未満	3. 10 年以上 20 年未満
4. 20 年以上 30 年未満	5. 30 年以上	

F5. あなたがお住まいの家は、いつ頃立てられたものですか。増改築されている場合には、主な部分の建築年にあてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 昭和56年以前	2. 昭和57年以降

F6. あなたがお住まいの住宅の所有形態は次のどれにあたりますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 持ち家	2. 賃貸住宅
3. 社宅等	4. その他（ ）

F7. あなたがお住まいの住宅の形状は次のどれにあたりますか。あてはまるものを**ひとつだけ**選んでください。

1. 一戸建て（平屋）	2. 一戸建て（2 階建て）	3. 一戸建て（3 階建て以上）
4. 集合住宅（平屋）	5. 集合住宅（2 階建て）	6. 集合住宅（3 階建て以上）

F8. あなたご自身は、これまでに大きな自然災害（地震や風水害、火山噴火等）で被害を受けたことがありますか。あてはまるものに**いくつでも**選んでください。

1. 地震の被害を受けたことがある	2. 洪水等の風水害の被害を受けたことがある
3. その他の災害で被害を受けたことがある（具体的に	）
4. 自然災害で被害を受けたことはない	

＜ご協力大変ありがとうございました＞

調査で用いた確率論的地震動予測地図と

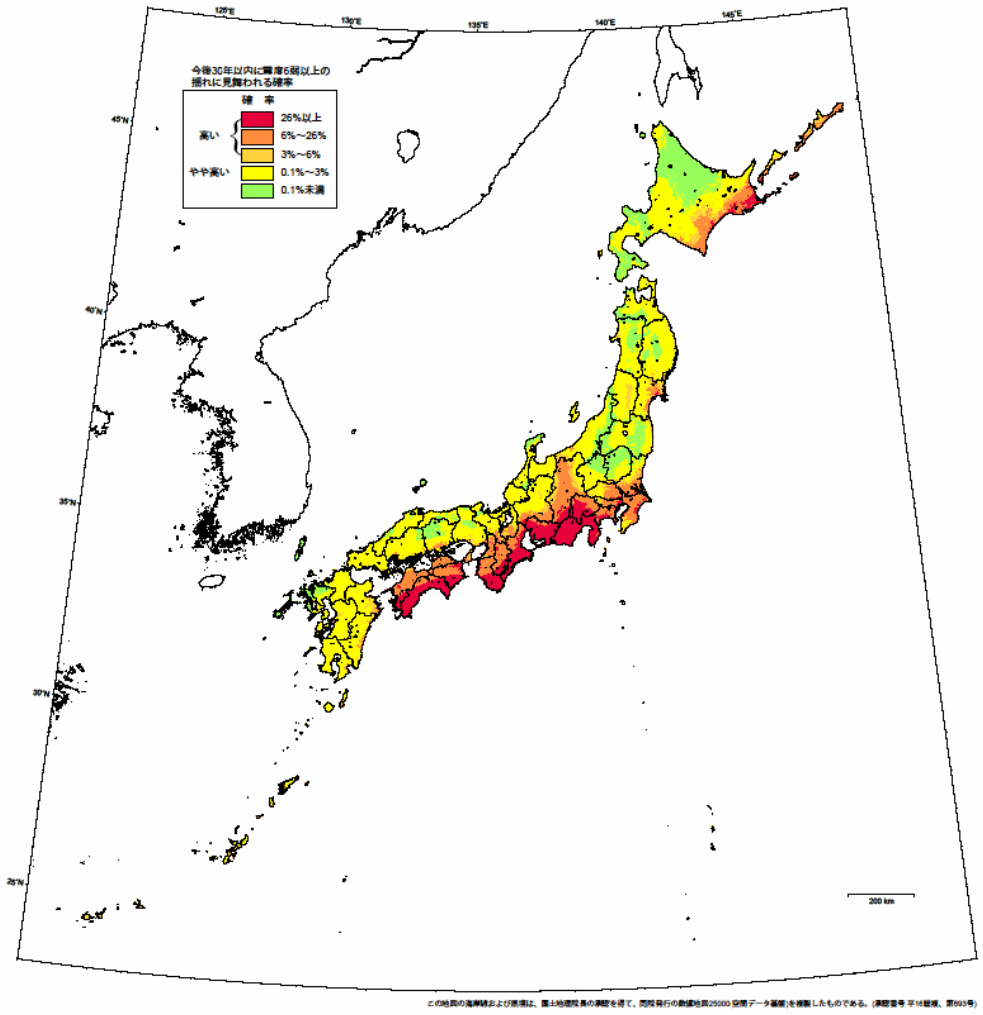
震源断層を特定した地震動予測地図

１. 確率論的地震動予測地図

確率論的地震動予測地図は、活断層（糸魚川－静岡構造線断層帯等）で発生する地震や海溝型地震（東南海地震等）といった日本に強い揺れをもたらす全ての地震を考慮し、将来強い揺れに見舞われる可能性を地図上に表したものです。

下の図は今後 30 年以内に震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率の分布図です。
松本市は、13.9%で全国の中でも強い揺れに見舞われる可能性の高い地域です。
名古屋市は、35.7%で全国の中でも強い揺れに見舞われる可能性の高い地域です。

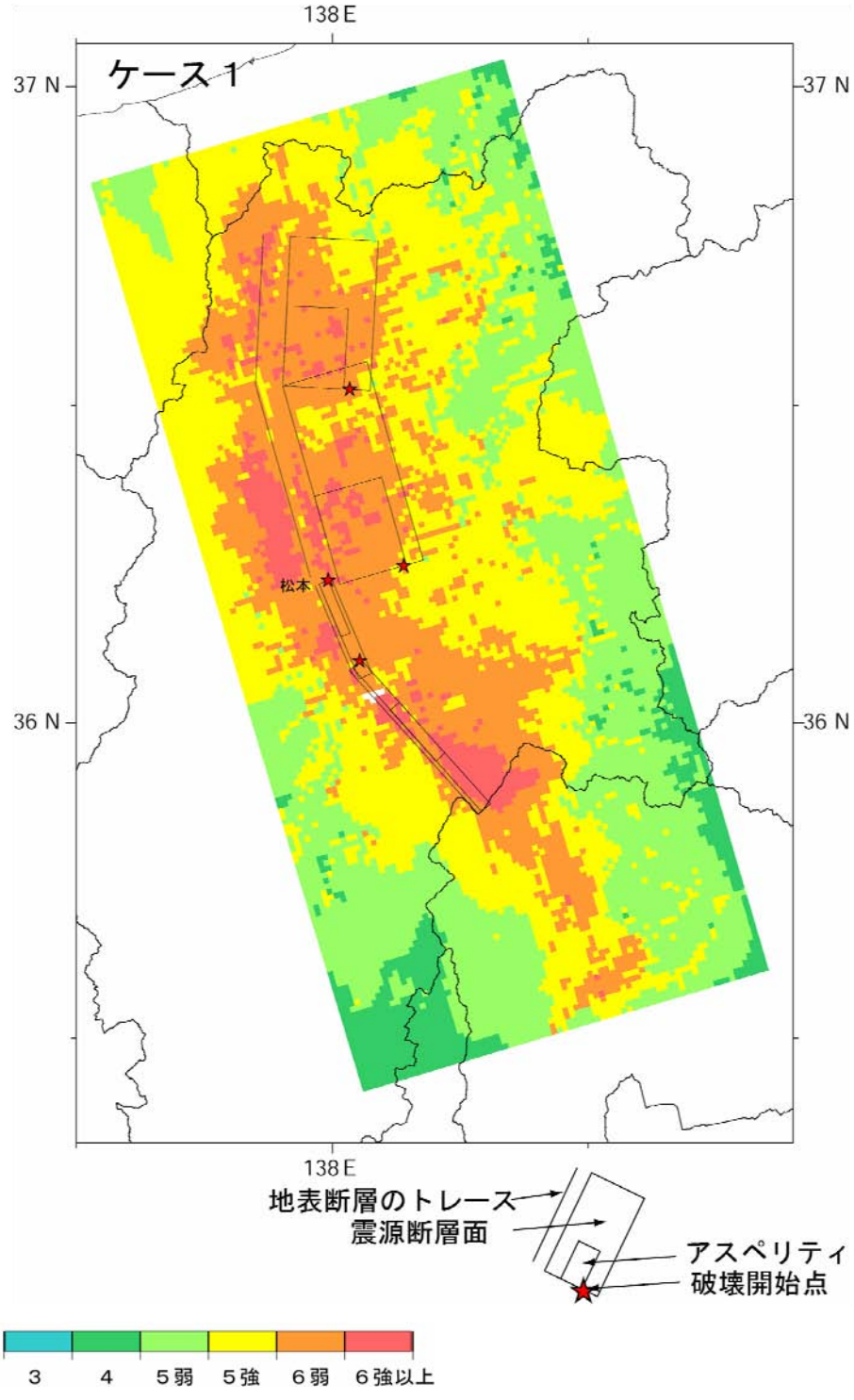
確率論的地震動予測地図



２．震源断層を特定した地震動予測地図の説明

震源断層を特定した地震動予測地図は、ある特定の地震が発生した時、地域がどの程度の揺れに見舞われるかを示した地図です。

下の図は糸魚川－静岡構造線断層帯（北部・中部）で地震が発生した場合に、断層帯の周辺地域がどの程度の強い揺れに見舞われるかを示した地図です。



地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査（名古屋市版）　　上段=件数、下段=%

問１．近い将来、名古屋市に大地震発生の切迫度

調査数	非常に切迫していると思う	かなり切迫していると思う	あまり切迫していないと思う	まったく切迫していないと思う
215	28	126	56	5
100.0	13.0	58.6	26.0	2.3

問２．近い将来、大被害を及ぼす大地震発生の不安度

調査数	非常に不安がある	かなり不安がある	あまり不安はない	まったく不安はない
215	48	113	51	3
100.0	22.3	52.6	23.7	1.4

問３．活断層という言葉の認知度

調査数	聞いた事があり、活断層で繰り返し地震が発生する事も知っている	聞いた事はあるが、活断層で繰り返し地震が発生する事は知らない	聞いたことはない
215	153	52	10
100.0	71.2	24.2	4.7

問４．地震調査研究推進本部の認知

調査数	知っている	知らない
215	37	178
100.0	17.2	82.8

問５．地震調査研究推進本部での活断層の活動予測の認知度

調査数	知っている	知っていたが、地震調査研究推進本部が行っていると知らなかった	知らない
215	24	106	85
100.0	11.2	49.3	39.5

問６．知っている地震

調査数	東海地震	東南海地震	愛知県周辺にある活断層の地震	ひとつも知らない
215	178	167	41	8
100.0	82.8	77.7	19.1	3.7

問７．政府の東南海地震発表の認知

調査数	知っていた	知らなかった
215	130	85
100.0	60.5	39.5

問８．東南海地震の政府発表の認知経路

調査数	市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで読んだ	新聞で読んだ	テレビで見た又はラジオで聞いた	本や雑誌で読んだ	地震調査研究推進本部や防災科学技術研究所のホームページで見た	友人・知人や家族から聞いた	その他
130	17	69	110	12	2	11	1
100.0	13.1	53.1	84.6	9.2	1.5	8.5	0.8

問９．東南海地震発生の確率

調査数	非常に高い確率だと思う	かなり高い確率だと思う	あまり確率は高くないと思う	非常に低い確率だと思う
215	46	149	17	3
100.0	21.4	69.3	7.9	1.4

問１０．政府発表後の大地震発生の切迫度

調査数	非常に切迫していると思う	かなり切迫していると思う	あまり切迫していないと思う	まったく切迫していないと思う
215	30	142	41	2
100.0	14.0	66.0	19.1	0.9

問１１．政府発表後の大地震発生の不安度

調査数	以前よりずっと不安になった	以前よりすこし不安が増えた	以前より少し不安が減った	以前よりずっと不安が減った	無回答
215	68	140	4	2	1
100.0	31.6	65.1	1.9	0.9	0.5

問１２，内閣総理大臣の強化地域

調査数	知っていた	知らなかった
215	99	116
100.0	46.0	54.0

問13．東海地震予測

調査数	８６％を聞いて、あらためていつ起きてもおかしくないと実感した	いつ起こってもおかしくないならば発生確率８６％は低いと感じた
215	184	31
100.0	85.6	14.4

問14．東南海地震と東海地震の連動性の認知

調査数	知っていた	知らなかった
215	111	104
100.0	51.6	48.4

問１５．活断層の認識

調査数	活断層は地震発生の確率は低いが、局地的に大きな被害を出す	活断層は地震発生確率が低いので、海溝型地震だけ考えている	無回答
215	191	21	3
100.0	88.8	9.8	1.4

問１６．「確率論的地震動予測地図」の認知

調査数	見たことがある	そういう地図があることは知っていたが、見たことはなかった	見たことはない
215	82	37	96
100.0	38.1	17.2	44.7

問１７．「確率論的地震動予測地図」の閲覧場所

調査数	市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで見た	新聞で見た	テレビで見た	本や雑誌で見た	地震調査研究推進本部や防災科学技術研究所のホームページで見た	友人・知人や家族に見せてもらった	その他
82	15	39	51	14	－	1	4
100.0	18.3	47.6	62.2	17.1	－	1.2	4.9

地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査（名古屋市版）　　上段=件数、下段=%

問１８．（１）「確率論的地震動予測地図」を閲覧での危険度

調査数	自分の住む地域が他の地域と比べどの程度危険かよく分かる	図が大まかで自分の住む地域がどの程度危険かよく分からない	確率なので、そもそも危険の程度を把握することは難しい	その他
215	147	37	30	1
100.0	68.4	17.2	14.0	0.5

問１８．（２）防災対策上、地震動予測地図の参考度

調査数	参考になる	参考にならない
215	145	70
100.0	67.4	32.6

問１９．今後の「確率論的地震動予測地図」活用方法

調査数	内容を正確に伝えるには、専門家等の分かりやすい説明が必要だ	内容を正確に伝えるには、より分かりやすい資料作成が必要である	確率の区分をよりきめ細かくした地図にするべきである	1km四方の区分をよりきめ細かくした地図にするべきである	行政機関に行けば、だれでも、いつでも、もらえるようにするべき	国や地方公共団体がもっと広報すべきである	その他
215	93	112	80	56	69	119	14
100.0	43.3	52.1	37.2	26.0	32.1	55.3	6.5

問２０．政府発表後の防災対策必要度

調査数	非常に必要だと感じた	かなり必要だと感じた	あまり必要だと感じなかった	まったく必要だと感じなかった	そのような政府の発表を知らなかった
215	66	107	24	2	16
100.0	30.7	49.8	11.2	0.9	7.4

問２１．政府の発表前に行なっていた防災対策

調査数	家の中の家具を固定した	家の中の物が落下しないような対策をした	建物や塀などを補強・改修した	消火用の水の汲み置きをした	消火器を購入した	スコップ・ノコギリ・かなづちなどの修理・工作用具を揃えた	非常持ち出し品を用意した	食料や飲料水を用意した	災害時に家族が落ち合う場所を決めた	防災訓練にできるだけ参加するようにした	地震保険に加入した	避難所を確認した	窓ガラスに飛散防止のためのフィルムを貼った	観音開きの戸棚が揺れで開かないようにした	耐震診断を行った	その他	とくに何もしていない
215	41	21	4	10	29	14	63	65	30	8	30	49	7	10	2	5	74
100.0	19.1	9.8	1.9	4.7	13.5	6.5	29.3	30.2	14.0	3.7	14.0	22.8	3.3	4.7	0.9	2.3	34.4

問２２．発表をきっかけに行なった防災対策

調査数	家の中の家具を固定した	家の中の物が落下しないような対策をした	建物や塀などを補強・改修した	消火用の水の汲み置きをした	消火器を購入した	スコップ・ノコギリ・かなづちなどの修理・工作用具を揃えた	非常持ち出し品を用意した	食料や飲料水を用意した	災害時に家族が落ち合う場所を決めた	防災訓練にできるだけ参加するようにした	地震保険に加入した	避難所を確認した	窓ガラスに飛散防止のためのフィルムを貼った	観音開きの戸棚が揺れで開かないようにした	耐震診断を行った	その他	とくに何もしていない	無回答
215	31	24	4	9	14	12	51	60	30	9	24	63	13	10	8	5	80	1
100.0	14.4	11.2	1.9	4.2	6.5	5.6	23.7	27.9	14.0	4.2	11.2	29.3	6.0	4.7	3.7	2.3	37.2	0.5

問２３．市の実施する防災訓練への参加状況

調査数	いつも参加している	時々参加している	参加したことはない	防災訓練が実施されていることを知らない
215	8	35	143	29
100.0	3.7	16.3	66.5	13.5

問２４．（１）テレビでの東南海地震の報道の認知

調査数	よく見ている	見ることはある	あまり見ることはない	ほとんど見ることはない
215	64	115	29	7
100.0	29.8	53.5	13.5	3.3

問２４．（２）新聞での東南海地震の報道の認知

調査数	よく読む	読むことはある	あまり読むことはない	ほとんど読むことはない
215	63	112	29	11
100.0	29.3	52.1	13.5	5.1

問25. 愛知県が発表する地震の被害想定の認知

調査数	知っている	知らない
215	99	116
100.0	46.0	54.0

問２６．大地震が起こった場合の居住住宅の安全性

調査数	非常に危険である	かなり危険である	ほぼ安全である	安全である	無回答
215	31	118	57	6	3
100.0	14.4	54.9	26.5	2.8	1.4

地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査（名古屋市版）　　上段=件数、下段=%

問２７．耐震診断の体験

調査数	したことがある	していない
215	11	204
100.0	5.1	94.9

問２８．耐震診断をしない理由

調査数	診断するまでもなく、地震に耐えるように造ってあるから	診断するまでもなく、安全でないことははっきりしているから	耐震診断のやり方がわからないから	手間がかかるから	費用がかかるから	どんな構造住宅でも、大地震にあえば被害は避けられないから	名古屋市に大きな地震が起こると思わないから	借家だから	その他	無回答
204	40	40	14	34	55	61	2	46	21	1
100.0	19.6	19.6	6.9	16.7	27.0	29.9	1.0	22.5	10.3	0.5

問２９．大地震に備えた耐震補強対策

調査数	している	していない
215	23	192
100.0	10.7	89.3

問３０．耐震補強をしない理由

調査数	補強するまでもなく、地震に耐えるように造ってあるから	耐震補強のやり方がわからないから	手間がかかるから	費用がかかるから	どんなに補強しても、大地震にあえば被害は避けられないから	名古屋市に大きな地震が起こると思わないから	借家だから	その他	無回答
192	30	20	31	67	69	4	45	22	3
100.0	15.6	10.4	16.1	34.9	35.9	2.1	23.4	11.5	1.6

地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査（名古屋市版）　　上段=件数、下段=%

問３１．「東南海地震の発生確率６０%」に対する考え

	調査数	賛成	やや賛成	やや反対	反対
（1）発生確率と言われてもよくわからないから対策がとれない	215	47	90	44	34
	100.0	21.9	41.9	20.5	15.8
（2）確率は６０%であるので、対策が必要だと実感できる	215	93	108	11	3
	100.0	43.3	50.2	5.1	1.4
（3）今後３０年以内というのは長すぎるから対策がとれない	215	27	85	59	44
	100.0	12.6	39.5	27.4	20.5
（4）もっと短い期間で確率値が示されれば、判断に役立つ	215	130	72	9	4
	100.0	60.5	33.5	4.2	1.9
（5）住宅を耐震化する等の対策は、建て替えの際に行えばよい	215	29	59	86	41
	100.0	13.5	27.4	40.0	19.1
（6）地域社会がこの地震の対策に本気で取り組む必要はない	215	7	15	70	123
	100.0	3.3	7.0	32.6	57.2

地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート調査（名古屋市版）　　上段=件数、下段=%

問３２．今後の地震発生確率の発表内容

調査数	今まで通りの発表としてほしい	確率だけでなく、分かりやすい表現を加えて欲しい	確率だけでなく、切迫性のランク分けをして欲しい	あまり意味がないので発表する必要はない	その他	わからない
215	63	143	94	4	6	7
100.0	29.3	66.5	43.7	1.9	2.8	3.3

問３３．行政が行った各種施策の認知

調査数	名古屋市地域防災計画	愛知県の被害想定	名古屋市無料耐震診断	地震マップ（名古屋市作成）	無回答
215	67	57	84	148	30
100.0	31.2	26.5	39.1	68.8	14.0

Ｆ１．性別

調査数	男性	女性
215	104	111
100.0	48.4	51.6

Ｆ２．年齢

調査数	２０歳代	３０歳代	４０歳代	５０歳代	６０歳代以上
215	27	35	40	61	52
100.0	12.6	16.3	18.6	28.4	24.2

Ｆ３．職業

調査数	農林漁業従業者	自営業	経営管理職	専門技術職	事務職	労務職	販売・サービス従業者	自由業	専業主婦	パートや自営業手伝いの主婦	学生	無職・年金生活者	その他
215	－	27	16	14	23	16	20	－	38	30	7	22	2
100.0	－	12.6	7.4	6.5	10.7	7.4	9.3	－	17.7	14.0	3.3	10.2	0.9

Ｆ４．現在の住宅の居住年数

調査数	５年未満	５年以上１０年未満	１０年以上２０年未満	２０年以上３０年未満	３０年以上
215	40	34	41	48	52
100.0	18.6	15.8	19.1	22.3	24.2

Ｆ５．現在の住宅の建築年

調査数	昭和５６年以前	昭和５７年以降	無回答
215	89	124	2
100.0	41.4	57.7	0.9

Ｆ６．現在の住宅の所有形態

調査数	持ち家	賃貸住宅	社宅等	その他
215	151	61	3	－
100.0	70.2	28.4	1.4	－

Ｆ７．現在の住宅の形状

調査数	一戸建て（平屋）	一戸建て（２階建て）	一戸建て（３階建て以上）	集合住宅（平屋）	集合住宅（２階建て）	集合住宅（３階建て以上）
215	26	85	30	－	9	65
100.0	12.1	39.5	14.0	－	4.2	30.2

Ｆ８．大きな自然災害の遭遇経験

調査数	地震の被害を受けたことがある	洪水等の風水害の被害を受けたことがある	その他の災害で被害を受けたことがある	自然災害で被害を受けたことはない
215	5	57	3	153
100.0	2.3	26.5	1.4	71.2

地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート（松本市版）

問１．近い将来、松本市に大地震の発生の切迫度

調査数	非常に切迫していると思う	かなり切迫していると思う	あまり切迫していないと思う	まったく切迫していないと思う
203	11	105	84	3
100.0	5.4	51.7	41.4	1.5

問２．近い将来、大被害を及ぼす大地震発生の不安度

調査数	非常に不安がある	かなり不安がある	あまり不安はない	まったく不安はない
203	24	97	79	3
100.0	11.8	47.8	38.9	1.5

問３．活断層という言葉の認知度

調査数	聞いた事があり、活断層で繰り返し地震が発生する事も知っている	聞いた事はあるが、活断層で繰り返し地震が発生する事は知らない	聞いたことはない	無回答
203	138	60	4	1
100.0	68.0	29.6	2.0	0.5

問４．地震調査研究推進本部の認知

調査数	知っている	知らない
203	38	165
100.0	18.7	81.3

問５．地震調査研究推進本部での活断層の活動予測の認知

調査数	知っている	知っていたが、地震調査研究推進本部が行っていると知らなかった	知らない
203	28	103	72
100.0	13.8	50.7	35.5

問６．糸魚川－静岡構造線断層帯

調査数	知っている	知らない
203	185	18
100.0	91.1	8.9

問７．政府の牛伏寺断層発表の認知

調査数	知っていた	知らなかった
185	100	85
100.0	54.1	45.9

問８．牛伏寺断層についての認知経路

調査数	市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで読んだ	新聞で読んだ	テレビで見た又はラジオで聞いた	本や雑誌で読んだ	地震調査研究推進本部や防災科学技術研究所のホームページで見た	友人・知人や家族から聞いた	その他
100	34	54	56	14	3	24	5
100.0	34.0	54.0	56.0	14.0	3.0	24.0	5.0

問９．発表された地震の発生確率

調査数	非常に高い確率だと思う	かなり高い確率だと思う	あまり確率は高くないと思う	非常に低い確率だと思う
203	24	105	71	3
100.0	11.8	51.7	35.0	1.5

問１０．政府発表後の大地震の発生の切迫度

調査数	非常に切迫していると思う	かなり切迫していると思う	あまり切迫していないと思う	まったく切迫していないと思う
203	15	109	77	2
100.0	7.4	53.7	37.9	1.0

問１１．政府発表後の大地震発生の不安度

調査数	以前よりずっと不安になった	以前よりすこし不安が増えた	以前より少し不安が減った	以前よりずっと不安が減った	無回答
203	43	130	28	1	1
100.0	21.2	64.0	13.8	0.5	0.5

問１２．「確率論的地震動予測地図」の認知

調査数	見たことがある	そういう地図があることは知っていたが、見たことはなかった	見たことはない
203	51	46	106
100.0	25.1	22.7	52.2

問１３．「確率論的地震動予測地図」の閲覧場所

調査数	市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで見た	新聞で見た	テレビで見た	本や雑誌で見た	地震調査研究推進本部や防災科学技術研究所のホームページで見た	友人・知人や家族に見せてもらった	その他
51	23	25	23	8	－	2	1
100.0	45.1	49.0	45.1	15.7	－	3.9	2.0

問１４．（１）地図を閲覧した上での危険度

調査数	自分の住む地域が他の地域と比べどの程度危険かよく分かる	図が大まかで自分の住む地域がどの程度危険かよく分からない	確率なので、そもそも危険の程度を把握することは難しい	その他
203	120	50	26	7
100.0	59.1	24.6	12.8	3.4

問14.(2)防災対策上、地震動予測地図の参考度

調査数	参考になる	参考にならない
203	149	54
100.0	73.4	26.6

問１５．今後の「確率論的地震動予測地図」活用方法

調査数	内容を正確に伝えるには、専門家等の分かりやすい説明が必要だ	内容を正確に伝えるには、より分かりやすい資料作成が必要である	確率の区分をよりきめ細かくした地図にするべきである	１ｋｍ四方の区分をよりきめ細かくした地図にするべきである	行政機関に行けば、だれでも、いつでも、もらえるようにするべき	国や地方公共団体がもっと広報すべきである	その他	無回答
203	91	110	67	49	86	102	16	1
100.0	44.8	54.2	33.0	24.1	42.4	50.2	7.9	0.5

問１６．「震源断層を特定した地震動予測地図」の認知

調査数	見たことがある	そういう地図があることは知っていたが、見たことはなかった	見たことはない
203	43	44	116
100.0	21.2	21.7	57.1

問１７．「震源断層を特定した地震動予測地図」の閲覧場所

調査数	市役所などの行政機関の広報誌やホームページなどで見た	新聞で見た	テレビで見た	本や雑誌で見た	地震調査研究推進本部や防災科学技術研究所のホームページで見た	友人・知人や家族に見せてもらった	その他	無回答
43	16	22	12	9	－	3	1	2
100.0	37.2	51.2	27.9	20.9	－	7.0	2.3	4.7

問１８．震源断層を特定した地図と確率論的地図の違い

調査数	よく理解できる	だいたい理解できる	あまり理解できない	まったく理解できない
203	7	111	66	19
100.0	3.4	54.7	32.5	9.4

問19.(1)「震源断層を特定した地震動予測地図」での危険性

調査数	自分の住む地域が他の地域と比べどの程度危険かよく分かる	図が大まかで自分の住む地域がどの程度危険かよく分からない	その他
203	119	79	5
100.0	58.6	38.9	2.5

問１９．（２）地震動予測地図の防災対策上での参考度

調査数	参考になる	参考にならない	無回答
203	143	59	1
100.0	70.4	29.1	0.5

問２０．今後の「震源断層を特定した地震動予測地図」活用方法

調査数	市町村境を表示する等もっと分かりやすくすべきだ	内容を正確に伝えるには、専門家等の分かりやすい説明が必要だ	内容を正確に伝えるには、より分かりやすい資料作成が必要である	行政機関に行けば、だれでも、いつでも、もらえるようにするべき	国や地方公共団体がもっと広報すべきである	その他
203	108	88	115	77	107	9
100.0	53.2	43.3	56.7	37.9	52.7	4.4

問２１．政府発表後の防災対策必要度

調査数	非常に必要だと感じた	かなり必要だと感じた	あまり必要だと感じなかった	まったく必要だと感じなかった	そのような政府の発表を知らなかった
203	30	125	30	2	16
100.0	14.8	61.6	14.8	1.0	7.9

地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート(松本市版)

問２２．政府の発表前に行なっていた防災対策

調査数	家の中の家具を固定した	家の中の物が落下しないような対策をした	建物や塀などを補強・改修した	消火用の水の汲み置きをした	消火器を購入した	スコップ・ノコギリ・かなづちなどの修理・工作用具を揃えた	非常持ち出し品を用意した	食料や飲料水を用意した	災害時に家族が落ち合う場所を決めた	防災訓練にできるだけ参加するようにした	地震保険に加入した	避難所を確認した	窓ガラスに飛散防止のためのフィルムを貼った	観音開きの戸棚が揺れで開かないようにした	耐震診断を行った	その他	とくに何もしていない	無回答
203	23	18	5	7	27	16	33	37	16	15	25	46	3	3	2	7	91	1
100.0	11.3	8.9	2.5	3.4	13.3	7.9	16.3	18.2	7.9	7.4	12.3	22.7	1.5	1.5	1.0	3.4	44.8	0.5

問２３．発表をきっかけに行なった防災対策

調査数	家の中の家具を固定した	家の中の物が落下しないような対策をした	建物や塀などを補強・改修した	消火用の水の汲み置きをした	消火器を購入した	スコップ・ノコギリ・かなづちなどの修理・工作用具を揃えた	非常持ち出し品を用意した	食料や飲料水を用意した	災害時に家族が落ち合う場所を決めた	防災訓練にできるだけ参加するようにした	地震保険に加入した	避難所を確認した	窓ガラスに飛散防止のためのフィルムを貼った	観音開きの戸棚が揺れで開かないようにした	耐震診断を行った	その他	とくに何もしていない
203	20	23	3	7	17	12	32	42	20	12	19	47	3	4	1	4	101
100.0	9.9	11.3	1.5	3.4	8.4	5.9	15.8	20.7	9.9	5.9	9.4	23.2	1.5	2.0	0.5	2.0	49.8

問２４．市の実施する防災訓練への参加状況

調査数	いつも参加している	時々参加している	参加したことはない	防災訓練が実施されていることを知らない
203	9	37	127	30
100.0	4.4	18.2	62.6	14.8

問２５．（1）テレビでの糸魚川静岡構造線断層帯の報道認知

調査数	よく見ている	見ることはある	あまり見ることはない	ほとんど見ることはない
203	35	95	46	27
100.0	17.2	46.8	22.7	13.3

問２５．（2）新聞での糸魚川－静岡構造線断層帯の報道認知

調査数	よく読む	読むことはある	あまり読むことはない	ほとんど読むことはない
203	58	94	34	17
100.0	28.6	46.3	16.7	8.4

問26．長野県が発表している地震の被害想定の認知

調査数	知っている	知らない
203	60	143
100.0	29.6	70.4

問２７．大地震が起こった場合の居住住宅の安全性

調査数	非常に危険である	かなり危険である	ほぼ安全である	安全である	無回答
203	41	119	41	1	1
100.0	20.2	58.6	20.2	0.5	0.5

地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート（松本市版）

問２８．耐震診断の体験

調査数	したことがある	していない
203	8	195
100.0	3.9	96.1

問２９．耐震診断をしない理由

調査数	診断するまでもなく、地震に耐えるように造ってあるから	診断するまでもなく、安全でないことははっきりしているから	耐震診断のやり方がわからないから	手間がかかるから	費用がかかるから	どんな構造住宅でも、大地震にあえば被害は避けられないから	松本市に大きな地震が起こると思わないから	借家だから	その他	無回答
195	28	30	46	46	66	55	6	47	11	3
100.0	14.4	15.4	23.6	23.6	33.8	28.2	3.1	24.1	5.6	1.5

問３０．大地震に備えた耐震補強対策

調査数	している	していない	無回答
203	10	192	1
100.0	4.9	94.6	0.5

問３１．耐震補強をしない理由

調査数	補強するまでもなく、地震に耐えるように造ってあるから	耐震補強のやり方がわからないから	手間がかかるから	費用がかかるから	どんなに補強しても、大地震にあえば被害は避けられないから	松本市に大きな地震が起こると思わないから	借家だから	その他	無回答
192	26	38	48	74	63	4	48	18	2
100.0	13.5	19.8	25.0	38.5	32.8	2.1	25.0	9.4	1.0

地震調査研究推進本部の活動に関するアンケート(松本市版)

問３２．「今後３０年以内の地震発生確率が14%」に対する考え

	調査数	賛成	やや賛成	やや反対	反対	無回答
（1）発生確率と言われてもよくわからないから対策がとれない	203	56	92	34	21	－
	100.0	27.6	45.3	16.7	10.3	－
（2）確率は１４％であるので、対策が必要だと実感できる	203	82	94	21	6	－
	100.0	40.4	46.3	10.3	3.0	－
（3）今後３０年以内というのは長すぎるから対策がとれない	203	30	78	74	21	－
	100.0	14.8	38.4	36.5	10.3	－
（4）もっと短い期間で確率値が示されれば、判断に役立つ	203	106	81	8	7	1
	100.0	52.2	39.9	3.9	3.4	0.5
（5）住宅を耐震化する等の対策は、建て替えの際に行えばよい	203	21	75	74	33	－
	100.0	10.3	36.9	36.5	16.3	－
（6）地域社会がこの地震の対策に本気で取り組む必要はない	203	5	22	68	108	－
	100.0	2.5	10.8	33.5	53.2	－

問33. 活断層の地震発生確率が低い理由の認知

調査数	知っていた	知らなかった
203	13	190
100.0	6.4	93.6

問３４．理由を知って感じたこと

調査数	特にこれまでと変わらない	切迫していることがよく分かるようになった	無回答
203	132	70	1
100.0	65.0	34.5	0.5

問３５．今後の地震発生確率の発表内容

調査数	今まで通りの発表としてほしい	確率だけでなく、分かりやすい表現を加えて欲しい	確率だけでなく、切迫性のランク分けをして欲しい	あまり意味がないので発表する必要はない	その他	わからない
203	41	137	93	6	4	18
100.0	20.2	67.5	45.8	3.0	2.0	8.9

問３６．行政が行った各種施策の認知

調査数	松本市地域防災計画	長野県の被害想定	長野県木造住宅耐震診断士による無料耐震診断	松本市防災マップ	無回答
203	82	34	40	117	44
100.0	40.4	16.7	19.7	57.6	21.7

Ｆ１．性別

調査数	男性	女性
203	126	77
100.0	62.1	37.9

Ｆ２．年齢

調査数	２０歳代	３０歳代	４０歳代	５０歳代	６０歳代以上
203	16	48	53	48	38
100.0	7.9	23.6	26.1	23.6	18.7

Ｆ３．職業

調査数	農林漁業従業者	自営業	経営管理職	専門技術職	事務職	労務職	販売・サービス従業者	自由業	専業主婦	パートや自営業手伝いの主婦	学生	無職・年金生活者	その他	無回答
203	4	21	5	29	19	16	33	2	26	24	1	16	6	1
100.0	2.0	10.3	2.5	14.3	9.4	7.9	16.3	1.0	12.8	11.8	0.5	7.9	3.0	0.5

Ｆ４．現在の住宅の居住年数

調査数	５年未満	５年以上１０年未満	１０年以上２０年未満	２０年以上３０年未満	３０年以上
203	37	34	48	28	56
100.0	18.2	16.7	23.6	13.8	27.6

Ｆ５．現在の住宅の建築年

調査数	昭和５６年以前	昭和５７年以降	無回答
203	74	128	1
100.0	36.5	63.1	0.5

Ｆ６．現在の住宅の所有形態

調査数	持ち家	賃貸住宅	社宅等	その他
203	147	50	6	－
100.0	72.4	24.6	3.0	－

Ｆ７．現在の住宅の形状

調査数	一戸建て（平屋）	一戸建て（２階建て）	一戸建て（３階建て以上）	集合住宅（平屋）	集合住宅（２階建て）	集合住宅（３階建て以上）
203	18	132	9	2	23	19
100.0	8.9	65.0	4.4	1.0	11.3	9.4

Ｆ８．大きな自然災害の遭遇経験

調査数	地震の被害を受けたことがある	洪水等の風水害の被害を受けたことがある	その他の災害で被害を受けたことがある	自然災害で被害を受けたことはない	無回答
203	7	17	7	171	1
100.0	3.4	8.4	3.4	84.2	0.5

抽出方法について

サンプル数：各自治体　350 名
地点標本数：各 14 名（25 地点）
使用する名簿：選挙人名簿
抽出方法：二段無作為抽出（第一次抽出単位を「町丁・字」（地点）とし、第二次抽出単位を「個人」（対象者）とした）

（1）地点抽出　：各町丁・字の人口規模が比例配分されるように、地点標本数から設定された 25 地点（町丁・字）を無作為に等間隔抽出した。（等間隔抽出するためのインターバル（抽出間隔）の算出は、対象となる市の全人口を地点数 25 で除した数値とした。公表されている対象市の各町丁目別の人口一覧表を基に、当該インターバルを使い調査地点となる「町丁・字」の抽出をおこなった。）

（2）対象者抽出：第一次抽出で選定した 25 地点の各町丁・字から、選挙人名簿を基に 14 名を無作為に抽出。